

# 地域とともに歩む 公認会計士

～ 地域社会の未来に向けた課題解決にチャレンジ～





## 『会計・監査ジャーナル』 別冊の発刊にあたって

てつか まさひこ  
日本公認会計士協会会長 **手塚 正彦**

このたび、『会計・監査ジャーナル』別冊の第3号を発刊いたしました。当協会は、「地域活性化」を重要な課題の1つに掲げており、その取組の一環として、昨年8月に、「SDGsへの公認会計士の貢献」をテーマに別冊第1号を発刊し、様々な地域、分野で活躍する公認会計士9名をご紹介しました。今回は、再び地域に焦点を当てて、当協会が組織する全国16の地域会についてご紹介します。

我が国は、少子化と高齢化による総人口の減少と生産年齢人口の急減に加えて、東京一極集中による地方の人口減を背景に、地方での労働力不足や経営者の後継者不足等の深刻な社会課題に直面しています。また、大都市圏においては、人口集中がもたらす問題が深刻化しており、現在はそれへの対応に追われていますが、すでに少子化・高齢化の問題は顕在化しており、遠くない将来には人口減少に転じ、新たな課題に直面することが確実です。地方であるか大都市圏であるかに拘わらず、国民全員で力を合わせて問題の解決に取り組んでいかなければなりません。

このような状況において、約1年半に及ぶコロナ禍は、我が国における地域の社会活動や経済活動に大きな打撃を与えています。しかしながら、コロナ禍を契機として、テレワークの促進、副業・兼業の容認、ワーク・ライフバランスを維持する就業環境の整備などが進み、人の暮らし方、働き方、企業のビジネスの在り方に大きな変革をもたらすきっかけにもなっています。事業者や就業者にとってこれまで常識であった働く場所や時間の制約が

著しく緩和されることが期待され、このことは、地方創生・地域活性化を促進する大きなチャンスととらえることもできると考えます。

地域会の活動をリードする地域会会長をはじめとする地域で活動する公認会計士たちは、これまで、幅広い専門性と地域社会の維持・発展に貢献したいという強い意欲を持って、地域とともに歩み続けて来ました。地域会は、地域社会に貢献することを重要な事業と位置づけ、人と人との結びつきを大切にしたい地域活性化のための様々な取組を行っています。そして、コロナ禍を経験した今、地域を元気にすることによって、日本の再興にこれまで以上に貢献したいという思いを強くしています。

本誌は、地域会の活動を紹介することを通じて、公認会計士が、上場会社や大企業だけでなく、地域の中小企業や地方自治体・非営利法人・教育機関等と様々な形で関り、地域の社会や経済の維持・発展のために汗を流していることを知っていただくために発刊いたしました。会員・準会員以外の読者の皆様には、公認会計士が、地域が抱える課題を解決する一員として活動していることと、そして、その活動領域が極めて多岐にわたることを知っていただき、これまで以上に公認会計士を活用していただきたいと思います。会員・準会員の読者の皆様には、地域コミュニティの一員である地域会活動と、地域に根差す公認会計士の活動について理解を深めていただき、ご自身のキャリア形成や地域との関わりを考える一助としていただくと幸いです。



# 日本公認会計士協会に おける地域活性化の取組

もぎ てつや  
日本公認会計士協会常務理事 **茂木 哲也**

当協会では、全国に16の地域会を設置し、地域社会の一員として活動を行っています。設立後50年を超える地域会も数多くあり、地域会及びその地域会に所属する公認会計士は、長年にわたって地域の企業・行政・教育機関・他土業等、様々なステークホルダーの皆様と連携しながら、地域のために活動してきております。

公認会計士は、会計・監査の専門家として、上場企業の監査などにとどまらず、産業・環境・教育・福祉・まちづくりなどの広い分野において、経営や財務に関する活動をしてきました。例えば、スタートアップ企業の成長支援、株式公開支援、中小事業者の高齢化に伴う事業承継問題への対応などを行っています。また、パブリック分野においては、自治体の監査委員や包括外部監査人としての活動を通じて地方自治体のガバナンスの強化に貢献し、社会インフラの老朽化等の対応に関するアドバイスを行うなど、組織運営、経営の全般について業務を行っています。

時代の変遷とともに、現代社会は複雑化・多様化し、我が国そして世界を取り巻く環境は大きな変化の中にあります。日本国内の地域においては、人口減少、地域経済の縮小等の課題を抱えています。このような状況の中で、持続可能な地域の未来を実現するためにSDGsに基づく地方創生の活動など、地域活性化に向けての多くの取組が行われています。

地域社会、企業はこのような課題に柔軟性と多様性を持って対応されています。私たち公認会計士

もその課題に対応し、自らが果たすべき役割を理解した上で専門的な知見を活用して、社会課題の解決にチャレンジし続けています。また、地域社会、企業の方々と地域を想う心をとともに持ち、協働することで、より大きな社会課題の解決に取り組んでいます。

本誌では、地域とともに歩んできた地域会会長のキャリアや社会における活動について触れるとともに、それぞれの地域会の取組、また、その地域で活躍されているステークホルダーの方々とのコラボレーションや個々の専門性を生かして活躍する公認会計士を紹介しております。1人1人の公認会計士及び各地域会が地域社会にどのように参加し、課題解決に取り組んでいるかをご理解いただけたと思います。会員、準会員の皆様には、私たちの業務を通じて地方創生・地域活性化に貢献できるロールモデルとして、自らの行動につなげるきっかけになればと思います。

各地域会のページに記載された取組には、記載された地域会だけでなく全国の地域会で取り組んでいるものも多くあります。また、他の地域においても同様の立場で活躍している公認会計士が数多くいます。

ステークホルダーの皆様には、本誌を通じて、地域の維持発展に熱意を持つ公認会計士が数多く存在し、社会のお役に立てる存在であることをご認識いただき、地域の課題解決に向け、ともに行動させていただききっかけになれば幸いです。

# CONTENTS

地域とともに歩む  
公認会計士

～地域社会の未来に向けた課題解決にチャレンジ～

『会計・監査ジャーナル』2021年10月号 別冊付録

本誌掲載の写真、記事の無断転載を禁じます。

『会計・監査ジャーナル』別冊の発刊にあたって

手塚 正彦 日本公認会計士協会会長

日本公認会計士協会における地域活性化の取組

茂木 哲也 日本公認会計士協会常務理事



## IPO支援を通じて地域経済の活性化に貢献する

篠河 清彦 ● 会長 湯浅 祐一郎 ● 札幌証券取引所 上場推進部長



## 志ある中小企業や起業家とともに 東北の抱える課題へ立ち向かう

石沢 裕一 ● 会長



## 公認会計士の魅力を学生に伝えたい

西川 正純 ● 会長 高畑 明久 ● ハロー! 会計・制度説明会特別委員会委員長



## 全国初の土地改良区検査立会制度の構築・運用に寄与

庄司 基晴 ● 会長 川口 明浩 ● 業務担当副会長・公会計研究会担当副会長



## 女性と若手の視点を活かした 東京会独自の取組を通じて課題解決にチャレンジ

峯岸 芳幸 ● 会長 飯塚 幸子 ● 常任幹事 宮本 翔 ● 青年部特別委員会委員長  
※インタビュー兼務



## 経営と教育のその先へ公認会計士が切り拓く未来

太田 眞晴 ● 会長 石田 晴美 ● 文教大学経営学部教授



## 公認会計士だからこそできる中小企業支援の形を追求する

久松 但 ● 会長



北陸会  
32

### 社外役員として企業価値向上へ寄与する

坂下 清司 ● 会長 室屋 和菜 ● 会員



京滋会  
36

### 歴史を重ねた古都を舞台に 人と人のつながりを通じて地域コミュニティに寄り添う

中野 雄介 ● 会長



近畿会  
40

### 変化し続ける社会の先端をとらえ、未来の開拓者であり続ける

北山 久恵 ● 会長 安原 徹 ● 副会長



兵庫会  
44

### 包括外部監査を通して地域との良好な関係を構築する

宮田 勇人 ● 会長 坂井 浩史 ● 副会長



中国会  
48

### 10年、20年後の将来を見据えて会計基礎教育を推進する

梶田 滋 ● 会長



四国会  
52

### 新たな活力を地域に与えるパブリック分野での監査の可能性

吉井 修 ● 会長 工藤 誠介 ● 会員



北部九州会  
56

### ポストコロナ時代を見据え新たな形態で研究大会を開催

千々松 英樹 ● 会長 宮本 義三 ● 副会長・北部九州会研究大会実行委員会委員長



南九州会  
60

### 地域の声に真摯に耳を傾け、求められる力を提供する

荒木 幸介 ● 会長 樋口 信夫 ● 南九州会税務業務委員会委員長



沖縄会  
64

### 教育現場に接して、沖縄が抱える課題と向き合い 持続可能な就学支援活動を目指す

賀数 紀之 ● 会長 坂 晴紀 ● NPO法人エンカレッジ理事長



# IPO支援を通じて 地域経済の活性化に貢献する

日本公認会計士協会  
北海道会



日本公認会計士協会北海道会会長 しのかわ きよひこ  
**篠河 清彦**

北海道会ではIPO支援を通じた資本市場・地域経済活性化への貢献を中心テーマとしてインタビューを実施しました。

公認会計士の資本市場への貢献として真っ先に思い浮かぶのは、金融商品取引法等に基づく会計監査による企業情報の信頼性確保を通じての貢献だと思いますが、今回は新規株式公開（IPO）を予定している企業への支援に焦点を当てています。

新型コロナウイルス感染症の影響により企業活動が停滞している現状を打破し、アフターコロナを見据えて、地域活性化にもつながるIPO支援業務を通じて資本市場に貢献していきたいとの思いからです。

また、IPOの舞台となる札幌証券取引所様が実施している取組みについてもお話をうかがっていますので、是非お読みください。

## 地域に寄り添い、ともに未来を拓くパートナーとして

インタビュー

日本公認会計士協会北海道会会長 しのかわ きよひこ  
**篠河 清彦**

### 旺盛な開拓精神が発展の源

**谷口** 北海道という地域や北海道会の特徴を教えてください。

**篠河** 北海道の人口の約4割が札幌市近郊に集中していることから、北海道会の会員・準会員の9割以上が札幌市近郊で開業登録しています。会員の業務形態は、監査法人勤務が4割、個人開業が5割強、**〇組織内会計士**が1割弱となっております。

**北海道は農業や観光が有名ですが、開拓精神が旺盛な土地**でもあります。札幌駅周辺にIT企業が次々と誕生し「**〇サッポロバレー**」として**全国的な知名度を得たことをはじめ、IPOを目指す企業も多い**です。北海道会では、札幌地方裁判所と連携し民事再生法申立事件で選任される調査委員を推薦するなど、全国的に珍しい取組みを行ってきました。

### 天職と感じたことがきっかけに

**谷口** 現在従事されている業務内容やこれまでのキャリアについてお聞かせください。

**篠河** 個人事務所を開業し、**監査業務を中心として、税務業務のほか、企業の社外役員にも就任し**

インタビュー

日本公認会計士協会北海道会副会長 たにくち まさこ  
**谷口 雅子**

ております。

公認会計士を目指したのは、高校2年生のときに読んで「全職業紹介」という雑誌がきっかけでした。**公認会計士のコーナーに掲載されていた「向いている性格」が自分にぴったりと当てはまり、天職であると感じたのです。**

公認会計士試験合格後は大手監査法人の東京事務所に入所し、不正発見の第一人者といわれる方と一緒に仕事をさせていただいたことは、得難い経験となりました。

入所当時から希望していた地元の札幌事務所への転勤後は、**北海道の有名企業のほか、国立大学法人、独立行政法人、信用金庫などの監査業務や、IPO準備支援、不正調査など幅広い業務に定年退職まで従事**いたしました。

### 会務を通して各地の実状を把握

**谷口** これまでの会務経験についてお聞かせください。

**篠河** 20年ほど前に北海道会の常任幹事を務めて以降、会務からしばらく離れておりましたが、5年前に再び会務に携わり、現在は北海道会の会長と本部の常務理事を務めております。

**会務を通して、全国の協会役員や自治体の**

#### 〇組織内会計士

一般企業や行政機関等に勤務する公認会計士の総称です。協会では、組織内会計士協議会を設置し、組織内会計士向けのさまざまな施策を実施しています。

#### 〇サッポロバレー

世界で名高いIT企業の一大拠点となっているシリコンバレーと同様に、コンピューターソフト開発企業やシステム開発企業が札幌に多く所在していたことから、このように呼ばれています。

方々と接する機会が増え、各地域の実状や課題への理解が大いに深まりました。

### 社会に求められる知見

谷口 これまでに行ってきた地域貢献につながる活動についてお聞かせください。

篠河 多額の欠損を抱えた〇地方鉄道会社の存続可否に関する意見書を作成した際、沿線住民との意見交換会に参加するなど貴重な経験をいたしました。そのほか、道民の翼といわれた会社の民事再生支援や道内数市町村の住基ネット監査なども行ってきました。最近では札幌市行政評価委員会の委員などにも就任させていただいております。

### 事業再生から災害復興まで幅広く

谷口 今後、地域へどのような形で貢献していきたいとお考えですか。

篠河 私自身は各種公的委員への就任などをはじめ、IPOを目指す企業の指導、さらには、アフターコロナを見据え、企業の事業再生支援にもかかわっていきたいと思っています。

北海道会では、公認会計士、弁護士、税理士など6つの士業からなる、〇六士会で「地域災害復興支援士業連絡会」を数年前に立ち上げ、災害時の復興支援に取り組んでいます。こうした活動をさらに推進しながら、新たに公認会計士としてお手伝いできる領域にも積極的に対応していきたいと考えております。

## 開拓精神が息づく大地で次世代の芽を発掘する

### IPO支援業務で指導的機能を発揮

谷口 北海道会が行っているIPO支援業務について、札幌証券取引所との関係も含めてお聞きいたします。まずは、会長ご自身のIPO支援業務とのかかわりについてお話しください。

篠河 昭和末期から平成のはじめに北海道で株式公開ブームがあり、そのころから複数のIPO支援業務に従事してきました。当時は会計制度の整備から各種資料の作成に至るまで、公認会計士が指導的な役割を發揮した印象があります。

当時、新規株式公開した北海道の企業には日本を代表する企業の1つとなった株式会社ニトリホールディングス、調剤薬局で日本最大手となっ



### 地域社会に貢献する会員へ

谷口 地域貢献活動に取り組む会員への想いをお聞かせください。

篠河 会員の中には、地方自治体の包括外部監査人や各種委員に就任している方が多く、北海道大学会計専門職大学院の特任教授に就任している方、会計専門職大学院の授業評価を実施している方もおられます。

また、「〇札幌サンタファン」というチャリティイベントを主導するなど、ボランティアに近い活動も含めて、皆さんが積極的に活動して下さっていることに感謝しております。

### 〇地方鉄道会社

地方鉄道会社とは、一般に、新幹線、在来幹線、都市鉄道に該当する路線以外の鉄道路線を指します。運営主体は引き継いだ第三セクターです。重要な社会インフラですが、少子高齢化やモータリゼーションの進展等に伴って厳しい経営である場合が多くなっています。

### 〇六士会

日本公認会計士協会北海道会のほか、札幌弁護士会、北海道税理士会、札幌司法書士会、北海道不動産鑑定士協会、札幌土地家屋調査士会がメンバーです。

### 〇札幌サンタファン

サンタファンは、サンタクロースの衣装を着て、楽しく歩いて、参加費の一部で病氣と闘う子どもたちにクリスマス・プレゼントを贈る、チャリティイベントです。世界各地での名称は『サンタラン』ですが、札幌では楽しく歩くイベントとして、『サンタファン』と呼称しています。

た株式会社アインホールディングスなど、高成長企業が多かったことが特筆すべき点であると思います。

### 協会が公表するリストを活用してほしい

谷口 IPOを目指す企業が監査法人を探すことに苦労しているといった報道がされています。この点についてどのようにお考えですか。

篠河 一口にIPOを目指すといっても、企業によって置かれている状況は千差万別です。会計制度や内部統制が未整備の企業の場合は、監査契約の前段階でまずは管理体制整備のために公認会計士の指導を受けた方がよいと思います。

北海道会には、上場準備に必要なサービスを

## ○IPO支援に関わる 独立開業の 公認会計士名簿

本名簿は協会ウェブサイトで公表されています。詳細は、<https://jicpa.or.jp/business/ipokansa/individual.html>をご覧ください。



## ○IPOを目指す企業の 監査の担い手となる 中小監査事務所リスト

本リストは協会ウェブサイトで公表されています。詳細は、<https://jicpa.or.jp/business/ipokansa/list.html>をご覧ください。



## ○アンビシャスクラブ

アンビシャス市場へ上場を目指す企業を対象に、株式公開、企業業績の向上や管理体制の充実を図っていくことを目標に、各種セミナーや交流会等を、クラブ会員主導のもと開催し運営する会員組織です。

## ○札幌成長塾

札幌証券取引所が、上場予備軍の発掘及び育成を目的に、2015年6月から「札幌成長塾」を主催しています。成長意欲のある経営者やその想いを支えるCFOの方々など、塾生の属性に応じて講演を行っています。

## ○組織内会計士協議会

一般企業や行政機関に所属する会員・準会員を支援することを目的に協会に設置されている協議会です。組織内会計士向けのセミナーやネットワーキングイベントなどを実施しています。

提供している会員が多数おります。

また、協会が公表している「○IPO支援に関わる独立開業の公認会計士名簿」、「○IPOを目指す企業の監査の担い手となる中小監査事務所リスト」には、北海道会の会員や北海道の監査法人が複数記載されていますので、参考にしていただきたいと思えます。

### 成長意欲ある経営者への啓発活動を推進

谷口 IPOを推進することは地域経済活性化のためにも重要ですが、北海道内の取組みにはどのようなものがありますか。

篠河 道内の東証1部上場企業の経営者が中心

## 地域経済活性化のために公認会計士が担うべき役割とは

### インタビュー

札幌証券取引所 上場推進部長

ゆあさ ゆういちろう  
湯浅 祐一郎  
しのかわ きよひこ  
篠河 清彦

日本公認会計士協会北海道会長

### 逆風を追い風に変え、 アフターコロナを生きる

谷口 ここからは、札幌証券取引所上場推進部長の湯浅祐一郎様にお話をうかがいます。まず、IPOに関する最近の道内企業の動向についてお聞かせください。

湯浅 コロナ禍によって上場準備に影響が出ている企業が多数あり、特にサービス業や小売業

となって立ち上げた、IPOを目指す企業の役員を対象に勉強会などを行う「株式公開アカデミー」や、若手経営者向けの「北海道経営未来塾」など、さまざまな取組みが行われています。

また、札幌証券取引所では、新興企業向けに創設されたアンビシャス市場への上場を目指す企業を支援する会員組織「○アンビシャスクラブ」を運営するほか、成長意欲のある経営者を応援する「○札幌成長塾」や「○IPO異業種勉強会」なども展開しています。これらの勉強会では北海道会の会員も講師を務めており、私自身もアンビシャスクラブのサポーター会員として関わっております。

### インタビュー

日本公認会計士協会北海道副会長

たにぐち まさこ  
谷口 雅子

の多い札幌ではより深刻な状況です。その一方で、販路をネット通販に切り替え、増収増益を達成した企業もあります。もともと北海道は、他の地域からの食に関するお取り寄せ需要が高く、アフターコロナを見据えて多様なチャレンジが始まっており、コロナ禍の厳しい状況ではありますが、IPOを目指す企業がこれまで以上に誕生することへの期待感を抱いております。

### 上場を支えるCFOの育成に取り組む

谷口 IPOを促進するために、札幌証券取引所が取り組んでいることを教えてください。

湯浅 私たちの使命は、上場企業の質の確保と新規上場を果たす地元企業への支援を両立させることです。具体的には、昨年の「札幌成長塾」において、上場に興味のある経営者向けにオンライン講義を全19回配信しました。今年は北海道大学会計専門職大学院アカウンティングスクールで授業の1コマをいただき、学生の方々に公認会計士としてのキャリアの選択肢の1つにIPOに携わるCFOがあることを伝える予定です。

また、過去には、協会の「○組織内会計士協議会」のセミナーで組織内会計士の方々を対象に地方の上場事情やIPOにおいてCFOに求められることなどをお伝えしました。

こうした地道な活動が、北海道の企業の成長につながることを期待しております。



左から、谷口雅子氏、篠河清彦氏、湯浅祐一郎氏

## 公認会計士への大きな期待

谷口 IPO申請企業の審査やIPO推進策を展開される中で、公認会計士との接点も多いかと思えます。こうしたかかわりを通して感じていること、また今後、公認会計士に期待することをお聞かせください。

湯浅 上場準備は、基本的に企業にとって1度しかないプロジェクトです。この一大プロジェクトにおいて、公認会計士が果たす役割は非常に大きいと思っております。例えば、上場準備の前段階で企業内部の体制整備や会計処理の構築などが指導されることで、上場準備のスピードや精度は格段に高まります。

1人でも多くの公認会計士にIPO支援に取り組んでいただくことが、地元企業の発展に向けた大きな力となります。

篠河 地域経済を活性化するためには、IPOを目指す企業が継続的に出てくるのが重要です。そのためには、私たち公認会計士がさまざまなフェーズで支援していく必要があります。

IPOを目指す企業への札幌証券取引所の支援体制は充実しておりますので、今後より一層の協力体制を築き、積極的に対応してまいります。



湯浅祐一郎氏 IT企業でキャリアをスタートし、プログラマーとして京都の証券取引所に派遣され、職員として採用される。その後、証券取引所の合併を機に離職し、証券業界とは異なる仕事に就いていたが、縁あって札幌証券取引所へ就職し現在に至る。

谷口 最後になりますが、札幌証券取引所の湯浅上場推進部長様には、お忙しい中インタビューの依頼をご快諾いただきましたこと、心より御礼申し上げます。

## 読者へのメッセージ

### 人として大きく成長できる仕事

谷口 ここまでのお話を通して、公認会計士がIPO支援を行うことの重要性を再確認いたしました。では、今後の地域経済を支える若い会員へメッセージをお願いします。

篠河 通常の監査と異なりIPO支援では、企業のアーリーステージから公認会計士と企業が二人三脚で成長に向けて歩んでいきますので、大きなやりがいを感じることができます。もちろん大変なことも多いですが、その分、自分自身も大きく成長できます。若い会員の皆さんには、是非IPO支援にチャレンジしていただきたいと思えます。

### より幅広い領域で地域に役立つ存在に

谷口 最後に、ステークホルダーや地域社会へメッセージをお願いします。

篠河 公認会計士業務についてご理解いただき、さまざまな場面でお声がけいただいていることに感謝しております。公認会計士がお役に立てる領



域は今後さらに広がっていくと確信しています。皆様には引き続きのご支援をお願いいたします。

### 日本公認会計士協会北海道会

〒060-0001 札幌市中央区北1条西4-2-2 札幌ノースプラザ 8階

所轄のエリア ● 北海道

会員・準会員数 ● 439名(2021年7月末現在)

TEL ● 011-221-6622

FAX ● 011-272-6911

URL ● <http://hokkaido.jicpa.or.jp/>

※上記の会員・準会員数は監査法人を除いた数値です。



# 志ある中小企業や起業家とともに 東北の抱える課題へ立ち向かう

日本公認会計士協会  
東北会



いしざわ ゆういち  
日本公認会計士協会東北会会長 **石沢 裕一**

## 地域社会の課題解決に貢献する公認会計士

当会のエリアである東北6県は広範であり、人口減少・高齢化の加速等で各県の人口分布に偏りがみられ、また、企業活動も上場企業が少なく中小企業が大多数を占めています。会員・準会員の分布も各県にバラつきがみられ、多くは中小企業を対象にした監査業務以外のコンサルティング業務、税務業務を行うとともに、地方公共団体の委員等の公職に就き地域社会に貢献しています。

東北経済においては、中小企業支援・IPO支援が永年の課題となっております。

そういった状況の下、当会では、現在、地域活性化へ貢献すべく「公認会計士としての中小企業支援」の具体的な活動、公的活動として地域の安心な生活基盤の下支え活動、また、社会福祉法人の監査導入等の業務拡大に伴う対応、会員・準会員の資質の維持・向上と多様な人材の活用を主な重点施策として取り組んでおります。

## 公認会計士の役割を周知し、地域貢献につなげたい

インタビューー

いしざわ ゆういち  
日本公認会計士協会東北会会長 **石沢 裕一**

### 広大なエリアをカバーする東北会

**高橋** 地域や東北会の特徴を教えてください。

**石沢** 東北会が所轄する東北6県は、**○広大な面積に対して人口が少なく**、県ごとの人口分布にも偏りがあり、仙台市のある宮城県に人口が集中しています。また、東北地方の企業には**中小企業が**多く、これらの**中小企業が持続的に成長していくことが東北経済における課題**となっております。

東北会の会員の分布は、**人口分布と同様に宮城県内が約半数を占め、しかも仙台市に集中しています**。また、会員の半数以上が税理士登録をしているという特徴があります。ほかの地域会と比べて**エリアが広範にわたるため、○各県部会の役割は非常に重要**であると考えております。

### 職業倫理の大切さを学生へ伝えていく

**高橋** 現在従事しておられる業務の内容をお聞かせください。

**石沢** 現在は仙台市に会計事務所を構え、**学校法人監査や労働組合監査などの監査業務に従事しながら、税理士法人の代表も務め、税務業務にも携わっております**。そのほか、地元の公立大学

インタビューー

たかはし みほ  
日本公認会計士協会東北会中小企業施策委員会委員長 **高橋 美穂**

の客員教授、全国公益法人協会の講師、公益法人会計検定委員も務めております。

**高橋** 大学ではどのような講義を担当されてますか。

**石沢** 担当しているのはコンプライアンスに関する講義です。数年前、企業の不祥事が社会的問題となった時期に、大学側からの「学生に職業倫理を学ばせたい」というご依頼がきっかけでした。昨今は、経営者や従業員が能動的に不祥事を起こす事件ばかりではなく、周囲が巻き込まれているケースが見受けられます。**将来、入社した企業などで上司からコンプライアンスに反する指示があっても、それに従わないよう、今のうちから学生の方々に倫理観を育てていただきたい**と思っております。

### 偶然目にした記事で公認会計士を知る

**高橋** 公認会計士の道を選んだきっかけや、これまでのキャリアについてお聞かせください。

**石沢** 高校3年生のとき、ある雑誌で**公認会計士の職業紹介記事を読んだことがきっかけ**です。数学が得意で、手に職をつけたいという想いもあり、上京して大学の商学部で学びました。

### ○広大な面積に対して人口が少なく

東北地方の面積は約6万7,000平方キロメートルで、本州の約3割の面積となっています。一方で、東北地方の人口は約851万人、人口密度は1平方キロメートルあたり127人となっています。八地方区分では、北海道に次いで人口密度が低い地域です。

### ○各県部会

各地域会は、概ね、都道府県レベルで県部会を設置しています。東北会では、東北6県それぞれに県部会を設置し、広範な東北エリアをカバーしています。

公認会計士第二次試験合格後、簿記学校の講師や監査法人での勤務を経て、仙台市で個人の会計事務所を開業いたしました。監査法人での

経験を活かし、IPO支援業務のほか、**和議事件の整理委員、民事再生法事件の再生委員なども**歴任してまいりました。

#### 和議

経営破綻に陥った企業(法人、個人)が再建を目的として行う法的倒産手続を指します。ただし、2000年4月1日に民事再生法が施行されたことに伴い、和議法は廃止されました。

## 公認会計士として培った経験を地域や後進へ還元する

### 会務に携わることで得た貴重な経験

**高橋** 会務に携わった経緯や、会務に携わってよかったと思われることをお聞かせください。

**石沢** 独立開業した後、監査業務で一緒に監査責任者の先生からお声がけいただいたことが会務に携わったきっかけです。私は東北ではなく東京の監査法人に勤務しておりましたので、東北会の会員の方々はほとんど存じ上げておりませんでした。が、会務を通して多くの方々と出会い、先輩の会員の方から監査業務を引き継がせていただくなど、皆様には大変お世話になりました。

また、協会が公表している委員会報告書の作成に委員として携わったことは大変勉強になり、公認会計士としての知見を深めることができました。

### 多様な公職を通じて地域を支えたい

**高橋** これまでに行ってきた地域貢献につながる活動について教えてください。

**石沢** 地方公共団体においては、宮城県監査委員事務局の監査顧問や宮城県公社等外郭団体経営評価委員会の委員、仙台市外郭団体経営検討委員会の委員などを務めました。また、公益法人の評議員も務めており、こうした公職を通じて、公認会計士としてのスキルや経験を地域のために活かしております。

### 地域経済を担う中小企業支援を推進

**高橋** 今後、どのような形で地域へ貢献していきたいとお考えですか。

たいとお考えですか。

**石沢** 私個人としては、現在携わっている監査業務を若い会員の方々と順次引き継ぎ、今後は**大学での講義や公職を通じて、公認会計士への理解や関心を深めていただくための活動に邁進したい**と考えております。

東北会としては、2021年度の事業計画の中で、**東北地方の**地域未来牽引企業**(経済産業省が選定する地域経済の中心的担い手となる事業者)に対する支援、及びIPOを志す企業の発掘と支援を掲げており、今後も地域の中小企業支援を積極的に進めてまいります。**

#### 地域未来牽引企業

経済産業大臣により選定された、地域経済の中心的な担い手となりうる企業を指します。地域内外の取引実態や雇用・売上高を勘案し、地域経済への影響力が大きく、成長性が見込まれるとともに、地域経済のバリューチェーンの中心的な担い手、及び担い手候補である企業が選定されます。

## 志ある企業を実現可能な未来へと導くために

### 中小企業を取り巻く地域特有の課題とは

**高橋** 私は実務の中で、中小企業の経営者の方から事業承継のご相談をいただくことが非常に多いのですが、東北地域における事業承継問題についておうかがいします。

**石沢** 東北の中小企業では経営者の高齢化が進んでおり、帝国データバンクが2020年に実施

した「**全国企業「後継者不在率」動向調査**」では、**全国の65.1%の中小企業が後継者不在**というデータも示されております。私も**事業承継の問題は大変深刻**であると受け止めております。

**高橋** 事業承継のほかに中小企業が抱える課題や、持続的な成長のために必要な支援についてはどのようにお考えですか。

**石沢** 現在は、コロナ禍でベンチャー企業が自社

#### 全国企業「後継者不在率」動向調査

2020年10月時点の約147万社の企業概要データベース及び約180万社の信用調査報告書ファイルを基に、2018年10月から2020年10月の3年間を対象として、事業承継の実態について分析可能な約26万6,000社の後継者の決定状況と事業承継動向について調査を実施したものです。



左から、高橋美穂氏、石沢裕一氏

の技術をアピールする場が失われ、ビジネスチャンスが急速に縮小しているといえます。加えて、首都圏へ流出する人的資源の確保という地方特有の課題もあります。このような環境認識のもと、東北会では公認会計士の知見やネットワークを活用しながら、経営管理のアドバイスをを行うベンチャー育成支援をはじめ、さまざまなサポートを実施したいと考えております。

#### 企業がさらなる成長を目指す 志を持つことが大切

**高橋** 東北会では2019年に「中小企業施策委員会」を立ち上げました。公認会計士の専門性を活かし、中小企業の中でも特にIPOを目指す中堅企業の支援に取り組みたいと考えております。経済産業省が選定する地域未来牽引企業も含め、東北の企業が次のステップに進む上での課題は何だとお考えですか。

**石沢** 東北では近年、**新規上場企業がゼロ**という状況が続いております。東北財務局や東北経済産業局、仙台市は、中堅・中小企業の持続的な発展を支援するためのファンドや仕組みを構築しておられますが、こうした取組みも企業側に成長したいという志がなければ十分に活用されないように思います。東北会では、**まず企業の経営者の方々に志を持っていただくための啓蒙活動が必要**であると考えており、地域未来牽引企業へのIPO支援についても、まだ多くの課題があると思っております。

**高橋** 東北で、都市部以外で公認会計士が身近にいないこと、上場企業が少なくノウハウを持つ方と出会いにくいことも、中小企業がステップアップできない要因の1つだと思われます。この点についてのお考えをお聞かせください。

**石沢** 都市部以外では、公認会計士が身近な存在となっていくために、**公認会計士が経営に関与することのメリットや公認会計士の役割を中小企業に向けて広くPRしていくことが必要**であると考えております。例えば、IPOは、顧問税理士だけではなく経営や財務に深い知見を有する公認会計士に相談してほしいといったことを積極的にステークホルダーに伝えていくことが大切であると思います。

#### 経営者に共感し、心通わせる関係構築を

**高橋** IPO支援で求められる公認会計士の役割とは何でしょうか。また、新規上場を目指す企業とどのような関係性を構築すればよいか、お考えをお聞かせください。

**石沢** 起業家の方々が、ご自身の夢や企業の未来を数字で語ることはなかなか難しいと考えています。そこで、**公認会計士に期待されるのは、財務的な裏付けの下でIPOに至るまでの道筋を立て、実現可能な未来を描く手助けをすることであり、その点をアピールしていく必要がある**と思います。

ただ、このような資本政策や財務戦略などのテクニックも大事である一方で、経営者の志に寄り

#### ○新規上場企業がゼロ

2014年3月以降、東北地方の企業の一般市場(東証一部・東証二部・マザーズ・JASDAQ等)への新規上場はゼロという状況が続いています。なお、2021年2月に、東京証券取引所のプロ投資家向け株式市場「TOKYO PRO Market (TPM)」へ「仙台未来創造企業創出プログラム」認定企業が上場を果たしています。

添いながら、企業を成長させたいという熱意を持続させるためのアプローチも非常に重要であると思っております。そのような想いの下、IPOを

実現する企業が1社でも多く出ることを目指し、今後も支援に取り組んでまいります。

## 会員の知見共有を図り、よりよい地域支援を目指す

### 起業家を支えるCFOとしての役割とは

**高橋** 中小企業施策委員会では、発足した初年度にM&Aを利用した事業承継をテーマとした会員向けの研修会を計画するなど、会員の知見向上にも寄与したいという思いで活動を進めております。こうした取組みがある中で、昨年、仙台市から東北財務局を通じて、**OCFO人材**の派遣要請をいただき、当委員会に対応いたしました。その背景を教えてください。

**石沢** 仙台市は、2017年度から東北の起業家を対象とした集中支援プログラム「**東北グロースアクセラレーター**」を実施しています。このプログラムを含めさまざまな起業支援が充実してきましたが、その中で会計・財務や内部管理体制の構築を担うCFO人材が不足していることが課題として明らかになり、東北会に要請をいただいたという次第です。現在は、**CFO候補者のリストアップが完了しております。今後、支援を求める企業とCFO人材とのマッチングをこのリストを活用して実現したい**と考えております。

### 会員相互で助け合える環境づくりへ

**高橋** 東北の中小企業に対する支援活動につい

## 読者へのメッセージ

### 地域の信頼に応えるインフラ的存在として

**高橋** 所属会員やステークホルダー、地域社会に向けてメッセージをお願いします。

**石沢** 公認会計士が行う監査業務は、社会経済におけるインフラであるといえます。営利企業はもとより社会福祉法人などの非営利分野の監査は、地域住民への安心と信頼を付与し、地域社会のSDGs達成に向けた支えとなるものと考えております。会員の皆様には、**今後も非営利分野における監査業務の拡大に対応していただきたく、ご協力をお願い申し上げます。**

ステークホルダーの皆様には、公認会計士業務



で、今後の展望をお聞かせください。

**石沢** **IPO支援やCFO人材の派遣を通じて中小企業や起業家の育成に取り組むとともに、M&Aを活用した事業承継支援なども積極的に進めていきたい**と考えております。

一方で、会員支援の観点では、資質向上を目的にM&A経験者が講師を務める事業承継をテーマとした研修会のように、会員同士で知識や経験の共有を図っていけるよう、垣根のない交流が行える環境づくりに努めてまいります。

にご理解とご支援をいただき、感謝しております。**皆様から寄せられる公認会計士へのご信頼とご期待にお応えできるよう研鑽を積み、今後も地域社会への貢献に努めてまいります。**

### 日本公認会計士協会東北会

〒980-0014 仙台市青葉区本町2丁目18番21号 鹿島定禅寺ビル 3階

所轄のエリア ● 青森県、秋田県、岩手県、宮城県、山形県、福島県  
会員・準会員数 ● 497名(2021年7月末現在)  
TEL ● 022-222-8109  
FAX ● 022-222-9916  
URL ● <https://tohoku.jicpa.or.jp/>

※上記の会員・準会員数は監査法人を除いた数値です。

### OCFO人材

「Chief Financial Officer」の頭文字をとったもので、「最高財務責任者」を指します。企業における財務戦略の立案や執行の責任者であり、企業がIPOを実現するための要となる人材であるといえます。

### 東北グロースアクセラレーター

成長意欲が高く、社会課題の解決等を目指しつつ事業の拡大を図るスタートアップ企業、第二創業や新規事業の立上げを行う成長意欲の高い中小企業に対し、専門的な知見を有する企業経営者や支援者による集中支援を行い事業の成長を加速させることを目的としています。



# 公認会計士の魅力を 学生に伝えたい

日本公認会計士協会  
埼玉会



にしかわ まさずみ  
日本公認会計士協会埼玉会会長 **西川 正純**

埼玉会は、2016年4月1日に東京会から独立した若い地域会です。地元埼玉県において社会貢献事業や公認会計士をもっと広く知ってもらうための地域への発信も行っています。

当会は、大学生を対象にした公認会計士制度説明会を実施しています。説明会では、大学生に公認会計士という職業に関心を持ってもらえるよう公認会計士制度や仕事の内容の説明を行うほか、大学OBの会

員による説明も行っています。今後は、公認会計士が社会に貢献する職業であるということについても積極的に話していきたいと思っています。また、高校生を対象とした説明会も行っていく予定です。

公認会計士というのは監査だけでなく、もっと広い世界で活躍できる魅力のある職業であることを、これから社会に出ていく若い人たちに伝えていきたいと思っています。

## 業務と会務の相乗効果で地域に貢献する

インタビュー

にしかわ まさずみ  
日本公認会計士協会埼玉会会長 **西川 正純**

### 埼玉県の地域性と埼玉会の特徴

**小川** 地域と埼玉会の特徴について教えてください。

**西川** 埼玉県の地域性としては、東京の近郊ということもあり、比較的中小企業が多い地域といえます。また、埼玉会は単一県の地域会であるため行政区画と一致しており、県庁と直接一対一でお付合いできることも大きな特徴といえます。当会は、個人開業されている会員が多いですが、近年、**〇組織内会計士**として活躍されている会員が増えてきています。

### 父や兄の活躍に惹かれ公認会計士の道へ

**小川** 現在従事している業務内容やこれまでのキャリアについてお聞かせください。

**西川** 父が設立した会計事務所で、現在、兄と共に事務所を運営しています。クライアントは中小企業が多く、業務は税務業務を中心に行っています。父や兄が公認会計士として活躍する姿を間近で見ていたことから、自然な流れで私も公認会計士を目指していました。資格取得後は、大手監査法人で経験を積んだ後、会計事務所に入所し、税理士登録を行い、業務に携わることとなりました。

#### 〇組織内会計士

一般企業や行政機関等に勤務する公認会計士の総称です。協会では、組織内会計士協議会を設置し、組織内会計士向けのさまざまな施策を実施しています。

インタビュー

おがわ ちえこ  
日本公認会計士協会埼玉会広報担当副会長 **小川 千恵子**

### 会務を通じて仲間が増え人脈が広がる

**小川** 会務に携わるようになったきっかけ、携わってよかったことをお聞かせください。

**西川** 監査法人を退職して当会の会員となり、**研修会や親睦事業に参加**するようになったのをきっかけに会務に参加するようになりました。会務を通して同業の仲間が増え、人脈が広がったことは大きな財産となっています。

### 公認会計士の専門性を活かし地域に貢献

**小川** これまでに行った地域貢献につながる業務について教えてください。

**西川** 東京会から独立前の埼玉県会から推薦いただき、埼玉県の下水道局経営懇話会や私立学校助成審議会の委員、福祉部福祉施設監査課の非常勤職員、関東農政局入札等監視委員会委員などに就任いたしました。これらの活動を通じて、公認会計士の専門性を活かして地域に貢献するという経験を積むことができたのではないかと考えています。

### アフターコロナの地域経済の再生に向けて

**小川** 今後はどのような形で地域に貢献してい

きたいですか。

**西川** コロナ禍で、主なクライアントである中小企業は疲弊しています。コロナ収束後、どのようにすれば地域経済に活気を取り戻すことができるのかを日々考えています。コロナ禍により市場

環境が激変しており、厳しい状況は今後も続きますが、そのような状況にあってもクライアントの強みを最大限活かせるよう、会計の側面から経営のお手伝いをしていきたいと思っています。

## 公認会計士の魅力を伝え、多くの学生に公認会計士を志してもらうために

### インタビュー

日本公認会計士協会埼玉会会長

にしかわ まさずみ  
**西川 正純**

日本公認会計士協会埼玉会  
ハロー!会計・制度説明会特別委員会委員長

たかはた あきひさ  
**高畑 明久**

### インタビュー

日本公認会計士協会埼玉会広報担当副会長

おがわ ちえこ  
**小川 千恵子**

### 説明会参加者から試験合格者が誕生

**小川** 埼玉会が注力している地域貢献活動についてお聞かせください。

**西川** 官庁への講師の派遣、官公庁・経済団体との交流、小学生に会計の重要性を教える「ハロー!会計」など幅広い活動を行っていますが、埼玉会では、現在、特に大学生を対象にした、**公認会計士制度説明会**に力を入れております。ハロー!会計・制度説明会特別委員会委員長の高畑幹事から詳細を説明させていただきます。

**高畑** 埼玉会では2016年から、**県内の埼玉大学、獨協大学、駿河台大学を訪問して授業等の一環として制度説明会を実施**しています。例えば、埼玉大学では1回の講義における受講生は約200名にのぼります。講義終了後、受講された学生にアンケートを実施したところ、「今回の講義を聞いて公認会計士試験の受験を決めた」という感想を多くいただき、このような機会に携われてよかったと感じています。実際に、**埼玉大学でこの説**



**明会に参加した2名の学生が、令和2年度の公認会計士試験論文式試験に合格したという嬉しいニュースも舞い込み、意義のある活動を行っていることを改めて実感しています。**



左から、小川千恵子氏、西川正純氏、高畑明久氏

### 公認会計士制度説明会

公認会計士制度や業務内容について、学生に興味や関心を持っていただくこと、また、公認会計士を志している方に公認会計士への理解を深めていただくことを目的に開催しています。



### 幅広いターゲットに向けて 公認会計士の魅力を伝えたい

**小川** 公認会計士を目指す人を増やしたいという取組みは業界全体の課題となっています。公認会計士の仕事を知ってもらい、志願者を増やすための施策についてご意見をお聞かせください。

**高畑** 制度説明会は授業等の1コマをお借りして行っていますが、聴講する学生によって公認会計士という職業への興味に差があります。そのため、公認会計士に興味を持つ学生を対象を絞った説明会も実施する必要があると思っています。また、現在は大学生を対象とした制度説明会と小

学生を対象とした「ハロー！会計」を実施していますが、今後はさらに裾野を広げて、将来のキャリアデザインを考える中高生もターゲットに加えたいと考えています。

**西川** 数年前、県内の高校生から公認会計士という職業について教えてほしいという問合せがあり、役員が説明に当たったことがありました。進路を決める時期にある、特に高校生に焦点を当てて公認会計士という職業の魅力を伝えることも重要であると思っています。

### 公認会計士の業務を伝えることの重要性

**小川** 魅力を考えるに当たり、どのようなプログラムが必要になるとお考えですか。

**西川** 公認会計士試験に合格した学生から、「公認会計士を目指している人にとって制度説明会は有意義ですが、公認会計士という職業を知らない人は、制度の内容よりも社会における役割や監査の必要性、仕事内容などに特に興味があるのではないか」と言われました。これが、プログラムを考える際のヒントになると感じています。

**高畑** 以前、埼玉県会時代に高校で制度説明を行った際に、まず身近な事例を挙げながら「会計がどのような場面で活用され、役立っているのか」を伝えた上で、公認会計士制度について説明しました。そのとき受講していた高校生の反応がいつも以上によく、前のめりで熱心に話を聞いてもらえたことが印象に残っています。このことから、まずは公認会計士の行っている仕事を知ってもらうことが大変重要であると思っています。

## 公認会計士は日本経済を支える職業

### オンライン説明会推進の重要性

**小川** 説明会の対象者を、まずは高校生まで上げることが案として挙がりましたが、ウィズコロナ・アフターコロナ時代の新しい説明会の在り方についてどのようにお考えですか。

**西川** コロナ禍を踏まえ、昨年は大学の協力のもと、学内の**オンライン**を使用しての制度説明会を実施しました。オンラインを活用することで時間や場所の制約が少なくなることが分かりました。オンラインでの開催の仕方は技術的にいろいろと考えられます。公認会計士の仕事に興味を持ってもらう説明会を行うにあたって、大学生と高校生を分けずに興味を持っている層に直接ア

プローチすることが必要であると考えています。特定の大学・高校のみならず、県内の学校で公認会計士に興味を持つ学生を対象としたオンラインでの説明会も企画していきたいと考えています。コロナ禍を契機に、新たな視点で説明会の仕組みを構築していきたいと思います。

### 中高生へ公認会計士の重要性を伝えたい

**小川** 中高生にアプローチするというお気持ちが十分に伝わってきました。それでは、中高生をターゲットとした場合に最も強く伝えたいことは何でしょうか。

**高畑** 公認会計士は日本を元気にできる職業であることを伝えたいです。公認会計士は、人知れ

### オンライン

コロナ禍の影響により、多くの大学でオンライン授業が取り入れられました。現在も新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえて、対面とオンラインを組み合わせて授業が行われています。

ず日本経済を支えている非常に重要な職業だと私は考えています。例えば、公認会計士が行う監査業務では、企業が作成した財務諸表をチェックし、**〇保証**を与えています。この業務は企業だけではなく財務諸表の利用者である株主や投資家に必要不可欠な情報を提供するものであり、資本市場のみならず日本経済の基盤を支えているといっても過言ではありません。また、**公認会計士は弁護士や医師と並ぶ3大国家資格といわれることもあり、社会に大きく貢献できる職業であることを知っていただきたい**です。私自身も、社会に貢献したいという思いを胸に受験勉強に邁進いたしました。

**西川** 公認会計士がどのような業務を行っているのかを広く伝えていくことにより、**〇将来なりたい職業ランキングの上位になると嬉しい**です。そのためには、**早い段階で中高生が公認会計士を知るという強いインパクトが必要**です。将来における職業の選択肢の1つに公認会計士があることを伝える必要があると思っています。



## 読者へのメッセージ

### 地域のさまざまな場で活躍する公認会計士

**小川** ステークホルダーや地域の方々へメッセージをお願いします。

**西川** 埼玉会では、専門委員会として、これまで**埼玉県の学事課や福祉指導課の職員の方々に会計処理や内部統制に対するアドバイス**も行ってきました。また、埼玉会では複数の専門委員会を立ち上げて、地域の課題を理解し改善に対応できる体制を整えています。特にコロナ禍による業績不振の影響で、事業再生を余儀なくされる中小企業が増えることが予想されるため、**中小企業支援対応専門委員会の活動を重要視**しています。そのほかにも課題に応えるため、NPO法人や医療法人等の専門委員会の活動も活発に行っており、地域で頑張っている組織を応援していこうと考えています。今回の記事をきっかけに、地域社会のさまざまな場所で公認会計士が活躍していることを知っていただくと嬉しいです。

### 会員同士のつながりは大きな財産

**小川** 最後に、所属会員の方々へメッセージをお願いします。

**西川** 埼玉会が若い会員の皆さんにとって仲間

を作る場となってもらいたいと思っていますので、**あまり難しくとらえずに会のイベント等に顔を出してほしい**と思います。特に、独立したところは県内の会員とのつながりが薄くなりがちです。**当会でも若い会員が集まる活動を推進しており、その活動を通じて会員同士のネットワークを深めてほしい**と思います。また、埼玉会がベテランの公認会計士の皆さんにとっても、会員同士のつながりの場になりたいと思っています。是非とも、研修会をはじめとして、親睦事業など当会のイベント等にご参加をいただければと思っています。

会員の皆様方の会務へのご支援、ご協力を引き続きよろしくお願いたします。

### 日本公認会計士協会埼玉会

〒330-8669 さいたま市大宮区桜木町1-7-5 ソニックシティビル 8階

所轄のエリア ● 埼玉県

会員・準会員数 ● 942名(2021年7月末現在)

TEL ● 048-644-9050

FAX ● 048-644-9054

URL ● <https://saitama.jicpa.or.jp/>

※上記の会員・準会員数は監査法人を除いた数値です。

### 〇保証

投資家等の利害関係者の意思決定を誤らせることのないように、企業の作成する財務諸表や計算書類の信頼性を保証することを意味します。

### 〇将来なりたい職業ランキング

日本FP協会がまとめた2020年の小学生の「将来なりたい職業」ランキングでは、男子は「ユーチューバー」がトップ10にランクインするほか、「サッカー選手・監督」、「野球選手・監督」、「医師」が上位3位を独占しました。また、女子は「薬剤師」が1位となったほか、「看護師」、「保育士」が上位3位に入っています。残念ながら、公認会計士はランクインしていませんでした。



# 全国初の土地改良区検査立会制度の構築・運用に寄与

日本公認会計士協会  
千葉会



しょうじ もとほる  
日本公認会計士協会千葉会会長 **庄司 基晴**

千葉会は2016年4月1日に東京会より独立し、地域に密着した活動を行っております。

会員の多くは監査法人勤務を経て独立した公認会計士で、独占業務の会計監査にとどまらず、多種多様な業務を行っております。

コロナ禍は、地域会の役割の重要性を再認識させてくれました。それは特に地元地域社会への

貢献と相互交流です。千葉会では、各自治体の包括外部監査人や監査委員等公的部門へ多くの会員を推薦しておりますが、さらに、全国に先駆けて千葉県土地改良区検査立会業務制度を本格化させるなど、地域社会への貢献という使命に積極的に取り組んでおります。

## 首都圏の要衝・千葉に生き、千葉を活かす

### 京葉臨海 コンビナート

千葉県の東京湾岸に、千葉港を中心として広がる工業地域を指し、化学工業の割合が高くなっています。浦安市から富津市まで連なっており、代表的な都市は市川市、船橋市、千葉市、市原市、木更津市、君津市が挙げられます。

### 重厚長大企業

重化学工業等の産業を意味する言葉です。重く・厚く・長く・大きな製品を扱うことに由来します。具体的には、鉄鋼業・セメント・非鉄金属・造船・化学工業や、これに関連する装置産業が分類されます。

### バブル崩壊

日本の不景気の通称です。内閣府景気基準日付でのバブル崩壊期間は、1991年3月から1993年10月までの景気後退期を指します。バブル経済時代に土地を担保に多くの融資が行われましたが、地価の下落により、担保価値が融資額を下回る担保割れの状態に陥りました。また、企業の収益が大幅に低下したこともあり、金融機関が多くの不良債権を抱え込むこととなりました。

### インタビュー

しょうじ もとほる  
日本公認会計士協会千葉会会長 **庄司 基晴**

### 多様な産業を網羅するオールラウンダー

**福田** 地域と千葉会の特徴について教えてください。

**庄司** 千葉県は古来より漁業・農業が盛んで、江戸・東京の台所として発展してきました。**京葉臨海コンビナート**や成田国際空港、東京ディズニーリゾートなどを擁し、**工業・産業面でも栄えたオールラウンダーな県**といえます。

千葉会は千葉県のみの単県で構成されており、**首都圏に位置することから大手監査法人のOBが多いことが特徴**といえます。また、**組織内会計士やコンサルティングを中心に活躍する若い公認会計士も多く在籍**しております。

### 経験と人脈が仕事の幅を広げる

**福田** 現在従事されている業務内容とこれまでのキャリアについてお聞かせください。

**庄司** 主に税務と監査業務に従事しています。また、**地元自治体の監査委員や外郭団体の監事も務めております**。

### 会計の面白さに惹かれて公認会計士を志す

**庄司** 私は、学生時代に公認会計士を志したわけ

### インタビュー

日本公認会計士協会千葉会研修担当幹事・  
公会計研究会研究会長 **福田 佐知子**

ではありませんが、自由奔放な性格と、自営農家の長男として育ってきたためか、大企業で終身雇用という人生設計はありませんでした。

大学では経済学を専攻し、地元の地方銀行に就職しましたが、簿記や会計学を勉強していなかったこともあり、銀行での業務は苦勞が多かったです。思い返すと、配属先の支店時代には300万円の札束を誤ってゴミ箱に落としてしまったという失敗談もありましたね。

そんな中、**同じ支店に配属された同期から会計学の面白さに気付かされ、公認会計士という職業に惹かれていきました**。

### 監査業務の経験がキャリアの糧になった

**庄司** 公認会計士試験合格後、大手監査法人へ就職し、日本を代表する**重厚長大企業**の監査に従事しました。監査法人での仕事は独立開業のためのキャリアパスとしか考えておりませんが、ここで得た経験は大変刺激的で、私の期待を遥かに超えるものでした。

独立後は、税務業務を中心に業務をスタートしましたが、**バブル崩壊**をきっかけに、情報の信頼性の担保を目的とする監査の重要性を再認識しました。そのようなときに、監査法人時代の先

輩から金融機関監査に携わる貴重な機会をいただき、この業務を通じて人脈や仕事の幅が大きくなりました。この経験は税務の顧問先へのアドバイスにも大変役立っております。

### 周囲の協力を得ながら業務と会務を両立

**福田** 会務にはどのようなきっかけで携わることになったのでしょうか。

**庄司** 千葉会の田中昌夫前会長に誘われたことがきっかけです。千葉市内から離れた木更津市に事務所を構えている私がどれだけ会務にかかわれるのか不安もありましたが、役職員の皆さんが非常に協力的で、すぐに杞憂であったことに気付きました。会務を通じての多くの方との出会いに感謝しております。

### 真の意味で経営者に寄り添う

**福田** これまで地域に貢献したこと、今後地域にどう貢献していきたいかを教えてください。

**庄司** 自身の事務所では、毎年、顧問先・金融機関関係者・同業者を招き勉強会を開催しているほか、顧問先の事業承継対策にも携わっております。業務に取り組む中で私が常に意識しているのは、「地域のために仕事をする」ということです。真の意味で経営者に寄り添い、「耳が痛い」と思われるようなこともあえてお伝えするようにしております。

今後は培った知見を活かして、持続可能な社会づくりの一翼を担っていくことが目標です。例



えば、昨今、**農業の担い手**が激減しています。農業に興味のある人たちと農家を結び付ける組織の構築や運用といった観点でも、私たち公認会計士が重要な役割を果たせるものと確信しております。

千葉会としては、これまでの取組みを継続し、新たにお手伝いできる領域には積極的に参画してまいります。現在、自治体や公益法人などから年間30件以上の推薦依頼やご相談があり、延べ50名以上の会員を推薦しています。若い会員の皆さんも、ぜひ千葉会の活動へ積極的に参加していただきたいと思っております。

### 農業の担い手

日本は世界有数の農業大国として知られており、農業に従事する人口も多い状況です。しかし、農業人口に占める65歳以上の割合が非常に高く、後継者不足が問題となっております。

## 土地改良区問題への多角的な対応

### インタビュー

日本公認会計士協会千葉会業務担当副会長・かわぐち あきひろ  
公会計研究会担当副会長 **川口 明浩**

### 全国初の土地改良区検査立会業務制度とは

**福田** 土地改良区は、農地基盤整備や水利施設の整備、維持管理等の事業を行う組織で、農業者の加入強制や費用の強制徴収の権限を有する高い公共性を持つ法人です。千葉会は、この土地改良区の定期検査について、2020年度に千葉県が新たに立ち上げた土地改良区検査立会制度に全面的に協力しています。この制度の立上げにかかわってこられた川口副会長から、制度の概要についてご説明ください。

**川口** この制度は、土地改良法に基づいて知事が実施する土地改良区の定期検査において、県に任

### インタビュー

日本公認会計士協会千葉会研修担当幹事・ふくだ さちこ  
公会計研究会研究会長 **福田 佐知子**

用された公認会計士が県職員の方と一緒に実地検査に赴き、専門的な観点から検査を実施し、その結果を**検出事項として取りまとめると同時に改善提案も行う全国的にも先駆的な制度**です。

### 巨額横領事件の第三者調査等委員会に参画

**福田** この制度の発足には、県内で起きた巨額横領事件が影響しています。事件の概要と千葉会のかかわりの経緯についてお聞かせください。

**川口** 千葉県内屈指の大規模な土地改良区で発生し、約7億4,000万円の損害額を与えた横領事件です。2016年4月、職員の自白により事件が発覚し、国や県の特別な調査が入りました。

### ○第三者委員会

企業や組織において不祥事等が発生した際に、当事者以外の外部の有識者によって、その原因を調査し事実関係を明らかにするために設けられる委員会のことです。法令によって設置が義務付けられているものではありません。近年では、企業だけでなく、学校におけるいじめ問題やスポーツ競技団体におけるパワハラ問題等においても、第三者委員会が活用されています。

### ○単式簿記・現金主義

単式簿記は、現金・預金の入出金をベースにする「現金主義会計」を用いた簡単な簿記の方法を指します。また、現金主義とは、現金・預金の入出金時に取引が認められるとする考え方を指します。



横領事件の舞台となった干潟土地改良区の写真。圃場と排水機場建物が写っている

千葉会では、同年8月から同土地改良区の決算業務の支援しておりましたが、当時の**○第三者委員会**の調査が思うように進まず、理事長や職員から私たちに何度も相談がありました。10月に当初の第三者委員会メンバーを解任、**私を含む千葉会の会員2名と弁護士1名を構成員とする新たな第三者委員会が設置される**こととなり、正式に業務が始まりました。

### 丹念な調査で事件の全貌を解明

**福田** 第三者委員会の委員長として、刑事裁判や民事裁判にもかかわってこられたそうですが、公認会計士としてどのような貢献をされたのでしょうか。

**川口** 決算支援業務の中で、横領の内容をある程度把握していたことから、すぐに第三者委員会の活動をスタートし、10月中には刑事告訴し県警にも受理されました。土地改良区の調査では、**○単式簿記・現金主義**という公会計独特の会計制度や処理などを熟知していないと事件の真相をつかむことは困難です。私はかつて**東京都庁で予算編成や決算事務などに従事したことがあり、そ**

の経験も大いに活かすことができました。

### 公認会計士の技能がどのように活かされたのか

**福田** 第三者委員会の中で、弁護士とは異なる立場でかかわることについて、どのようなやりがいを感じましたか。

**川口** 調査活動では、単に横領の事実を会計的に解明するだけでなく、**複数の関係者への事情聴取や横領行為の隠蔽工作の形跡なども過去にさかのぼって調査し、その結果を裁判での証拠資料や証人尋問の際の事実認定の資料などに活用**しました。民事裁判の第1審は敗訴したのですが、控訴審では逆転勝訴し、調査活動の苦勞が報われた思いでした。

長年にわたる巨額の横領事件の全貌を解明することは、被害を受けた土地改良区に属する3,800人の組合員や地元の市町、国や県などステークホルダーへの情報提供にもつながる重要な業務であったと感じております。



左から、福田佐知子氏、庄司基晴氏、川口明浩氏

## 巨額横領事件の解決から改正土地改良法への対応へ

### 誠意ある調査対応が 国の法律も変えるきっかけに

**福田** この事件の発覚をきっかけに、土地改良法が改正され、それに伴う会計基準の改正などが検討された有識者会議に参加された中で、新たな学びはありましたか。

**川口** 2022年4月から土地改良区で貸借対照表を作成し公表することが定められ、有識者会議では会計基準の改正や財務諸表作成要領などの設定、指導・監督指針の改訂などが議論されました。

他県の所管部局や土地改良区連合会の職員の

方が現場の実情を代弁する貴重な意見や、国の役割を期待する意見などを踏まえた検討がなされ、**オールジャパンの視野で物事を把握し、正しい事実認識と理論とを調和させることの重要性を学びました。**

### 会計実務の指導を行う制度が始動

**福田** 2022年度から、公認会計士が土地改良区の会計実務を指導する制度が始まるということですが、ガイドラインの策定ではどのようなことが話し合われましたか。

**川口** 2018年6月の改正法の内容の1つに、監事

の監査機能の強化があり、監事1名を組合員以外から選任し会計面で監視することが想定されています。外部の監事を選任できない場合は、公認会計士などが会計面での指導を行うことが求められます。**ガイドラインの策定では、具体的な指導業務の内容や契約方法などが検討されました。**

### さらに広がる公認会計士の役割

**福田** 多くの公認会計士にとって、土地改良区という団体は馴染みがないものでした。今後、公認

会計士が土地改良区の会計や監査にかかわる機会は増えていくのでしょうか。

**川口** 改正法では公認会計士などによる指導業務が必要となり、将来的には、公認会計士による外部監査制度の導入が予想されます。**全国的にも、土地改良区の会計監査にかかわる機会はますます増えていくと考えております。**



## 土地改良区検査立会業務制度の立上げに寄与

### 新制度発足は業務拡大の貴重な機会

**福田** 2020年4月、千葉県が全国に先駆けて導入した本制度の立上げに際して、千葉会の担当役員としてどのようにかかわってこられたのでしょうか。

**川口** 県職員の方から、検査体制の問題点や課題解決のために公認会計士の専門的な知見を活用したいという相談を受けました。そこで、制度の正式導入の数か月前から数回にわたって勉強会を実施し、職員の方々よりよい検査実施体制について議論を重ねました。

**この新たな制度は、会員の業務拡大につながると思っております。この業務への従事を希望する会員には、千葉会独自の研修会の受講を義務付け、実務における会員の悩みや課題を随時**

把握し、研修会の内容に反映させています。

### 的確な指摘と改善提案が高く評価される

**福田** 新制度導入から2年目となりますが、この業務に従事する会員への評価はいかがでしょうか。また、この制度が今後も根付くために千葉会としてどのような対応が必要なのか、考えをお聞かせください。

**川口** **県の方々からは、質問への回答が明快であり、指摘と改善提案が的確であると高い評価をいただきました。**

会員を推薦する立場として、今後も業務の品質向上に向けた取組みを継続します。さらに、来年度から始まる会計指導業務にも円滑に対応できるよう、会員への情報提供や研修会を実施する予定です。

## 読者へのメッセージ

### 「温故知新」を胸に未来を築く

**福田** 最後に、所属会員やステークホルダーへメッセージをお願いします。

**庄司** 会員の皆さんには、自治体の委員や包括外部監査人などに就任いただき、地域に貢献してくださることに感謝申し上げます。

**私自身、人生で多くの先輩方にお世話になり、「温故知新」を座右の銘にしております。若い皆さんも先輩方のお世話になる機会が多々あると思いますが、その恩をぜひ後輩へと還元してください。そして、公認会計士の仕事は、確実に社会に価値を提供しているという誇りを持ち続けてほしいと思っています。**

### 温故知新

過去にあったことをよく調べ、学び、そして得られた知見を活かして新たな知識を得ることをいいます。「論語」の記述「温故而知新 可以为師矣」（故きを温ねて新しきを知らば以って師となるべし）に由来します。

### 日本公認会計士協会千葉県

〒260-0013 千葉県千葉市中央区中央1丁目11番1号 千葉中央ツインビル1号館 9階

所轄のエリア ● 千葉県

会員・準会員数 ● 892名(2021年7月末現在)

TEL ● 043-305-4203

FAX ● 043-305-4204

URL ● <https://www.jicpa-chiba.jp/>

※上記の会員・準会員数は監査法人を除いた数値です。



# 女性と若手の視点を活かした 東京会独自の取組を通じて 課題解決にチャレンジ

日本公認会計士協会  
東京会



日本公認会計士協会東京会会長 みねぎし よしゆき  
**峯岸 芳幸**

新型コロナウイルス感染症の影響により誰も想像できなかった変化が訪れ、社会も経済も私たちの日常も様変わりしました。東京会でも多くのイベントが中止・延期となりましたが、感染防止対策を講じた上で開催やオンラインでの開催など、新たな取組にもチャレンジしてみようと、一歩踏み出したところです。今回は、そんなコロナ禍においても活発に活動してい

る女性と若手公認会計士の視点に着目した東京会の取組にスポットを当てたいと思います。

東京会は会員・準会員数が2万名を超える大所帯ですので、女性会計士、若手公認会計士の数も全国でも多く所属している地域会となります。そこで、女性会計士・若手公認会計士の声を通じて東京会の活動と社会に貢献する公認会計士をご紹介します。

## 社会に貢献できる公認会計士であり続ける

インタビュイー

日本公認会計士協会東京会会長 みねぎし よしゆき  
**峯岸 芳幸**

### 都心と地方を含む “日本の縮図”のような地域会

**飯塚** 東京会の特徴について教えてください。

**峯岸** 東京会は1都6県(東京都・茨城県・群馬県・栃木県・長野県・新潟県・山梨県)を管轄エリアとし、**全国に約4万人いる会員・準会員のうち約2万3千人が所属する大規模な地域会**になります。

東京会の会員は、監査業務をはじめ、多様な分野でのコンサルティング業務のほか、社外役員や組織内会計士として活躍されている方も多く、税務業務においても、個人で開業されている方、税理士法人に所属されている方など多種多様です。

また、**一口に東京都に限ってもエリアごとに特色があり、会員が抱える問題やニーズは全く異なります**。そこで、東京会では、支部として30の地区会を設置し、各地区会長が東京会の役員に就任する制度を設けることで各地区の声を施策に反映させております。この地区会は、東京が23区と三多摩、及び6つの**〇県会**で構成されていますが、所属会員数や地域の実情も異なるため、これ

インタビュアー

日本公認会計士協会東京会常任幹事 いづか さちこ  
**飯塚 幸子**

らの地区会を一律に扱うことは難しい状況にあります。

東京会というと都心一極集中のイメージをお持ちの方もいらっしゃると思いますが、**他の地域会が抱えている悩みも併せ持つ、“日本の縮図”のような地域会**といえるかもしれません。私たちは今後も地域の特色に合わせて、地域に根ざした活動を展開していきたいと考えております。

### 父の遺志を受け継ぎ、地元へ根ざす

**飯塚** 現在従事されている業務内容やこれまでのキャリアについてお聞かせください。

**峯岸** 現在は税理士法人の代表社員として、税務業務に従事しております。大学卒業後は監査法人に入所し、監査業務に従事しておりましたが、税理士事務所を営んでいた父の急逝により28歳で事務所を承継いたしました。**父から受け継いだ事務所を運営するかたわら、比較的規模の小さなクライアントの監査業務や上場企業の社外監査役、地元である練馬区の監査委員などを経験してまいりました。**

#### 〇県会

東京以外の管轄エリアについては、各県に県会(茨城県会、群馬県会、栃木県会、長野県会、新潟県会、山梨県会)を設置しています。

**飯塚** 会務にはどのようなきっかけで携わるようになったのでしょうか。

**峯岸** 50歳を前に地元の公認会計士の先輩にお声がけいただき、練馬会の会長に就任したことがきっかけになります。その後、東京会の常任幹事、副会長を経て、会長に就任いたしました。

### 自身の職務を通して社会へ奉仕

**飯塚** これまでに行った地域貢献につながる活動についてお聞かせください。

**峯岸** 練馬区の監査委員を務めたほか、地元の税務関連団体の活動にも携わってまいりました。業務外では、**ロータリークラブ**に加入しています。ロータリークラブでは、奉仕活動の根幹を自身の仕事を通じて社会に奉仕する職業奉仕にしています。**ロータリアンが常に覚えておくべきこととして、「真実かどうか」、「みんなに公平か」、「好意と友情を深めるか」、「みんなのためになるかどうか」という4つの問いがありますが、私はこの4つを自らの判断基準とし、よく頭に思い浮かべながら会務に従事しております。**

### 多様な課題解決に生きる女性や若手の視点

**飯塚** 今後、地域へどのような形で貢献していきたいとお考えですか。

**峯岸** 東京会では重点施策の1つに、地域社会への貢献を掲げております。**包括外部監査人など**



左から、飯塚幸子氏、峯岸芳幸氏

**への就任や非営利・公会計分野への支援のみならず、コロナ禍における中小企業支援も重要な課題として向き合っていきたいと考えております。**

また、SDGsの達成に向け、日本公認会計士協会として積極的に取り組んでおります。SDGsの項目では、日本は特に「ジェンダー平等」への対応で後れをとっているといわれていますが、**東京会では女性会計士活躍促進プロジェクトチームを設置し、インタビュアーの飯塚さんがリーダーとなって、この分野の課題解決に取り組んでいます。**また、こうした世界規模での課題解決には、若い方々を含めて幅広い層の柔軟かつしなやかで自由な発想が不可欠であると考えます。

ここからは、女性活躍と若手会員の視点を活かした東京会の特徴的な取組として、女性会計士活躍促進プロジェクトチームと青年部特別委員会についてご紹介いたします。

### ロータリークラブ

国際的な社会奉仕連合団体「国際ロータリー」のメンバーである単位クラブを指します。その構成員をロータリアンと呼びます。世界初の奉仕クラブ団体で、200以上の国と地域に約33,000のクラブを擁しており、会員数は約120万人となっています。

### 女性会計士の活躍

諸外国の公認会計士に相当する資格の女性比率は、米国約50%、カナダ42%、オーストラリア36%、英国35%、フランス23%となっています(日本公認会計士協会 会計大学院協会 会計専門職人材調査に関する報告書(平成27年6月25日)より)。一方で、日本の公認会計士の女性比率は、14.5%となっています(2020年12月末現在)。

### 東京CPAニュース

日本公認会計士協会東京会が所属会員向けに発行している会報の名称です。

## ロールモデルとなる女性会計士を増やしていくために

### 女性だけでなく東京会全体で課題に向き合う

**飯塚** 日本公認会計士協会では、**女性会計士の活躍**を促進するために、「2048年度までに会員・準会員の女性比率を30%へ上昇させる」、「2030年度までに公認会計士試験合格者の女性比率を30%へ上昇させる」という2つのKPIを設定し、継続的な改善を図っています。東京会の女性会計士活躍促進プロジェクトチーム(以下「プロジェクトチーム」といいます。)では、**このKPIの達成を目指し、調査研究グループ、研修・ネットワーキンググループ、広報グループという3つのグループ構成で活動**しております。

コロナ禍においては、一部活動を制限されることもありましたが、セミナーをオンラインに切り

替えたり、SNSを利用して情報発信をしたりなど、各グループで工夫しながら柔軟かつ機動的に活動を継続しています。

先日、**調査研究グループでは、女性会員を対象に今抱えている課題や必要としている施策に関するアンケートを実施**しました。この回答結果を**東京CPAニュース**2021年7月号及び8月号に掲載いたしました。協会が実施する同種のアンケートと比較し回答率が非常に高く、このテーマに対する女性会員の関心度の高さがうかがえました。たくさんのコメントをいただきましたので、**このアンケート結果を今後の女性会計士活躍促進のための活動に利用していきたい**と考えています。

**峯岸** 2つのKPIを達成するためには、やはり女性だけでなく男性も意識的にこの課題に向き合

## OCPA TALKs

青年部が主催するTED形式のプレゼンテーションイベントです。例年3月に実施しています(<https://jicpa-tokyo-cpa-youth.jp/cpatalks/>を参照のこと)。



うことが重要であると思います。そのためにも、このプロジェクトチームのメンバーの方々に、これまで以上に東京会にある他の委員会との連携を進めていただき、アンケート等で得られた貴重な意見や課題を共有し、会務全体に反映させていきたいと考えています。また執行部としまして、女性会員の皆さんと交流し、意見交換の機会を設けることの必要性を感じております。

### 監査法人で活躍できる女性のリーダーを

**飯塚** 業界の将来を考えると、公認会計士の業務の根幹である監査の世界で、しかるべき役職に就くなど後進のロールモデルとなる女性会計士の人数を増やすことが重要ではないかと感じております。この点について峯岸会長はどのようにお考えですか。

**峯岸** 近年、監査法人に所属する公認会計士の割合は減少傾向にあるといわれていますが、監査以外の業務に従事する公認会計士の地位や社会



女性リズム研修会の模様



的認知を高めるためにも、監査に従事する方々が自らの業務に誇りを持って働き続けられることが大切であると考えます。東京会では、監査の現場で活躍できる女性のリーダーを1人でも多く増やすために、監査業務の魅力を高めようと頑張っておられる方々の意見を拾い上げ、監査業務の必要性を会員の皆さんに伝えていくことに力を注ぎたいと思っています。そうすることが、女性の方々が働きやすい環境整備の一助となることを期待しております。



元タカラジェンヌに学ぶ!研修会での写真

## 読者へのメッセージ

### 会員同士の連携によって好循環を実現

**飯塚** 地域に貢献している所属会員や、若い会員へメッセージをお願いします。

**峯岸** 地域に貢献されている会員の方々には、自

らの経験をほかの会員の方々に伝えることや、会員同士で役割を分担することなどを通して、その活動の幅を広げていただきたいと思います。点と点を繋ぎ、面を広げていくことにより、**社会に貢献する公認会計士としてのよりよい循環が生ま**

# 若手の発信力で公認会計士の魅力を広く伝える

青年部特別委員会委員長 **宮本 翔**  
みやもと しょう

## 若手が活躍する青年部特別委員会

私は、東京会が全国に先駆けて立ち上げた組織である青年部特別委員会の第6期・第7期の委員長を務めております。青年部では監査法人や独立開業されている方から組織内会計士まで多種多様な若手の会員が活動しております。

## 多様な公認会計士が登壇する「CPA TALKs」

私が青年部と接点を持ったきっかけは、2017年に初めて参加した「**CPA TALKs**」になります。現在私が携わっているスポーツの分野も含む多様な分野で活躍する公認会計士の方々のプレゼンテーションが**想像していた以上に公認会計士が活躍できる領域が社会に広がっていることを実感**する機会となりました。このイベントのように、**若手の発信力と人脈や信頼を活かし、今後も青年部での活動を通じて公認会計士の魅力を広く伝えていきたい**と考えております。



CPA TALKs 2021 現地の写真

## スポーツを通じて出会った新たな価値観

私にとってスポーツは特別なもので、公認会計士試験の受験勉強で大変な時期に北京オリンピックを観て勇気づけられたことも思い出されます。その後、東京オリンピックの招致が決定したこともきっかけとなり、監査法人での業務のかたわら大学院の

スポーツ科学研究科の社会人修士課程に入学いたしました。**大学院では元プロアスリートやクラブ経営者に至るまで、スポーツに関わるさまざまな業界の方々と交流することで、新しい価値観に出会うとともにこれまで気づくことのなかった会計業界の外からみた公認会計士へのニーズを知ることができました。**



宮本 翔氏

## 社会的価値の見える化に貢献

ESG投資やSDGsのようにこれまでとは異なる価値観や投資の仕組みが注目される中、スポーツの分野においても社会的価値を数値化する取組が始まっています。このような業務を公認会計士が担うことでデータの信頼性が高まり、投資活動が増えるというよい循環をつくることが可能になると考えます。**スポーツビジネスの社会的価値を見える化する領域では、公認会計士の活躍の場はさらに広がっていくだろう**と考えております。

## 公認会計士だからこそできる社会貢献を

これまでの経験から、公認会計士はビジネスや経済を支え、多様な業界で社会貢献できる存在であると感じております。**若い方々には、さまざまなコミュニティで多様な価値観と触れ合い、興味のある分野で積極的に経験を積むことを通じて、公認会計士だからこそできる社会貢献を目指していただきたい**と思います。

れるのではないかと考えております。

若い会員の方々には、世代を超えた交流をしていただくとともに、監査業務の魅力にも改めて意識を向けていきたいと思っております。根幹となる資質は監査業務で培われたはずですし、さまざまな経験を経て監査の世界へ戻ってくることも1つの選択肢であると考えます。**東京会では新しい領域で挑戦されている方はもちろん、監査の現場で自己実現を目指す方々も応援していきたい**と思っております。

そして、会員の皆さんが、会計プロフェッションとして培った倫理観を持ち、それぞれが与えられ、求められている役割を果たしていくことが、社会貢献へとつながると信じております。



## 日本公認会計士協会東京会

〒102-0074 東京都千代田区九段南4-4-9 ニッキン第2ビル 6階・7階・8階

所轄のエリア ● 東京都、茨城県、群馬県、栃木県、長野県、新潟県、山梨県  
会員・準会員数 ● 23,718名(2021年7月末現在)  
TEL ● 03-3515-1180  
FAX ● 03-3515-1190  
URL ● <https://tokyo.jicpa.or.jp/>

※上記の会員・準会員数は監査法人を除いた数値です。



# 経営と教育のその先へ 公認会計士が切り拓く未来

日本公認会計士協会  
神奈川県会



おおた まさはる  
日本公認会計士協会神奈川県会長 **太田 眞晴**

東京オリンピック2020が開催されましたが、首都圏の新型コロナウイルス感染者数は今までにない速さで急増しております。神奈川県会の会員の皆様に対しても、研修活動はリモート研修が中心となり、厚生事業やイベント事業なども開催ができない状況となっております。

そういった中でも公認会計士の業務は広がりを見せており、公認会計士に対する社会からの期待や要請に我々は応えていかなければなりません。

リモートワーク業務の定着、デジタルトランスフォーメーション(DX)への対応、大規模災害の発生や疫病の蔓延下での業務のあり方改革等に対応するよう力を注いでまいります。

2022年は第43回日本公認会計士協会研究大会横浜大会が開催されます。神奈川県会にとっても設立10年目の節目となりますので、多くの皆様の参加を期待しています。

## ホスピタリティを大切に目の前の仕事に 全力で取り組み、道を切り拓く

インタビュイー

おおた まさはる  
日本公認会計士協会神奈川県会長 **太田 眞晴**

### 東京に隣接する神奈川とは

**河合** 神奈川県会の特徴についてお聞かせください。

**太田** 東京会から独立した神奈川県会は神奈川県のみで構成されています。会員・準会員は1,800名を超え、会員数の規模としては全国で4番目となる地域会です。

神奈川県会は、監査法人に所属する会員や、首都圏に位置し指折りの企業が本社機能を有することから、そのような企業に勤務する組織内会計士が多いことが特徴です。また、大学の教員や理事・監事として大学の経営に携わる方、企業の社外役員などを務めている会員も多くおります。

### 公的な業務と自身の仕事を両立

**河合** 現在従事されている主な業務やこれまでのキャリアについてお聞かせください。

**太田** 現在は、神奈川県会の**〇監査委員**に就任している関係もあり、こちらの業務の比重が高いものの、監査や税務業務、また、地元の大学の監事も務めております。

インタビュアー

かわい ちひろ  
日本公認会計士協会神奈川県幹事 **河合 千尋**

公認会計士試験合格後は監査法人に就職し、監査業務に従事いたしました。30代で独立し会計事務所を立ち上げ、主に税務業務に従事した後、40代半ばで公認会計士の仲間とともに監査法人を設立しました。そして、50代になって再びその法人を脱退し個人事務所の業務を中心に現在に至っております。

独立後はゼロからのスタートで、親戚から紹介を受けた地元の鮮魚店の税務顧問業務が独立後に初めて得た仕事でした。それ以来、横浜を拠点に、顧問先が知己の方をご紹介くださり1つひとつ誠心誠意応えていくうちに、都内を含めてお声掛けくださるクライアントが自然に増えていきました。

### 幅広い業務内容が魅力

**太田** 日本経済新聞を読み始めた時期が早かったこともあってか、中学生のころには公認会計士という職業名は知っていました。公認会計士を目指し、受験すると決めたのは大学3年生のころです。将来、独立できることや業務の幅が広いこと、そして海外で活躍できる可能性が高いことに魅

#### 〇監査委員

監査委員は、知事等から独立した、独任制の執行機関です。監査委員は、県の事務事業について、合規性、経済性、効率性、有効性の視点から監査を行っています。また、知事等からの事務監査請求や県民からの住民監査請求等があった場合にも監査を行います。

力を感じたことが公認会計士を志すきっかけとなりました。

### 東京会から神奈川県会へ

**河合** 会務に携わることになった経緯を教えてください。

**太田** 神奈川県会がまだ東京会の県会であったところに東京会の業務委員会の委員に就任したのが会務経験のはじまりです。当時は、**経営危機にある地元企業の事業再生案件が多く、自身の業務の糧になる**と思い自ら手を挙げました。東京会では委員会活動に長く関わり、**神奈川県会の設立**の際に副会長に就任し、2019年に会長に就任しました。

### 地元企業の再生に携わる

**河合** これまで携わってきた地域貢献についてお聞かせください。

**太田** **神奈川県中小企業再生支援協議会**で、**経営危機に陥った企業の再生計画の策定に携わった**ことが挙げられます。民事再生法施行後は、次第に案件が増えていき、再生支援協議会での公的な業務と自身の事務所の業務とのバランスをとるのに苦労したことを覚えています。

### 会務を通じて地域貢献を

**河合** 会務等を通じて、今後、どのように地域に関わっていこうとお考えでしょうか。

**太田** 会務に深く関わることとなった話に関連しますが、お陰様で多くのクライアントを抱えて業務に邁進しましたが、あまりにも複数のクライアントを抱えるがあまり、クライアントの経営者と遠のくようになり、規模の拡大を求めることが



よいか疑問を感じるようになりました。その最中、東日本大震災の影響で事務所が被災し、移転することになりました。この**事務所移転を機に事業規模を縮小し、これまで以上に地域のクライアントに寄り添っていきける体制といたしました。**

また、偶然にも、移転した事務所が神奈川県会の至近であることもあり、今後も会務を通じた地域貢献に注力していきたいと思います。

2022年には神奈川県会が設立されて以来、初めての研究大会の開催が予定されております。会長の任期満了後も研究大会の実行委員長として会務に携わる予定です。また、2027年に横浜市で開催される**国際園芸博覧会**推進委員会の監事も務めており、**公認会計士の知見を活かして一大イベントの開催をバックアップしていきたい**と思っております。

#### ○神奈川県会の設立

神奈川県会は、1967年から東京会の県会として活動をしていましたが、協会の組織改革の一環として2013年4月1日付けで地域会として独立しました。

#### ○神奈川県中小企業再生支援協議会

中小企業の事業再生に向けた取組みを支援するため、産業競争力強化法に基づき、都道府県ごとに設置されている公正中立な公的機関です。

#### ○国際園芸博覧会

オランダのハーグ市にある国際園芸家協会の認定を受けて開催される国際的な博覧会です。園芸文化の普及や花と緑のあふれる暮らし、地域・経済の創造や社会的な課題解決等への貢献を目的に開催されています。

## 公認会計士として大学経営を見きわめる

### 自分を磨く場所として 公立大学監事を選択する

**河合** ここからは、公認会計士の専門性を活かした大学との関わり方をテーマに、大学経営と教育にフォーカスしたいと思います。まず経営サイドで大学へ関わる太田会長におうかがいします。公立大学法人横浜市立大学の監事に就任し3年目とのことですが、監事に就任された経緯を教えてください。

**太田** 公立大学法人の会計は、企業会計原則を

ベースとして独立行政法人特有の会計処理方法を加味した地方独立行政法人会計基準によるという特徴があり、その内容をチェックするには高い専門性が求められます。**私にとって非常に興味深い分野で是非携わりたいと思い、立候補で監事に就任**しました。

### 高度なスキルが求められる 監事としての役割

**河合** 大学での監事と企業の社外監査役との共通点や相違点をお聞かせください。

**太田** 皆さんが想像されるほどの大きな視点の相違はないと思っております。ただし、公立大学法人の特殊なところは、あらかじめ市長や議会の承認を得た中期目標や計画に基づいて、事業内容

の達成度を評価されるところにあります。また、**財務諸表が驚くほど詳細で公的な計算書もあるため、一般的な社外監査役と少し異なるスキルと経験が求められます。**

## 新しい教育の形で公認会計士の存在を伝える

インタビュー

いしだ はるみ  
石田 晴美  
文教大学経営学部教授

インタビュー

かわい ちひろ  
河合 千尋  
日本公認会計士協会神奈川県幹事

### 子育てを通して興味を持った公会計制度

**河合** 続いて、教育者として大学で教鞭をとり、学生たちと日々接しておられる石田先生にお話をおうかがいします。大学教授になられたきっかけや経緯を教えてください。

**石田** 監査法人退所後、子育てをする中で**行政サービスを身近に感じ、市・県の決算書を手にとったことがそもそものきっかけ**です。市・県の決算書はとてもわかりづらいものでした。そこで、**公会計制度に理解可能性の低さという課題があるのではないかと考え、このテーマを学ぶために大学院に進学し、博士の学位を取得**しました。

### 目標を達成するために 考え工夫することの重要性

**河合** 石田先生のゼミからは、卒業生を含めて、毎年、公認会計士試験の合格者が輩出されています。教育者の立場から公認会計士を目指す学生に期待することを教えてください。

**石田** 10年以上前に、「僕は公認会計士になれるか？」と質問に来た学生がいました。私は、「『公認会計士に絶対なる！』と決めた者だけが公認会計士になれる」「他人の意見で受験を決めようとする者に受験資格はない」と追いました。そ

の学生はその後「公認会計士になる」と決め、公認会計士になり、卒業後、ゲスト・スピーカーとして大学で「正しい努力が重要」と後輩に話をしてくれました。「正しい努力」とは、目標を達成するために何をすべきかを常に自分の頭で考え工夫し、軌道修正し続けることです。公認会計士試験は単に勉強時間を積めば合格できるものではありません。**公認会計士を目指す学生には、「本当に公認会計士になりたいのか」を自分の心と向き合って確かめることと、「絶対になる」と決めたら「正しい努力」をするよう伝えています。**

### 学生が教員に見せる顔はほんの一部分 学生は成長する

**河合** 学生と接する中で、学生から逆に気付かされるというようなご経験はありますか。

**石田** 15年以上の大学教員の経験から「**学生は大きく成長すること**」と「**授業に興味がないこと＝だらしのない学生ではないこと**」、「**学生が心から真剣に取り組んでいる分野では、その学生は輝いていること**」を学びました。

授業で学生が見せる顔は、ほんの一部分にすぎません。できるだけ広い心で多面的に学生を見るようにしています。

### 若者に公認会計士の魅力を伝える

**河合** 公認会計士である教育者として、心がけていることはございますか。

**石田** 職業選択肢の1つに公認会計士があることを示すよう心がけています。けれど、私の話は「年配者の自慢話」程度にしか学生に響きません。そこで授業では公認会計士の卒業生をゲスト・スピーカーに呼び、公認会計士を目指したきっかけや受験勉強の仕方、仕事内容について話をしてもらっています。**卒業生が話すことで、「雲の上の難しそうな資格」から「頑張れば手の届く資格」に学生の意識を変えたい**と思っています。



左から、河合千尋氏、太田真晴氏、石田晴美氏

## 教育効果が高いオンライン授業

**河合** コロナ禍での新しい授業の形や今後の展望についてお聞かせください。

**石田** コロナ禍により日本の大学教育のデジタル化が劇的に進みました。しかし、実は10年以上前から、多くの先行研究がオンライン授業の教育効果の高さを明らかにしています。私も昨年の授業で、オンライン授業の教育効果と将来性を実感しました。特に、初学者向け簿記授業とオンデマンド授業は相性がよいと感じました。また、**Zoom等を用いたオンライン・リアルタイム授業は地理的制約を外してくれるので、遠方から多彩なゲスト・スピーカーを招くことができました。**今後も新しい知見を取り入れ、教育効果の高い授業の在り方を模索していきたいと考えています。

## 自分の頭で考え抜く力が重要

**河合** 今後、社会から求められる職業会計人像とはどのようなのだとお考えですか。

**石田** 今回の新型コロナウイルス感染拡大で社会環境は急激に変化しました。今後も、少子高齢化、環境問題、AIの進化等で社会環境は大きく変わっていきます。

**時代の変化に柔軟に適應するためには、自分の頭で考え抜く力が重要**です。2021年6月の日本経済新聞「**私の履歴書**」で、木瀬照雄氏(TOTO株式会社社長)が「**過去の延長線上には未来はない。正しいことを見抜けることが大切だ**」と書かれていました。**公認会計士の世界にも全く同じことがいえる**と思います。

## 読者へのメッセージ

### 顔を合わせることで活躍の場を広げてほしい

**河合** 最後に、後進へのアドバイスやメッセージをお願いいたします。

**太田** コロナ禍で外出しにくい状況にあり、リモート会議も日常化してきました。最近、会員の方々と対面でお話する機会が減少しておりますが、**特に若い会員の皆さんにとっては、地域のさまざまな組織の方と顔を合わせて対話することが、公認会計士として業務の幅を広げる上で大切**であると思います。

公認会計士は地域社会との接点が少ない士業



**石田晴美氏** 公認会計士第二次試験合格後、監査法人に勤務。監査法人退所後、大学院へ進学。博士号を取得しアカデミックの世界へ進み現在に至る。研究活動のほか、多くの国・地方公共団体の委員会の委員を歴任している。

## オンラインで教育の間口が広がる

**河合** 会計における**リカレント教育**の在り方についてご意見をお聞かせください。

**石田** 昨年、日本商工会議所が簿記検定試験にネット試験を導入しました。ネット試験はCBT方式で1年間を通しほぼ毎日受験可能で、合否は即日交付されます。今まで50年以上、1年に3回しか受験機会がなかったことを考えると、簿記試験の間口は大きく広がりました。

**教育のデジタル化は、学びの制約を大きく低減**します。これからは、**安価で高品質・多様なオンライン講座が増えていく**でしょう。**社会人が会計のスキルアップを可能にするチャンスは増大していく**と考えています。

### 私の履歴書

日本経済新聞朝刊最終面(文化面)に掲載されている連載を指します。連載のスタートは1956年。各界の著名人の出生から現在に至るまでの半生が描かれています。

### リカレント教育

学校教育から離れた後も生涯にわたって学び続けることを指す言葉です。就職した後も学ぶことをやめず、仕事や余暇と交互に教育を受けることが望ましいとされています。1970年に経済協力開発機構(OECD)が公式に採用し、1973年に「リカレント教育―生涯学習のための戦略―」報告書が公表されたことで国際的に広く認知されました。

であると誤解されることもあります。そうした認識を払拭する気持ちで、活躍の場を広げていただきたいと思います。

### 日本公認会計士協会神奈川県会

〒231-0011 横浜市中区太田町2-23 横浜メディア・ビジネスセンター 6階

所轄のエリア ● 神奈川県

会員・準会員数 ● 1,886名(2021年7月末現在)

TEL ● 045-681-7151

FAX ● 045-681-7152

URL ● <https://www.jicpa-kanagawa.jp/>

※上記の会員・準会員数は監査法人を除いた数値です。



# 公認会計士だからこそできる 中小企業支援の形を追求する

日本公認会計士協会  
東海会



ひさまつ ただし  
日本公認会計士協会東海会会長 **久松 但**

東海会は、東海地区4県、愛知県・静岡県・岐阜県・三重県に所属する会員で構成されており、19の委員会と3つの小委員会で、会員サービスのほか、地域のステークホルダーの業務に役立つ会務活動を行っています。

また、東海地区は自動車などの製造業が盛んな地域であり、監査対象となる企業のほか、関連する業務に係る中小企業も多くあります。東海会に所属する会員の中には税理士資格を保有する会員も多く、中小企

業にも役立つような経営に関するアドバイスも行っています。

会務活動では、会計基礎教育の一環として、小中学校の子どもたちに対して会計の面白さを伝えるべく、ゲーム感覚で楽しめる「ハロー！会計」を4県各地で実施しています。誰でも参加できる公開講座を中心に、名古屋市のほか、岐阜市、四日市市、静岡市、浜西市などで実施しています。

## 日本の製造業を支える東海地区で 幅広い分野で地域に貢献

インタビュー

ひさまつ ただし  
日本公認会計士協会東海会会長 **久松 但**

### 沼津市

首都100キロメートル圏に位置する静岡県東部の市です。恵まれた自然環境と優れた地理的条件の下で、東駿河湾地域、伊豆方面への交通拠点、広域的な商業・文化拠点として、古くからこの地域の政治、経済、文化の中心的役割を担っています。

### ドナ・サマー

アメリカ合衆国の歌手でシンガーソングライターです。グラミー賞を5回受賞しています。2013年にはロックンロールの殿堂入りを果たしています。なお、ディスコ・ミュージックの第一人者として活躍したことから「ディスコの女王」の異名を持っています。

### 公認会計士試験 大学別合格者数 ランキング

公認会計士・監査審査会が公式に発表しているランキングではなく、大学の同窓会組織が独自に調査公表しているランキングを指します。

### 自動車産業を中心とした ものづくりの集積地

**柘植** 地域と東海会の特徴を教えてください。

**久松** 東海会は、愛知県、静岡県、岐阜県、三重県の4県で構成されています。トヨタ自動車株式会社をはじめとした自動車産業を筆頭に、製造業が盛んであることが東海地区の特徴です。

**名古屋市には大手監査法人の事務所が所在し、愛知県全域では中小規模の監査法人も多く所在しています。その一方で、東海地区全体では製造業の下請けを担う中小企業が多いことから、税務業務を中心にサービスを提供する個人の会計事務所も多いことが特徴です。東海会における監査法人と個人の会計事務所の割合は約半分ずつとなっております。**

### 監査法人時代の経験を糧に

**柘植** 現在従事されている業務やこれまでのキャリアについてお聞かせください。

**久松** 現在は、**沼津市**に会計事務所を構え、**監査法人での経験を活かし、社会福祉法人や公益**

インタビュー

つげ さとえ  
日本公認会計士協会東海会副会長 **柘植 里恵**

**法人の監査業務のほか、税務業務にも従事**しております。

公認会計士試験合格後は監査法人に入社し、6年ほど大手上場企業の監査業務に従事しました。**監査法人時代は上場企業の監査だけではなくパブリック分野の業務に携わる機会もあり、これらの知見を独立開業後の業務に活かすことができている。**

### 将来性が高く独立が 可能であることに惹かれ

**久松** 高校時代は、海外へのあこがれから商社に就職して海外赴任したいと考えておりました。しかし、大学入学後、最初の英語の授業で担当の先生が米国の女性歌手である、**ドナ・サマー**の曲を流し、「この曲の歌詞を書き取りなさい」と言われました。難易度の高い課題であるにもかかわらず、たやすく書き取っている学生がいることに衝撃を受け、海外赴任へのハードルの高さを実感しました。

その後、簿記の授業を受講した際に、**進学した大学が公認会計士試験大学別合格者数ランキ**

ングでトップであることを聞き、初めて公認会計士という職業を意識しました。

そして後日、書店で購入した公認会計士試験の合格体験記を読み、公認会計士の、業務の幅広さや独立ができる資格であることを知り、公認会計士を目指すことを決意しました。

### 会務を通じて得た豊かな経験と人脈

**柘植** これまでの会務の経験と会務に携わってよかったと感じたことをお聞かせください。

**久松** 2004年に静岡県支部の幹事に就任した後、東海会の幹事、副会長などを経て、2019年に会長に就任いたしました。

会務に携わったことがきっかけとなり、包括外部監査の補助者や責任者、静岡県弁護士会の東部地区の会計顧問に就任するなど、業務の幅が広がりました。また、多様な職種の方々や人脈をお持ちの方と出会うことができたことも私のキャリアの大きな糧となっていると感じております。

### 多様な分野で地域の課題解決に貢献

**柘植** これまでに行ってきた地域貢献につながる活動について教えてください。

**久松** 2007年から沼津市教育委員会の委員を8年務め、そのうちの2年間は沼津市教育委員会委員長とともに県代表として静岡県市町教育委員会連絡協議会の会長も務めました。また、財務・会計の知見を有する専門家ということで、沼津市の方から直接ご指名いただき、市の各種委員会の委員をお引き受けしました。業務の観点では、静岡県包括外部監査人を務めたほか、弁護士と協働して、沼津・伊豆地区を中心にホテル・観光施設等の民事再生事件に関わる業務を多数引き受けてまいりました。

## 地域の中小企業支援のために生まれた無料相談所「経営ソムリエ相談センター」

### 地域の中小企業を支援するための地域会独自の施策

**柘植** 東海会でこれまでに行ってきた中小企業に対する施策についてお聞かせください。

**久松** 東海会では、地元の弁護士や学者の先生方と共同で設立した「名古屋中小企業支援研究



### これまで以上に幅広いフィールドで地域を支えたい

**柘植** 今後、地域へどのような形で貢献をしたいとお考えですか。

**久松** 今後も公認会計士としての知見と技能を活かして地域に貢献していきたいと思っております。また、会計や税務といった面のみならず、大企業の監査を通じて得た知識を活かして、地域の企業の経営や自治体の運営に対して、コンサルティングの観点でも業務を通じて貢献できると感じています。

東海地区には日本を代表する大企業が多い一方で、大企業の下請けを担う中小企業も数多くございます。東海会としては、こうした中小企業の経営者から気軽に経営についてご相談いただける体制を構築し、直面している経営課題や事業承継問題の解決に寄与したいと考えております。

### 名古屋証券取引所

地方都市に拠点を置く証券取引所です。所在地が面する通りの名称から「伊勢町」の通称でも呼ばれています。かつては、東京証券取引所（東証）、大阪証券取引所（大証）とともに日本の三大市場と呼ばれていました。



会」での研究成果を取りまとめた「中小企業再生・支援の新たなスキーム」という書籍を出版いたしました。また、名古屋大学と、**名古屋証券取引所**とともに、勉強会や「大学発ベンチャーと証券市場の関係の在り方」をテーマとした共同研究も行ってまいりました。



左から、久松 但氏、柘植里恵氏

### ソムリエ

フランス、イタリアではソムリエの国家資格が存在していますが、日本では、日本ソムリエ協会が認定するソムリエ資格と全日本ソムリエ連盟が認定するソムリエ資格が存在しています。

### 相談者に合わせた最適解を提供したい

**柘植** 東海会では、中小企業支援施策の一環として、2021年6月2日に中小企業経営者向けの無料相談所「経営ソムリエ相談センター」を開設いたしました。開設までの経緯をお教えてください。

**久松** 東海会の中小企業施策委員会において、コロナ禍で苦境に立たされている中小企業を支



経営ソムリエ相談センターのパンフレット

援する方策を検討したことが開設のきっかけです。委員会では、公認会計士の知見を活かした支援を模索してきました。検討の結果、中小企業の資金繰り・資金調達、事業継続、事業承継問題などの経営に関する諸課題への相談にお答えできる無料相談所を設けることとなり、東海会の事務所内に「経営ソムリエ相談センター」を開設いたしました。

**ソムリエ**は、お客様の好みや料理に合わせて、豊富なワインの知識をもとに最適な1本をおすすめする専門家です。それと同様に公認会計士も専門的な知識と経験を活かし、相談者1人ひとりの状況や要望に合わせて最適解を提供したいという思いを、「ソムリエ」という言葉に込めています。

公認会計士は上場企業の監査に従事する職業であるというイメージが強く、中小企業の経営者や地域の皆様に、公認会計士の存在や提供できる価値をいかに知っていただくかが長年の課題でした。経営ソムリエ相談センターの活動を通じて、少しでも公認会計士を身近に感じてもらえるようにしたいと考えております。

### 柔軟で利便性の高い相談体制

**柘植** 経営ソムリエ相談センターの概要と中小企業経営者への周知の方法などをお聞かせください。

**久松** 相談可能な日時は毎週水曜日の10時から16時となっており、相談には、対面のほか電話やオンラインでも対応いたしております。

このような事業は、広報活動がきわめて重要であり、当センターの概要をまとめたパンフレットを作成し、地域金融機関や商工会議所を通じて中小企業の経営者に紹介していただいております。SNSを活用した広報活動も重要ではありませんが、比較的年齢層の高い中小企業の経営者の方々へ効果的に広報するために、やはり紙媒体での周知は欠かすことができないと考えております。

## 愛知県弁護士会との包括連携協定を通じて 中小企業支援をさらに加速させる

### 中小企業支援を充実させる包括連携協定

**柘植** 経営ソムリエ相談センターの設立と同時

に、愛知県弁護士会と包括連携協定を締結しました。協定締結の経緯や目的について教えてください。

**久松** 公認会計士は、企業法務について一定の知識を有しております。しかし、中小企業支援は、案件によって法務に関する高度なアドバイスが求められるケースがあることから、法律の専門家である弁護士との協力が不可欠となります。そういった観点から、愛知県弁護士会とは、共同研究や研修会など、これまでさまざまな連携を行ってきた実績があり、このたびの協定締結に至りました。この協定による活動の一環として、本年の7月16日には、中小企業経営に関する法律・会計セミナーと無料相談会をオンラインで共同開催いたしました。

また、愛知県弁護士会は「**LegalLincあいち**」(正式名称「あいち中小企業法律支援センター」)を5年前に設立し、地域で活動されています。こうした他土業の活動のベストプラクティスを取り入れつつ、経営ソムリエ相談センターも地域に貢献できる存在になりたいと考えております。

### 時代に即して経営ソムリエ相談センターの進化を目指す

**柘植** 経営ソムリエ相談センターの今後の展開について、お考えをお聞かせください。

**久松** コロナ禍を考慮し、今後は対面や電話だけでなく、オンラインでの対応を充実させる必要が



あると考えています。将来的には愛知県以外の3県にも対面で相談可能な拠点を設けたいという構想もありますが、今は**オンラインと対面を組み合わせる**ことによって、**より柔軟で利便性の高い相談体制を実現したい**と考えております。

また、**不動産鑑定士**や**土地家屋調査士**など、弁護士以外の土業団体とも連携をとっていくことで、さらなる活動の充実を図っていきたくと考えています。

#### LegalLincあいち

愛知県弁護士会が中小企業を法的に支援するために設立した組織を指します。中小企業に特化した法的支援活動を実施しており、無料電話相談、面談相談のほかセミナー等も実施しています。

#### 不動産鑑定士

不動産の鑑定評価に関する法律に基づき制定された国家資格です。地域の環境や社会情勢等の諸条件を考慮して適正な地価等を判断する唯一の資格者です。不動産の鑑定評価のほか、土地の有効利用などのコンサルティングに係る業務も行っています。

#### 土地家屋調査士

土地家屋調査士法に基づき制定された国家資格です。他人の依頼を受けて、土地や建物の所在・形状・利用状況などを調査・測量して、図面の作成や不動産の表示に関する登記の申請手続などを行います。

## 読者へのメッセージ

### 新たな領域での活躍を期待

**柘植** 地域に貢献している所属会員へメッセージをお願いします。

**久松** 三重県四日市市の市長は、三重県会所属の会員です。四日市市役所では、同じく三重県会所属の会員が会計専門監を務めておられます。また、浜松市では衆議院議員をなさっている会員もいらっしゃいます。

こうした**行政や政治の世界で活動されている会員の方々の存在は、公認会計士が幅広い分野で活躍できることの証であり、他の会員にとっても励みになる**と考えています。

多くの会員が幅広い分野で地域に貢献されていますが、**新たな領域にも積極的に挑戦していただきたい**と思います。**その挑戦が公認会計士の社会的な認知度向上につながる**と考えております。

### 地域でお役に立てる身近な存在に

**柘植** 最後に、ステークホルダー、地域社会へメッセージをお願いします。

**久松** 公認会計士の存在をまだご存じない方々にこそ、公認会計士を活用していただきたいと考えております。「経営ソムリエ相談センター」の設置をはじめ、地域におけるさまざまな活動を通して、公認会計士が社会の中で身近な存在になれるよう、より一層努めてまいります。

#### 日本公認会計士協会東海会

〒450-0002 名古屋市中村区名駅4-4-10 名古屋クロスコートタワー 11階

所轄のエリア ● 愛知県、静岡県、岐阜県、三重県  
 会員・準会員数 ● 2,565名(2021年7月末現在)  
 TEL ● 052-533-1112  
 FAX ● 052-533-1113  
 URL ● <https://tokai.jicpa.or.jp/>

※上記の会員・準会員数は監査法人を除いた数値です。



# 社外役員として 企業価値向上へ寄与する

日本公認会計士協会  
北陸会



日本公認会計士協会北陸会会長 **坂下 清司**

北陸会は、石川県、富山県及び福井県の北陸三県を管轄区域とし、会員・準会員約340名(2021年7月末現在)が所属しており、全国16地域会のうち、4番目に小さい地域会です。会員・準会員の内訳は、監査法人に所属し、上場会社等の監査に従事している会員・準会員約40%、税理士法人や個人事務所へ所属し、税務や学校法人・社会福祉法人等の監査に従事している会員・準会員約55%、組織内会計士等それ以外約5%

という構成になっており、様々な分野で活躍しています。

また、各県部会では、弁護士会・司法書士会・税理士会等の士業団体とともに無料相談会の実施や監査委員、裁判所鑑定委員、民事調停委員、国民健康保険運営協議会・指定管理者選考委員会等自治体の委員会の委員に就任し、社会に貢献しています。

## 監査業務一筋、50代での新たな挑戦

インタビュー

日本公認会計士協会北陸会会長 **坂下 清司**

### 小規模ならではの小回りの利く地域会

**窪田** 地域や北陸会の特徴について教えてください。

**坂下** 北陸会は、石川県、福井県、富山県の3県で構成されており、2021年7月末現在、準会員を含めた会員数は341名となっております。**小規模な地域会ではありますが、小回りの利くきめ細やかな運営を心がけております。**

所属会員の約40%が監査法人に所属し、主に監査業務に従事しております。また、個人の会計事務所で税務業務に従事されている会員や組織内会計士として企業に勤務されている会員もおります。

北陸地区は、製造業の比率が高く、特に輪島塗・九谷焼などの伝統工芸品の製造も盛んであることが特徴です。福井県の**メガネ産業**は全国でトップシェアを維持する一方で、電子部品・医薬品などIT・テクノロジー系の先進企業も伸びているようです。新型コロナウイルス感染拡大の影響で打撃を受けておりますが、**北陸新幹線**の開通によって観光業も目覚ましい発展を見せております。

インタビュー

日本公認会計士協会北陸会総務部長 **窪田 隆之**

### ゼミの先生の勧めで公認会計士を志す

**窪田** 現在従事されている業務の内容やこれまでのキャリアについてお聞かせください。

**坂下** 大学の在学中は勉強もせず、公認会計士になれるとは思っていなかったのですが、大学4年生の秋にゼミの先生に勧められたことがきっかけで公認会計士を目指すことにしました。大学卒業後に公認会計士試験に合格し、当時は小規模な監査法人へ入所したのですが、**相次ぐ合併**を経て大手監査法人の在籍に至りました。

大手監査法人の東京事務所に約十数年在籍し監査業務を中心に業務に従事した後、金沢への異動の話があり、奥能登に両親が住んでいたこともあり、同法人の金沢事務所へ異動いたしました。**金沢事務所では、当初はIPO支援に関わる業務が中心でしたが、その後は監査業務を中心に業務に携わりました。**

### 地元へ根ざした監査法人を設立

**坂下** 私が東京から異動で金沢に来た当時は、北陸エリアには大手監査法人の事務所のほか、北陸会内を本拠とする監査法人は2法人ありましたが、その後合併でなくなり、当時、他の地域会を

### メガネ産業

福井市、鯖江市を中心に日本製めがねフレームの約95%を生産しています。近年では、めがねの製造で培ったチタン加工技術を医療や電子機器などに活かす取組みがなされています。

### 北陸新幹線

上信越・北陸地方を經由して東京都と大阪市を結ぶ計画の新幹線を指します。1997年に長野駅までの区間が開通し、2015年3月に長野駅と金沢駅間が開通しました。金沢駅から敦賀駅間については2023年度末の開通に向けて工事が進められています。

### 相次ぐ合併

1980年代後半から1990年代前半にかけて、国際化や情報化社会の到来に備え、組織の拡大と経営基盤を固めることを目的に監査法人同士の合併が多くなされました。

見わたしても、北陸会のみが監査法人がないという状況であり、周囲からも監査法人設立の声が高まっておりました。また、当時所属していた大手監査法人を定年で退職する前に将来を見据えてまだまだやれるうちにやれることをやろうと思っていたこともあり、50代半ばに大手監査法人を早期退職し、2014年に有志とともに地元で根ざした監査法人を立ち上げました。現在もその監査法人の代表社員として、監査業務を中心に業務に携わっています。

### 会務を通じた出会いが学びになる

**窪田** 会務に携わることになったきっかけと、会務に携わってよかったと思ったことをお聞かせください。

**坂下** 北陸会では、監事、総務部長、副会長を経て、会長に就任いたしました。会務に携わるようになったのは、当時所属していた監査法人の上司から監事就任を薦められたことがきっかけで、それ以来、北陸会の役員を17年務め現在に至ります。

当協会の会長、財務局長・国税局長、他の土業の方など、通常の業務に従事しているだけではお会いできない方々と出会い、交流させていただいたことは、一公認会計士として大いに刺激となり、勉強になっております。

### 公認会計士の存在を地域に周知する

**窪田** これまでに地域へ貢献したこと、これから



地域に貢献していきたいことをお聞かせください。

**坂下** 地方自治体から推薦を受け、委員会の委員に就任することは地域貢献の1つであると考えています。現在、金沢市では行政改革推進委員会、市民行政評価委員会、指定管理者選定会の委員などに就任しております。また、石川県では金沢競馬経営評価委員会、七尾市では七尾市公の施設指定管理者選考委員会の委員など、自治体から直接ご指名いただくこともあり、かなりの数の委員を務めております。

今後、公認会計士の地域における役割は高まっていくと感じています。公認会計士という存在をさらに地域の方々に知っていただき、地域の要望にお応えする受け皿として、私自身、また北陸会としても積極的に取り組んでいきたいと考えております。

## 社外役員という新たなキャリアへの挑戦

インタビュー

日本公認会計士協会北陸会会員 **むろや かずな 室屋 和菜**

インタビュー

日本公認会計士協会北陸会総務部長 **くぼた たかゆき 窪田 隆之**

### 成長を見据えて新たな分野へチャレンジ

**窪田** 公認会計士の地域貢献の一環として、石川県の工場企業の社外役員に就任された室屋和菜会員にお話をうかがいます。室屋会員は監査法人を経て現在は税理士法人に所属しながら、工場企業の社外役員を務めておられます。まずは、就任に至る経緯をお聞かせいただけますか。

**室屋** 私が社外役員を務める工場企業は、監査法人在籍時のクライアントとして業務で関わったことのある企業でした。そのような関係もあり、同社がコーポレートガバナンス強化の一環と



左から、窪田隆之氏、坂下清司氏、室屋和菜氏

## 外部のステークホルダーの代表

株式会社東京証券取引所が公表しているコーポレートガバナンス・コード【原則4-7. 独立社外取締役の役割・責務】において、「経営陣・支配株主から独立した立場で、少数株主をはじめとするステークホルダーの意見を取締役会に適切に反映させること」が、社外役員が果たすべき役割・責務として挙げられています。

## コーポレートガバナンスの強化や企業価値向上

株式会社東京証券取引所が公表しているコーポレートガバナンス・コード【原則4-7. 独立社外取締役の役割・責務】において、「経営陣幹部の選解任その他の取締役会の重要な意思決定を通じ、経営の監督を行うこと」、「会社と経営陣・支配株主等との間の利益相反を監督すること」が、社外役員が果たすべき役割・責務として挙げられています。

して女性の社外役員を選任する際に、候補の1人としてお話をいただいたことがきっかけです。**企業経営に関わる重責を担うことになるため相應の覚悟が必要でしたが、自分が成長できる貴重な機会であると思ってお引受けしました。**当時、同社の社長は就任してからまだ日が浅かったこともあり、比較的世代の近い私に対し、経営に関連した相談をしやすかったことも候補とした理由の1つであったのではないかと思います。

### 毅然とした態度で積極的な発言を心がける

**窪田** 社外役員としての主な業務内容と心がけていることについて教えていただけますか。

**室屋** 月次報告や経営判断が求められる議題が上程される、定例の取締役会に社外役員として出席しています。また、年に数回、社長を含め監査役会のメンバーと座談会形式で経営課題について意見交換を行っております。

社外役員は、**外部のステークホルダーの代表**として意見を求められます。そのため、**他の役員の顔色をうかがったり、その場の空気を読むことはあえてせずに、疑問に感じたことや問題と感じたことについて積極的に意見するようにしています。**毅然とした態度を貫くことを心がけており、そのような姿勢を見せることで社内役員を中心とした経営陣に対して安心感を与えるととも

に、信頼関係も深まっていくように思います。

### 経営者の視点を持つ

**窪田** 社外役員のイメージは就任前後でどのように変化しましたか。また、これまで携わってきた業務との大きな違いはどこにあると感じになりますか。

**室屋** 就任前は、社外役員は、経営者としての経験豊富な方が外部の目線から企業経営に係るアドバイスを行うというイメージを持っておりました。しかし、実際に就任してみると、**社外役員は単なるアドバイザーではなく、コーポレートガバナンスの強化や企業価値向上のために当事者意識を持って全力で職責を果たさなければなら**ないことがわかり、大きくイメージが変わりました。

また、これまで携わってきた業務と社外役員の職務の大きな違いは、**経営を俯瞰する視野の広さが必要とされること**と考えています。これまで携わってきた業務では主に専門的な知見が求められてきましたが、社外役員には経営者の視点が求められます。社外役員に就任したことで、これまでは、ミクロな視点で業務をとらえるという傾向が強かったことに気付かされました。**社外役員としての職責を果たすに当たって視野を広げられるように意識しています。**

## 経営者の一員として企業価値の向上へ貢献

### 幅広い知識と経験を備えるために

**窪田** 公認会計士として、上場企業の社外役員に必要なスキルとはどのようなものとお考え

ですか。

**室屋** 社外役員として企業の方々と接する中で感じるのは、分野を問わず幅広い知識が求められることです。時事問題にアンテナを張ることはもちろんですが、**専門分野以外の領域の知識を蓄積することに挑戦したり、様々な分野の方々と積極的な交流を図ることにより、人としての厚みを増すことが大切**であると思います。

一方で、税理士法人での業務もあり時間が限られることから、タイムマネジメントが非常に重要です。**効率的に知識や情報をインプットし、それらを社外役員としての業務に還元することを常に意識**しております。

### 自分が役に立っているという実感

**窪田** 社外役員としての今後の抱負やキャリアの方向性について教えていただけますか。

**室屋** 社外役員は経営を監視する立場ではあり



**室屋和菜氏** 公認会計士試験合格後、大手監査法人へ入所。企業の会計監査の経験を積んだ後に監査法人から税理士法人に転じて現在に至る。



ますが、それだけでなく、公認会計士の知見を活かして企業価値の向上に少しでもお役に立ちたいと思っております。まだ社外役員に就任して間もないため、まだまだこれからといった感じですが、私が社外役員に就任したことが契機となり企業がより良い方向へ向かったと言っただけのように、その責務を全うしていきたいと思っております。

長期的なキャリアとしては、ここ数年で私が仕事において大切にしている「クライアントのお役に立っていることを実感したい」という想いをベースにしながら、さらに業務の幅を広げていきたいと思っております。経験を重ねるほどに、お客様に喜んでいただける場面が増え、仕事に充実感を覚えると同時に、やりがいはますます大きくなってまいります。

## 読者へのメッセージ

### 地域とのつながりは大きな財産

**窪田** 現在、地域に貢献されている所属会員の方々、そしてステークホルダーや地域社会へ向けメッセージをお願いします。

**坂下** 地域に貢献されている会員の皆様には、引き続きのご協力をお願いいたします。北陸会としても皆様をより一層しっかりとサポートしていきたいと思っております。

若い会員の皆様には、「信頼される公認会計士」を目指してほしいと願っています。地域の方々から信頼されることで、何か困りごとがあったときにお声がけをいただき、相談される存在になっていきます。そこから新たに生まれた人的なつながりは公認会計士として大きな財産となるはずです。

ステークホルダー、地域の皆様へは、是非、地

域の必要性に応じて公認会計士を積極的に活用していただきたいと思います。北陸会にはさまざまな得意分野を持ち、多くの経験を重ねてきた優秀な公認会計士がおります。どのようなご相談でもかまいませんので、お気軽に北陸会の窓口へお問合せください。

### 日本公認会計士協会北陸会

〒920-0863 金沢市玉川町11-18 新石川ビル 8階

所轄のエリア ● 石川県、富山県、福井県

会員・準会員数 ● 341名(2021年7月末現在)

TEL ● 076-265-6625

FAX ● 076-265-5694

URL ● <https://hokuriku.jicpa.or.jp/>

※上記の会員・準会員数は監査法人を除いた数値です。



# 歴史を重ねた古都を舞台に 人と人のつながりを通じて 地域コミュニティに寄り添う

日本公認会計士協会  
京滋会



なかの ゆうすけ  
日本公認会計士協会京滋会会長 **中野 雄介**

地域会は、会員・準会員にとって、また、地域にとって身近な存在であり窓口でなければなりません。地域の一人として自ら考え、感じて行動し発信することによって地域社会の発展に貢献することが重要であると考えています。

今回の企画は各地域会の特性を考慮しつつ、地域で活躍する公認会計士の活動や思いにスポットライトを当てようというのですが、決して地域会のため

だけの企画ではありません。全国の公認会計士が生き生きと活動していくために送られたエールでもあります。地域会の光が地域にとどまらず全国あるいは全世界へ発信され、様々な領域で活躍する公認会計士の励みとなり、また、ステークホルダーにとっては公認会計士を再発見するきっかけとなれば望外の喜びです。

## 地域とともに歩み続けてきた公認会計士として

インタビュー

なかの ゆうすけ  
日本公認会計士協会京滋会会長 **中野 雄介**

インタビュー

かわもと あい  
日本公認会計士協会京滋会会報部長 **川元 麻衣**

### 京都が育んできた独自の文化・経済圏

**川元** 京都・滋賀の土地柄などをご紹介いただいた上で、京滋会の特徴について教えてください。

**中野** 京都は宮廷文化をはじめ各宗の本山や文化芸術の家元を中心とした**最高級の技術の粋が集積しており、本物が求められ見きわめられる街**です。また、京都大学や同志社、立命館等の大学が集積した学術の拠点でもあります。京都は保守的だと思われがちですが、**新しいものを取り入れ、自らの知恵で街を発展させていこうとする進取の気質を持っています**。応仁の乱で一時途絶えた祇園祭は町衆の団結で復興され、現在も山鉦は鉦町で維持・保存されていますし、明治維新には疏水開削により新産業を励起し、日本初の市電が走り、番組小学校が全国に先駆けて開校したり、万国博覧会を開催するなど、衰退していく京都を活性化してきました。京滋会のもう1つのエリアである**滋賀は、琵琶湖の水運を中心に交通の要衝として栄え近江商人のふるさととして知られており、最近話題のOSDGsも近江商人の三方よし**の精神として当たり前のこととして受け継がれ

ています。地理的・伝統的に京都との関係が深く、国宝と重要文化財の建造物が数多く残る、こちらにも歴史ある街です。

京滋会は、近畿会から分離独立したという経緯と京都人が持つ潜在的な気質も相まって、**自ら進んで新しいことをやっという気概を持った会員が多く、活発に活動**しています。また、大きすぎず小さすぎず、コンパクトなエリアの中で多くの公認会計士が活躍しており、**京滋会の組織としての機動力が高い**ことも特徴であると言えます。

### 事業承継に求められること

**川元** 公認会計士を目指された経緯や現在従事されている業務内容について教えてください。

**中野** 公認会計士の前身である**○計理士制度**が創設される以前から、祖父が会計事務所を営んでおり、私で三代目になります。顧客からの要望に応じていく中で、**監査や税務業務はもとより、組織再編、株価算定、経営相談、事業再生等、さまざまな業務に携わっています**。

長年、会計事務所を営んでいると、古くからの

### OSDGs

Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)の略称です。17の世界的目標、169の達成基準、232の指標からなる持続可能な開発のための国際的な開発目標を指す。日本公認会計士協会においてもSDGs推進委員会を設置し、SDGsの達成に向けた取組みを進めています。

### ○計理士制度

1927年から1967年まで日本に存在した会計専門職の国家資格です。計理士法(昭和2年3月31日法律第31号)によって法制化されました。1948年に公認会計士法が制定されたことを受け計理士法は廃止され、新たな登録者はなくなりましたが、資格としては1967年3月まで存続しています。

クライアントも代替わりするため、自然と事業承継や相続の案件が増えていきます。事業承継関連の書籍もこれまで3冊上梓させていただきました。

事業承継の相談を受ける際には、公認会計士としてのスキルだけでなく、長年のお付き合いで醸成された信用から相談いただけたのだという意識を持つようにしています。また、自分自身も会計事務所を継いでいるからこそ、顧客の悩みや思いに共感でき、そのことが顧客からの信頼につながっているのかもしれない。

### 公認会計士の活動フィールドはさらに広がる

**川元** 公認会計士に対する社会からの期待は高まっています。今後どのような分野で公認会計士の資質や能力は活かされていくとお考えでしょうか。

**中野** 公認会計士のポテンシャルは高いと思います。会計・監査で培った能力はもちろんですが、そのほかに自由な発想や高い倫理観等を有しており、クライアントが安心して相談できる専門家であるといえます。

そのため、これまで以上に幅広い分野で公認会計士は頼られる存在になるのではないのでしょうか。実際には、行政機関からの公認会計士への業務の依頼は増えていきますし、財務以外の分野でも公



認会計士への期待は高まっています。

他方で、過剰に自身の能力をアピールする必要はないと思います。実直に業務に従事することで、自然と活動のフィールドは広がっていくと思います。

#### 〇いくつもの危機

室町時代には、応仁元年(1467年)に発生した応仁の乱が文明9年(1477年)までの約11年間にわたって続きました。主戦場となった京都全域が壊滅的な被害を受けました。また、1708年には、宝永の大火で京都中心部のほとんどが焼失するといった被害を受けたことや、江戸幕府が滅びた後の「東京遷都」の影響により京都の人口が大幅に減少するといったこともありました。京都はこれらの危機を乗り越えてきました。

## 京都が育んできた地域コミュニティに学ぶこと

### コロナ禍に動じない京都の危機対応力

**川元** コロナ禍で観光客が減り、花街もにぎやかさを失いました。京都が向かうべき方向性について、この地で公認会計士として歩んでこられた経験を踏まえて、考えをお聞かせください。

**中野** これまで経験した危機はコロナ禍だけではありません。京都の老舗企業では、江戸時代や室町時代までさかのぼると、〇いくつもの危機に直面しそれらを乗り越えてきました。こうした歴史を踏まえると、コロナ禍に限らずどのような状況であっても、新しい時代に対応していかなければ生き残ることはできないと思います。

例えば、いま苦境にある京都の花街では、その伝統を守るために、クラウドファンディングを活用しています。足元をしっかりとみて、各々のおかれている状況を踏まえて長期スパンでできるこ

とに取り組むことが肝要であると思います。

### 地域コミュニティを構築し循環させることの意義

**川元** 近年、地域コミュニティの希薄化が問題視されていますが、地域の現状をどのようにとらえ、どのような地域をつくっていくべきであると考え



京都花街





左から、中野雄介氏、川元麻衣氏

ていますか。

**中野** インターネット等のITの進歩やグローバル化の進展により、大変便利な時代になった反面、地域に目を移すと、人と人のつながりが希薄になり、自ら責任を持って関わられるコミュニティが失われつつあるように感じます。

これからの時代では、地域に暮らす人たちがさまざまな困難に対して自衛するための経済的、精神的、物理的なネットワークを再構築し、地域がセーフティネット機能を果たしていくことが求められます。

私が理想としているのは、相互扶助と自己責任のバランスの取れたコミュニティを構築し循環させていくことです。このコミュニティを充実させるためには、大きすぎず、かといって小さすぎない、ほどよい規模感とすることが大切であると思います。

京都は、暮らしと経済・文化が緩やかに繋がり、規模感もほどよいことから、バランスのとれたコミュニティが構築されており、将来においてもその循環を維持していきたいと考えています。

## 人と地域が循環する仕組みづくりの大切さ

多様なつながりを通じて  
地域との関係を築く

**川元** 京滋会として実施している地域貢献の取り組みについて教えてください。

**中野** 京滋会では、地方自治体の包括外部監査人や各種委員会の委員を選出するなど、公的な分野において地域へ貢献してまいりました。また、京滋会として大学等への〇寄附講座を提供するとともに、私個人としても学生のインターンシップの受入れ等、教育分野においても貢献しております。他土業や信用保証協会等との連携等、特定の事項にとらわれず、幅広い活動を通して地域と良好な関係を築いています。

人と人の結び付きが地域に循環を生む

**川元** 京都ならではの地域貢献のあり方について



### 〇寄附講座

大学や研究機関において、産学連携の一環として行われる研究・教育活動の一種で、奨学を目的とした民間企業や業界団体などからの寄附金(奨学寄附金)を財源に、期限付きの客員教授などを招いて開設される講座をいいます。

て考えをお聞かせください。

**中野** 地域貢献の意味を広義にとらえれば、公認会計士が日々行っている業務そのものが地域への貢献であると考えています。

**地域貢献で重要なことは、「覚悟を持って地域と関わること」、「長期的視点・大きな循環の中で生かされているという実感を持ってその仕事に取り組むこと」**であると考えています。

公認会計士が裏方としてさまざまなことに関わり、地域の一員として、循環の中に入って貢献することが、京都らしい地域貢献のあり方だと思っています。「公認会計士とはこうあるべきだ」と決め付けず、**地域の声に耳を傾け、地域の方々が困ったときに相談される存在、尊敬され感謝される存在となることが重要**であると思います。

### 人材と地域を結ぶつなぎ役として

**川元** 地域貢献にかかる展望をお聞かせください。

**中野** **優秀な人材が京都や滋賀に集まるようにすることが重要**であると考えています。地域のコ



ミュニティに入り、活躍してくれる人材を集め育成すること、また、将来的には、人材と地域をつなげる仕組みをつくりたいと考えています。**地域の中で皆さんがハッピーになれるような「つなぎ役」になることが、私の理想です。**自分は表舞台には立たずに、あくまでも裏方として、地域との関係性、人と人のつながりを強固にしていく役目を担っていきたいと思っています。

## 読者へのメッセージ

### 寄り道を楽しむ余裕を持てば 本業の幅も広がる

**川元** 混沌とした社会状況の中で、どのように仕事に向き合っていけばよいのか迷っている方が多くいらっしゃいます。読者やステークホルダー、そして若い公認会計士へ、メッセージをお願いします。

**中野** 京都はよそ者に厳しいといわれますが、上手によそ者も地域の循環の輪の中に迎え入れようとする風土があります。一方で、職人気質でいわゆる目利きが多く、人や物をしっかりと見きわめるのも京都らしい特徴です。

京都に対して冷たいという印象を持っている方もいるかもしれませんが、京都の人は結果だけで人を評価するわけではなく、**一見変わった人物でもその人の個性(面白さ)や情熱も受け入れる包容力や優しさを持ち合わせています。**地元出身の方ももちろん、そうでない方も、京都で仕事をしたいという方がいらっしゃいましたら、ぜひこの街のコミュニティに飛び込んでほしいと思います。実際にコミュニティに入ってみれば、そこに心地よい空気が流れていることを感じてもらえ

るはずですよ。

若い公認会計士の皆さんには、近道ばかり考えるのではなく寄り道を楽しむ余裕を持ってもらいたいですね。

**焦らなくても、やるべきことを着実にこなし、目標を持ってコツコツと取り組めば、その経験が血となり肉となり、やがて自身が大きく成長していることを実感できるようになります。**また、会計・監査以外の分野で、興味のあることを見付けることも重要です。趣味は間違いなく肥やしになり、本業に幅や奥行きを与えてくれます。さまざまな経験を経て、公認会計士として、また、1人の人間として、成長を重ねていってください。

### 日本公認会計士協会京滋会

〒604-8152 京都市中京区烏丸通錦小路上手洗水町659番地 烏丸中央ビル 4階

所轄のエリア ● 京都府、滋賀県  
会員・準会員数 ● 848名(2021年7月末現在)  
TEL ● 075-211-5061  
FAX ● 075-255-5290  
URL ● <http://www.jicpa-keiji.jp/>

※上記の会員・準会員数は監査法人を除いた数値です。



# 変化し続ける社会の先端をとらえ、 未来の開拓者であり続ける

日本公認会計士協会  
近畿会



きたやま ひさえ  
日本公認会計士協会近畿会会長 **北山 久恵**

女性初の近畿会会長として、「イノベーションにより公認会計士の未来を切り拓き、社会からの期待に応える」をスローガンに、新たな取組みに挑戦しております。監査・会計プロフェッションとして、イノベーションにより、監査及び会計に対する社会からの信頼を確立するとともに、新たな時代に必要とされる会計人材の育成と活躍支

援を行い、公認会計士業の職業の魅力を高め、これからの公認会計士業界の未来を切り拓いてまいります。

コロナ禍を「変革の機会」ととらえ、新たな取組みにチャレンジし変革し続けることにより、公認会計士業界及び近畿会におけるイノベーションを推進していきます。

## 大阪に息づく先駆けの精神で 公認会計士の可能性を広げる

### 〇「やってみなはれ」

サントリーの創業者である鳥井信治郎氏の口癖であった言葉です。「やってみよう」、「やってみなければわからない」といった意味で用いられます。

### 〇近畿実務補習所

東京実務補習所(1961年)に先立ち発足しました。実務補習所は、公認会計士試験に合格した者に対して、公認会計士となるのに必要な技能を修習させるための場所を指します。実務補習の修了は、公認会計士登録に必要な要件の1つとなっています。



公認会計士制度70周年を迎えた際に近畿会で作成したパンフレット。こちらも「先駆け」がテーマとなっています。

インタビューー

きたやま ひさえ  
日本公認会計士協会近畿会会長 **北山 久恵**

### 新たな時代を切り拓く 「やってみなはれ」の精神

**宮口** 地域や近畿会の特徴を教えてください。

**北山** 近畿会は、大阪府、奈良県、和歌山県の3つの府県を管轄エリアとしております。近畿会の拠点である大阪の人々には、**新しいものを好み面白いことに価値を見出す気質があり、〇「やってみなはれ」という先駆けの精神も息づいています。**近畿会においても、1956年に全国初の**〇近畿実務補習所**の発足、1975年に社会会計委員会の設置、1987年に女性会計士委員会の創設、1996年に日本監査役協会関西支部と連携した共同研究の開始、最近ではハロー！会計のオンライン化など、**全国に先駆けたさまざまな取組みを行ってまいりました。**

私も、近畿会の先駆けの精神をさらに高め、多様な価値観を持つ優秀な人材が活躍できる魅力的な業界にするため、**①ダイバーシティ推進と近畿会会務改革、②新たな研修制度の導入、③積極的な広報活動等の新たな取組みにより、イノベーションを推進**しています。

インタビューー

みやぐち あき  
日本公認会計士協会近畿会幹事・広報部長 **宮口 亜希**

### 女性会計士のパイオニア的存在として

**宮口** 現在従事されている業務やこれまでのキャリアについてお聞かせください。

**北山** 個人の会計事務所での業務のほか、上場企業2社の社外取締役役に就任し、公認会計士として培った知見を活かして経営やガバナンスに関するアドバイスなどを行っております。また、2021年4月より大学院の特任教授に就任し、監査論と原価計算の講義を実務家の視点で担当しています。

将来のために何か資格を取得すべきではないかと考えていた高校時代に、**父から公認会計士という職業があることを聞き、女性も活躍できる職業であると感じたことから公認会計士を志しました。**

公認会計士試験合格後、大手監査法人に入所し、大手上場企業の監査業務を中心に従事してまいりました。また、**所属監査法人では初の女性常務理事に就任し、法人のダイバーシティの推進や人材育成を統轄し、監査法人の経営に携わる中核メンバーとしての経験を積む**こともできました。2020年6月に監査法人を定年退職した後に個人事務所を開設し、現在に至っております。

## 協会活動と研究活動を両立

**宮口** 会務に関わるきっかけはどのようなものでしたか。

**北山** 女性会計士委員会の設立時に、初代委員長に就任された松浦圭子先生に創設メンバーとして誘っていただいたことが、協会の会務に関わるきっかけでした。その後、女性会計士委員会委員長、監査会計委員会委員長、近畿会副会長などを経て、2019年6月から近畿会会長、同年7月から日本公認会計士協会の副会長に就任いたしました。このほか、近畿会の栢田圭元会長にお声をかけていただき、○日本監査研究学会に入会し、現在は理事として監査実務上の諸問題をテーマに研究報告を行っております。

## 枠にとらわれず多様な形で地域へ貢献

**宮口** 会長ご自身、また、近畿会所属の会員が行ってきた地域貢献活動についてお聞かせください。

**北山** 私自身といたしましては、これまで大阪府・大阪市のさまざまな審議会の理事・委員を歴任し、現在は大阪市大規模事業リスク管理会議の委員として、大阪・関西万博の会場である夢洲の開発など大規模事業のリスク管理に対して意見を述べさせていただいております。2004年には、男女共同参画社会の実現に向けて活動する個人に贈られる、第12回○大阪府女性基金プリムラ賞をいただきました。

近畿会では、多くの委員会を設置しており、公認会計士業務に関連する事項、広報やダイバーシティに関係する事項など、各委員会が多様な観点で研究活動を行い、出版物の刊行、研修会やシンポジウムの開催など、積極的に活動しております。

また、泉佐野市長を訪問したとき、2001年関西国際空港開港により、○財政危機に陥っていた同市から行財政改革推進委員会の委員の推薦依頼を受け、近畿会会員で地方財政調査特別委員会を発足して財政再建調査を行った当時のこと



が話題になりました。市長から「調査報告書は非常に有用だった、現在も公認会計士に監査委員に就任してもらっており、幅広い知識と高い見地から公正と効率的な行財政運営に尽力いただいている」と評価いただきました。多くの自治体で、公認会計士が地方自治体の財政健全化やガバナンスの強化に貢献できていると考えております。

## 関西の未来と経済の再生を見据えて

**宮口** 今後、地域にどのような形で貢献していきたいとお考えですか。

**北山** 2021年に開催した公認会計士の日記念セミナーでは、「アバターと万博と未来社会」をテーマに大阪大学基礎工学研究科の石黒浩教授にご講演いただきました。このように関西の未来について考える機会を今後も広く提供していきたいと思っております。

また、関西経済の再生に向けては中小企業の活性化が鍵であり、公認会計士が中小企業の経営者に寄り添い、経営基盤強化、コーポレートガバナンスの強化に寄与していくことが求められます。このほか、IPO支援やスタートアップ企業の支援など、公認会計士が地方経済の活性化、地方創生のために活躍できる場は多くあります。こういったさまざまな分野で地域に貢献をしていきたいと思っております。

### ○日本監査研究学会

監査研究の推進及び監査研究者の相互の交流を図ることを目的に設立され、40年以上の歴史を有する学会です。監査実務にも関連する事項を研究していることから、公認会計士も学会の活動に参加しています。

### ○大阪府女性基金プリムラ賞

男女共同参画社会の実現に向けて、先駆的に活躍をした個人、団体・グループを顕彰するために、1993年に制定された賞です。プリムラは、大阪の花「さくらそう」を指し、この賞が「さくらそう」のように府民に親しまれてほしいとの思いと、プリムラの花言葉が「希望」であり、男女共同参画社会実現への希望を託すという意味をこめて「プリムラ賞」と名付けられました。



※アーティストイッキングの井村雅代コーチと一緒に受賞しました。

### ○財政危機

関西国際空港開港に合わせた「りんくうタウン」の開設、大型店舗やホテルの進出、高速道路の整備促進等がなされました。しかし、大型プロジェクト等が当初の計画どおりに進行しなかったことや、景気低迷・地価下落の影響を受け、泉佐野市の財政状況が厳しいものとなりました。

## 日本監査役協会と連携し数々の研究成果を発表

### 公認会計士監査の充実に向けて

**宮口** 冒頭に日本監査役協会関西支部と連携した共同研究についてお話がありましたが、共同研究会が発足した経緯をお聞かせください。

**北山** 1996年に近畿会の河野保会長と日本監査役協会の國米純史関西支部長との対談が契機となり共同研究会が発足しました。2000年以降、京滋会と兵庫会も参加し、現在に至っております。当時、大蔵省公認会計士審査会(現金融庁公



共同研究会で開催した黒部合宿の写真。こういった交流を通じて関連な意見交換ができる関係が構築されています。

### 〇三様監査

公認会計士監査、監査役監査、内部監査部門による内部監査を「三様監査」といい、それぞれ求められる役割が異なります。企業のガバナンス体制の構築のために、この三者の連携が重要となっています。

### 〇地方創生・中小企業支援シンポジウム

本シンポジウムにご登壇された水野浩児氏(追手門学院大学経営学部長・同教授)から公認会計士へ向けて次のメッセージをいただきました。「コロナ禍の影響で金融機関による中小企業支援は金融支援のニーズが高まると思われます。金融支援は高度な専門性が必要で、公認会計士・弁護士のお力添えをお願いしたい領域です。金融機関との距離感を縮めていただき、中小企業・金融機関・専門家のトライアングルを有機的に機能させ、地方創生ひいては地域経済の活性化にご協力いただけることを期待しています。」

※水野教授は以下の集合写真の右から3番目の方です。

認会計士・監査審査会)が公表した「会計士監査の充実に向けての提言」において、**〇三様監査**を担う主体間での相互連携のためのガイドライン整備、監査役等との協議の場の充実などを検討すべきとされたことを受け、「**監査役と会計監査人との連携**」をテーマに、**年3回程度、定期的な研究会を開催してまいりました。それぞれの立場を尊重しながら、自由に建設的な意見交換が続けてこられたのは、自由闊達でおおらかな関西の風土によるものが大きいのではないかと**思っております。

### 監査役と会計監査人の連携をテーマとした数々の共同研究

**宮口** これまでどのようなテーマの共同研究をされてきましたか。

**北山** 発足当時は、「監査計画・中間監査及び期末監査における監査役と会計監査人との連携」(1999年3月)、「連結決算における監査役と会計監査人との連携」(2001年3月)、「継続企業の前提に関する監査役と会計監査人との連携」(2003年2月)など、共同研究の成果を中間研究報告と

して公表いたしました。その後、内部統制監査、不正リスク対応など、**その時々の特ピックスをテーマに継続的に意見交換しています。**最近「監査上の主要な検討事項(KAM)適用にあたって監査役等と会計監査人の連携と課題」をテーマとした意見交換を行っており、**2021年には監査報酬に関するアンケート調査を実施し、その分析結果を取りまとめた上で監査役等と会計監査人の監査報酬に対する認識の違いを明らかにする予定**です。

### 取組みのテーマは多方面に広がる

**宮口** 会長ご自身が今後取り扱いたいと思われるテーマはございますか。

**北山** KAM、会計上の見積り、事業計画やM&A案件における連携など、**実態と問題点を整理し今後の課題について意見交換を行いたい**と思っています。また、コーポレートガバナンス、事業等リスク、経営戦略、環境問題、SDGsへの取組みなどの**非財務情報も重要になってきており、記述情報についても監査役との連携をさらに深めていきたい**と考えております。

## 多様な側面から中小企業を支援

### インタビュー

きたやま ひさえ  
日本公認会計士協会近畿会会長 **北山 久恵**  
やすはら とおる  
日本公認会計士協会近畿会副会長 **安原 徹**

### 特殊な経営形態を持つ中小企業支援の在り方を探る

**宮口** 2021年6月8日、**〇地方創生・中小企業支援シンポジウム「金融機関と専門家にできる中小企業支援とは」**がオンラインで開催されました。

### インタビュー

みやくち あき  
日本公認会計士協会近畿会幹事・広報部長 **宮口 亜希**

参加者は200名を超え、大変盛況であったとうかがっております。発起人である安原副会長から、具体的な内容や目的についてお聞かせください。

**安原** このシンポジウムは、近畿会と大阪弁護士会が共催で続けている「ファミリービジネス研究会」を母体としたもので、**公認会計士、金融機関が関わることで実現できる中小企業の活性化や地方創生の可能性を議論しようと企画**いたしました。

中小企業と大企業は経営形態や経営原理が根本的に異なり、中小企業には、コーポレートガバナンスに加えファミリーガバナンスが必要であるといわれています。しかし、このことは日本ではほとんど議論されていないのが現状です。こうした特殊な形態を持つ中小企業の円滑な支援の実施に向けて、**近畿財務局の担当者、財務省出身で「まち・ひと・しごと総合戦略」において豊富な経験を持つ有識者、大学教授、弁護士、公認会計士が自由に討議し、有意義な成果を得ることができた**と思っております。



地方創生・中小企業支援シンポジウム登壇者の皆様

## 中小企業の資金調達支援に向けて

宮口 中小企業支援の一環として、経営委員会では、公認会計士が中小企業への経営コンサルティングを行う際に役立つ「事業評価の重要ポイント」をまとめ、近畿会のホームページ上で公開しています。この目的や内容をお聞かせください。

安原 「平成27事務年度 金融行政方針」(金融庁)により、金融機関は中小企業への融資にあたり担保や保証に過度に依存するのではなく、事業内容や将来性を見きわめる「事業性評価」を行うことが求められています。企業と金融機関と土業である専門家との対話がますます重要視されています。

こうした流れを受け、経営委員会では、公認会計士が、クライアントである中小企業にコンサルティングを行う際の参考資料となるよう、評価対象となるポイントやより適切な評価を受けるために着目すべき事項をまとめたチェックリストを作成いたしました。会員の皆様にこのチェックリストを活用していただくことで、中小企業が金融機関から高い事業性評価を受け、スムーズな融資を受けることにつながりたいと考えております。

北山 今後は、近畿財務局や金融機関を交えた意見交換会を通じて、このチェックリストを金融機関の具体的な事業性評価と融資につなげられるよう働きかけを行ってまいります。また、経済産業省が公表している中小企業向けの評価ツール「ローカルベンチマーク」と関連付けるなど、チェックリストのブラッシュアップも進めております。

## 積極的な情報収集・発信を継続

宮口 このような外部の方々を交えたシンポジウムについて、今後の開催予定はございますか。

北山 登壇者として地方自治体の市長をお迎えし、「ポストコロナ時代に求められる地方自治体の変革～内部統制×BPR×DX～」と題したシンポジウムを、本年度中に開催する予定です。

また、地方自治体を対象に実施した、地方自治法改正に関わる対応状況に関するアンケートの分析結果をまとめ、研修会などで報告することも検討しております。

## 地方自治法改正に関わる対応状況に関するアンケート

地方自治法の改正に伴い、2020年4月1日から地方公共団体における内部統制制度が導入されるとともに、監査委員監査における監査基準の制定が求められました。近畿会では、地方公共団体の監査制度を継続的に研究しており、2021年1月に各地方公共団体に対して当該法改正の対応の現状と影響に関するアンケートを実施しました。

## 読者へのメッセージ

### 地域社会の価値を創造する一翼として

宮口 最後に、所属会員、そしてステークホルダー、地域社会に向けてメッセージをお願いします。

北山 近年、公認会計士の活躍の場は多様化し、拡大しています。若い会員の皆様にはありとあらゆることを吸収しようという気概を持ち多様化するニーズをとらえ、広く活躍していただけるよう、まずは監査を通じてビジネスへの理解を深め、経営を俯瞰的に見る力を養っていただきたいと思います。そうした業務で培った知識と経験を活かし、さまざまな領域で新たな挑戦をされることを期待しております。

私たち公認会計士は企業や地域の皆様から信頼され、相談される身近な存在として、「ビジネス、経済、社会の価値を創造する一翼になる」という信念を持って活動しております。ステークホルダーの皆様には、今後もご支援いただきますようよろしくお願い申し上げます。



左から、宮口垂希氏、北山久恵氏、安原 徹氏

### 日本公認会計士協会近畿会

〒541-0056 大阪市中央区久太郎町2-4-11 クラボウアネックスビル 2階

所轄のエリア ● 大阪府、奈良県、和歌山県  
会員・準会員数 ● 4,600名(2021年7月末現在)  
TEL ● 06-6271-0400  
FAX ● 06-6271-0415  
URL ● <https://www.jicpa-knk.ne.jp/>

※上記の会員・準会員数は監査法人を除いた数値です。



# 包括外部監査を通して 地域との良好な関係を構築する

日本公認会計士協会  
兵庫県



みやた はやと  
日本公認会計士協会兵庫県会長 **宮田 勇人**

兵庫県は、全国16ある地域会の中で、兵庫県単一県での地域会として、2018年には設立50周年(1968年4月設立)を迎えた全国的にも歴史と伝統のある地域会です。2021年度の重点施策として、(1)地域社会への貢献、(2)兵庫県会員への業務支援、(3)部委員会活動の充実、(4)本部との連携、(5)財政基盤の強化を挙げており、地域社会への貢献においては、中小企業支援から公的分野、非営利分野での支援まで幅広く活動し、地方公共団体からの業務推薦も多数行っ

ています。また、オンライン研修会の実施やリモート形式による部委員会・役員会の開催等を積極的に取り入れながら会務運営を進めてまいります。

兵庫県が53年の歴史と伝統を引き継ぎながらも多様化する地域社会からのニーズに応え、地域社会と密接に連携することにより、地域密着型のなくてはならない存在として、地域社会の発展にさらに貢献できまよう、全力で会務運営に取り組んでまいります。

## 社会と関わり、公認会計士の活躍の場を広げる

インタビュー

みやた はやと  
日本公認会計士協会兵庫県会長 **宮田 勇人**

### 広い県土に個性豊かな地域が点在

**村上** 地域や兵庫県の特徴を教えてください。

**宮田** 兵庫県は、南北に長い県域を持ち、北は日本海、南は瀬戸内海の2つの海に接しており、歴史や風土・産業の違いから、摂津(神戸・阪神)、播磨、但馬、丹波、淡路の個性豊かな5つの地域(五国)に分けることができます。

神戸、阪神、播磨地域(南部の瀬戸内海沿岸)は県人口の90%強を占め、鉄鋼・造船・機械などの産業が集積する大都市地域であり、阪神工業地帯や播磨臨海工業地帯といった日本有数の重化学工業の集積地となっています。一方で、但馬(北部)、丹波(中部)、淡路地域は美しい山、海、川など豊かな自然に恵まれた農林水産業が盛んな地域です。

兵庫会の会員数は、2021年7月末現在、**会員828名(監査法人を除きます)・準会員146名と年々増加しており、今後もこの傾向は続くもの**と  
思っております。会員の約8割が神戸、阪神、播磨地域など瀬戸内海沿岸に集中しており、また、**会員の約8割が独立開業されている個人会員**であることが特徴です。非常に風通しのよいアット

インタビュー

むらかみ ふみか  
日本公認会計士協会兵庫県広報部長 **村上 文香**

ホームな地域会であると感じております。

### 税務業務を中心に中小企業の経営を支援

**村上** 現在従事されている業務やこれまでのキャリアについてお聞かせください。

**宮田** 現在は**税務業務を中心に、中小企業に関わる経営支援、高校や幼稚園などの学校法人の監査業務に従事**しております。また、金融機関や弁護士と連携し、組織再編・事業承継などの支援業務にも携わっています。

### 社会で幅広く活躍できるという 魅力に惹かれて

**宮田** 親類縁者に公認会計士がいたわけではなく、高校時代に公認会計士を目指す友人がおり、この職業を知りました。大学は商学部に進み、会計を専攻しました。**将来的には自由業を選択したい**という思いから、**どうせやるなら、**最難関の国家資格**であり、社会で幅広く活躍できる公認会計士を目指そうと考えたことが、この道を進むきっかけ**となりました。公認会計士試験合格後、大手監査法人勤務を経て独立開業し、現在に至っております。

#### ○最難関の国家資格

公認会計士は会計業務に携わる最高峰の資格であり、医師や弁護士と並ぶ三大難関国家資格の1つに数えられています。

## 兵庫会設立50周年記念事業に携わった思い出

**村上** 会務にはどのようなきっかけで携わることになったのでしょうか。

**宮田** 兵庫会の委員会活動に参加しているうちに役員の方との親睦が深まり、会務を手伝ってほしいとお声掛けをいただいたことがきっかけです。会務での経験を積み、2018年に兵庫会が設立50周年の節目を迎え、**〇記念事業**の実行委員長として、記念式典、祝賀会の開催や記念誌の発行に携わる機会をいただきました。歴代の会長はじめ諸先輩方から貴重な経験談をお聞きかせただけことは大切な思い出となっております。

## 地域の雇用・活性化に貢献

**村上** これまでに行った地域貢献につながる活動についてお聞かせください。

**宮田** 兵庫会の会務では、推薦委員長、経理部長、副会長2期を歴任しました。また、2つの自治体の包括外部監査人補助者の経験もございます。業務では**中小企業のクライアントが多く、経営改善計画の策定や事業再生・M&Aがらみの事業承継、起業支援などを通じて、地域の雇用確保、地域経済の活性化に関わってきました。**また、神戸市が進めている**〇六甲山「賑わい創出事業」**という観光振興も会計面でサポートしております。

## 近年拡大する地域貢献の場

# 公認会計士への理解を促す啓蒙活動の大切さ

インタビュー

日本公認会計士協会兵庫会副会長 **坂井 浩史** さかい ひろふみ

## 地方公共団体との関係を構築

**村上** ここからは坂井副会長にお話をうかがいます。まずは、兵庫会の地方公共団体との関わりについてお聞かせください。

**坂井** 兵庫会はこれまで、会員の中から**包括外部監査人、〇社会福祉法人指導監査部局の補助指導員などを輩出することで地方公共団体との密接な関係を築いています。**また、歴代の会長が継続して首長訪問を定期的に行い、積極的に地方公共団体との交流を行うことにより、公認会計士の業務への理解を深めていただく活動を地道に



**村上** 今後、地域へどのような形で貢献をしていきたいとお考えですか。

**宮田** 公認会計士が地域社会から期待される分野、地域社会へ貢献できる分野は、近年ますます拡大しつつあると思います。兵庫会としては、**地域経済を支える中小企業への支援のみならず、公的分野や非営利分野での支援など、地域のステークホルダーとの継続的な対話を続け、社会貢献を推進**しつつ、公認会計士の活躍の場を広げてまいりたいと思います。

## 〇記念事業

兵庫会設立50周年を記念し、「兵庫会設立50周年記念拡大版福寿会」、「兵庫会設立50周年記念式典・祝賀会」、「兵庫会設立50周年記念座談会」、「兵庫会設立50周年記念ビアパーティー」、「公認会計士制度70周年・日本公認会計士兵庫会設立50周年特別記念講演会」、「兵庫会設立50周年記念ゴルフ大会」が開催されました。また、「兵庫会設立50周年記念誌」が発行されました。

## 〇六甲山「賑わい創出事業」

観光振興における重要な課題の1つである六甲山の活性化を実現するため、利活用を見込む六甲山上の遊休施設等のリニューアル経費の助成を行う事業を指します。

## 〇社会福祉法人指導監査

社会福祉法人に対する指導監査は、法人の自主性及び自立性を尊重し、法令又は通知等に定められた法人として遵守すべき事項について運営実態の確認を行うことにより、適正な法人運営と社会福祉事業の健全な経営の確保を図ることを目的としています。

インタビュー

日本公認会計士協会兵庫会広報部長 **村上 文香** むらかみ ふみか

行っております。

## 社会福祉法人指導監査部局との関わり

**村上** 社会福祉法人指導監査部局とは、どのような関わりを持たれていますか。

**坂井** 兵庫会に対して、複数の市から社会福祉法人指導監査部局の補助指導員の推薦依頼があります。**兵庫会の非営利法人委員会において候補者を選定し、推薦委員会に報告する方法により推薦**を行っております。

また、兵庫会では非営利法人委員会が社会福祉法人会計などの調査研究を所管しており、**自治**



左から、村上文香氏、坂井浩史氏、宮田勇人氏

### ○包括外部監査人

包括外部監査とは、地方自治法に基づき、地方自治体の長が毎会計年度、公認会計士など特定の個人と包括外部監査契約を締結し、包括外部監査人が特定のテーマについて、地方自治体や関連団体に対して実施する監査制度を指します。

## 包括外部監査人としての情熱を胸に

### 包括外部監査人の実績と傾向

**村上** 包括外部監査人に関して、兵庫会の実績や傾向についてお聞かせください。

**坂井** 兵庫会が○包括外部監査人を推薦している地方公共団体は、兵庫県、政令指定都市である神戸市、中核市である姫路市、西宮市、尼崎市、明石市の合計6団体です。最近の傾向としては、独立開業している会員が就任する例が増えております。

### 高まる包括外部監査への期待

**村上** 坂井副会長はご自身でも包括外部監査人を経験しておられますが、この業務を通してお気づきになった点などはございますか。

**坂井** 私は兵庫県と西宮市の包括外部監査人に就任した経験がございます。これまでに**包括外部監査報告書に記載した指摘事項などへの措置が講じられ行政施策として取り入れられたほか、指摘事項などが新聞記事として掲載されたことが**

**体との合同研修会などを独自に企画**しております。

### 研修会に会員が講師として協力

**村上** 監査委員や監査委員事務局とは、どのような関わりを持たれていますか。

**坂井** 2021年1月に「監査委員監査の実務監査現場における監査の進め方」と題した研修会を県内の中部都市で組織されている兵庫県中部都市監査委員会と共同で開催し、講師として兵庫会所属の会員が協力いたしました。兵庫会の会員・準会員のほか、この兵庫県中部都市を構成する11自治体関係者に参加をいただきました。

### 公認会計士の専門性を首長へアピール

**村上** これまでに兵庫会が取り組んできた首長訪問について教えてください。

**坂井** 首長訪問は、その内容を会報誌に掲載して会員に活動を周知しています。訪問の際には、公会計・公監査分野に公認会計士の専門性が活かせることを直接首長に伝えております。また、**首長だけでなく副市長や議長・副議長、議会事務局長、総務部長など多くの方にお会いし、意見交換を**させていただくこともございます。

あります。**西宮市では、包括外部監査人が議場にて報告を行い、議員、市長及び市幹部に対して直接問題提起を行うなどの貴重な経験**をさせていただきました。

また、特に印象的なエピソードとしては、西宮市の包括外部監査人として教育委員会に指摘した事項が市の学校事務担当で構成された研究団体の目に止まり、事務マニュアル作成のアドバイスや研修講師の依頼を受けたことです。この研究団体は200頁以上もの包括外部監査報告書を真剣に読み込んだ上で、指摘事項などを事務レベルに落とし込んでいこうとされており、そうした熱意ある姿に圧倒されました。また、包括外部監査報告書が想像以上に活用されていることも実感いたしました。

### 兵庫県と西宮市における包括外部監査の経験を通じて

**村上** 兵庫県と西宮市における包括外部監査に対する姿勢はどのようなものでしたか。

**坂井** 兵庫県の包括外部監査に関して印象的だったことは、知事に監査報告を行うと、その場で具体的な改善策を決定し、すぐに実行に移すというレスポンスの速さです。

西宮市も包括外部監査を非常に前向きにうまく活用されている自治体であり、職員の方から忌憚のないご意見をいただいたり、問題点を指摘していただいたりと、非常に良好な関係を築くことができましたとっております。こうした経験を通して、包括外部監査人として情熱を持ち、指摘事項などを積極的に伝えていくことがいかに大切かを実感いたしました。

### 包括外部監査人のサポート体制

**村上** 今後、包括外部監査人への就任を希望される方々にメッセージをいただけますか。

**坂井** 包括外部監査は、地域貢献度のきわめて高い仕事であると思います。今後は、ITや内部統制などの知見を活かした包括外部監査がより一層求められるだろうと思っています。若い公認会計士の方々には、臆せずチャレンジしていただき



たいと考えております。そのためにも、兵庫会では将来の包括外部監査人をサポートする体制をさらに充実させてまいります。

## 読者へのメッセージ

### 風通しのよい親しみやすい 地域会を目指して

**村上** 現在、地域に貢献している所属会員、そしてステークホルダー、地域の皆様に向けてメッセージをお願いします。

**宮田** 兵庫会では、地域との関係をより深めることにより、会員の皆様の業務拡大につなげていただけるようさまざまな業務支援を行っております。今後も公認会計士の資質の向上や職業倫理の向上に資する研修事業を強化し、また、皆様にとってより一層身近な存在として感じていただけるよう、会員相互の情報交換や意見交換、親睦の場となる厚生事業を充実させていきたいと考えています。風通しのよい、魅力のある地域会となるよう取り組んでまいります。

また、地方公共団体や地域行政機関、地域関係諸団体などの関係者の皆様には、平素より兵庫会の活動にご支援をいただき深く感謝申し上げます。今後も兵庫会独自の地域に密着した特性を活かしながら、今まで築き上げてきた皆様との関係をさらに深め、地域社会の発展に貢献できるよう活動してまいります。引き続き、公認会計士を

積極にご活用くださいますようお願い申し上げます。



### 日本公認会計士協会兵庫会

〒651-0088 神戸市中央区小野柄通7-1-1 日本生命三宮駅前ビル 8階

所轄のエリア ● 兵庫県

会員・準会員数 ● 974名(2021年7月末現在)

TEL ● 078-252-3281

FAX ● 078-252-3291

URL ● <http://www.jicpa-hyogo.jp/>

※上記の会員・準会員数は監査法人を除いた数値です。



# 10年、20年後の将来を見据えて 会計基礎教育を推進する

日本公認会計士協会  
中国会



かじた しげる  
日本公認会計士協会中国会会長 **梶田 滋**

「外に出よう」が現在の活動テーマです。この活動テーマに従って積極的な対外活動を行っています。「地域社会に貢献する公認会計士」としての評価が高まるよう、行政機関に対する活動にも力を入れています。特に会計基礎教育に関しては、県・政令指定都市・中核市等の教育長を訪問し、「ハロー！会計」の開催を強く要望しています。「カネの動くところに会計あり」で、会計は社会のインフラの1つです。小中学生の時

から会計に触れてもらうことにより、会計に少しでも興味を持ってもらいたいと考えて活動しています。

監査の品質向上には、監査役等との連携強化は不可欠になります。日本監査役協会と連携し、監査役等との合同研修会を開催しています。さらに、中小企業支援にも力を入れており、事業承継問題に関する研修、中小企業の海外展開における国際税務・国際法務の研修なども行っています。

## 広島・岡山に経済圏が集中する中国エリア

インタビュー

かじた しげる  
日本公認会計士協会中国会会長 **梶田 滋**

### 監査法人と個人事務所が地域に遍在

**山田** 中国地区と中国会の特徴を教えてください。

**梶田** 中国地区は、地理的な特徴が、瀬戸内海側と日本海側で大きく異なっています。○瀬戸内海側は温暖で災害が少ないといわれていましたが、近年は、○豪雨災害などの自然災害が頻発しております。一方、日本海側は雪が多く、豪雪に見舞われることもよくあります。

産業面では、瀬戸内海側は重化学工業の自動車・造船・鉄鋼・石油化学や木材関係の企業が多くあります。広島県西部は自動車産業や大手製造業に関連する企業が多く、また、上場企業も最も多い地域となっています。広島県東部・岡山県は独立独歩で全国展開する企業が多く、両地区は経済的なつながりが非常に強いエリアとなっております。

**広島県西部と岡山県は上場企業が多いため、大手監査法人に所属し監査業務に従事する会員が多い傾向があります。そのほかのエリアでは個人の会計事務所で税務業務や学校法人監査、社会福祉法人監査などの業務に従事する会員が多いです。**

インタビュー

やまだ きえ  
日本公認会計士協会中国会幹事・広報委員会委員長 **山田 希恵**

中国地区の5つの県から構成される中国会は、こうした産業・経済面の特徴から、会員の概ね半数が広島県西部部に所属しており、次に、岡山県部に所属する会員数が多い状況です。

### 監査法人での経験が税務業務に役立つ

**山田** 現在従事されている業務やこれまでのキャリアについてお聞かせください。

**梶田** **個人の会計事務所**で税務業務に従事しているほか、**新たに設立した監査法人で学校法人を中心とした監査業務にも従事**しております。税務業務の主なクライアントは法人であるため、高度な会計処理・財務関係のサービスの提供が求められることがありますが、**監査業務での知識や経験が業務に大いに役立っております。**

### 幼少期から公認会計士は身近な存在

**梶田** 父が公認会計士であったことから、自然な形で公認会計士業界に親しみがありました。そのような環境の中で、**監査業務に携わりたいという強い思いから、公認会計士を志すようになりました。**

公認会計士試験に合格後、大手監査法人の東京事務所に入所し、広島事務所へ異動して地元の

#### ○瀬戸内海側

瀬戸内海の沿岸は中国山地や四国山地に挟まれて季節風がさえぎられるため、年間を通して雨の少ない地域として知られています。

#### ○豪雨災害

近年では、2018年7月に発生した西日本豪雨が挙げられます。西日本を中心に多くの地域で河川の氾濫や浸水害、土砂災害が発生し、死者数が200人を超える甚大な災害となりました。

広島に戻りました。監査法人在職中に税理士登録を行い、父の業務を補助する形で税務業務に携わることになりました。**常に挑戦心を持って、未経験の業務や他の方が手を付けない案件にも積極的に取組むことで、新しいクライアントへの深い理解や金融機関との人脈を築くことができた**と思います。新たに監査法人を設立し現在に至っております。

### 会務を通じて広がる人的な交流

**山田** 会務にはどのようなきっかけで携わることになったのでしょうか。

**梶田** 大手監査法人に所属していたときに、法人から推薦いただいたことがきっかけです。広島県西部部会の幹事、中国会の幹事、副会長を務めた後、会長に就任いたしました。

**会務に携わることで他県の公認会計士の方とお話をする機会も生まれ、業界の動きの理解が進み、業界内での知り合いが増えたほか、行政組織のトップの方々と意見交換を行う機会にも恵まれ、大変貴重な経験をさせていただいております。**

### 会計・監査の専門家として地域に貢献

**山田** これまでに行ってきた地域貢献につながる活動について教えてください。

**梶田** 財務面を評価する立場から、中国経済産業局の複数の補助金審査会委員や**中国地域ニュービジネス大賞**審査委員などのほか、廿日市商工会議所や廿日市観光協会などの地元組織の監事を務めております。また、母校である宮内小学校のために設立された宮内育英会の会長などを務めており、**会計・監査業務で培った知見を地域のコミュニティに還元**させていただいております。

### 幼少期から会計に触れることの大切さ

**山田** 今後、ご自身が地域へどのような形で貢献をしていきたいかお聞かせください。

**梶田** 日本公認会計士協会が積極的に推進している**「ハロー!会計」**をはじめとした**会計基礎**



**教育に力を入れていきたいと思っております。**公認会計士である父の姿を見て育った私は、小さいころから会計を身近なものとしてとらえ、親しんでおりました。しかし、おそらく多くの子どもたちはそのような環境にありません。子どもたちが小学生のころから基礎的な会計の知識に触れる機会をつくるために、今後もこの活動を続けてまいりたいと思っております。

### 小学生時代の体験が社会貢献の原点

**山田** 中国会の会長として、地域へどのような形で貢献をしていきたいとお考えですか。

**梶田** 私が小学生のとき、先ほどお話しした宮内育英会を設立するために多額の寄附をされた卒業生がおり、その方の社会貢献活動にかけられる思いや行動に感銘を受けました。この出来事が、私の社会貢献の原動力のように考えております。

中国会の活動として、今後も引き続き、**会計基礎教育に係る取組み、深刻化している事業承継問題への対応、地域経済活性化の起爆剤ともなる創業支援、社会福祉法人などの行政監査の支援等の専門知識を基礎とした社会貢献活動に取り組みたいです。**

#### 中国地域ニュービジネス大賞

一般社団法人中国地域ニュービジネス協議会が主催し、中国経済産業局が後援しています。中国地域のニュービジネスの育成と振興を図ることを目的として、中国地域において独創的かつ市場性のあるニュービジネスを展開している企業(LLP、NPO等の団体・個人事業を含みます。)を表彰しています。

#### 「ハロー!会計」

公認会計士が行う、小・中学生を対象とした無料の会計講座を指します。小学生・中学生に会計の大切さを知ってもらうことを第一の目的に実施しています。

## 感受性豊かな子どもたちへ会計を伝えることの重要性

### 公認会計士のよき理解者を増やすために

**山田** 中国会において「ハロー!会計」の推進を重

点項目としている理由についてお聞かせください。

**梶田** 一般的に、「法律に関する相談は弁護士へ」、「税金に関する相談は税理士へ」という認識



左より、山田希恵氏、梶田 滋氏

### ○幼少期から 会計に触れる 機会が少ない

諸外国においては幼少期から会計について主体的に学ぶ場が設けられている例もありますが、日本においては会計リテラシーを身に付けるための教育の機会が少ないという現状があります。

### ○「会計リテラシー マップ」

会計リテラシーの内容を具体化し、各ライフステージ別にマッピングしたものです。ライフステージの区分とそれぞれの区分のとらえ方は、会計リテラシーが不可欠な要素と考えられる金融経済教育においても活用できるようにすることを念頭に、「金融リテラシー・マップ」と整合性を持たせています。詳しくは、協会ウェブサイト(<https://jicpa.or.jp/about/activity/basic-education/>)をご覧ください。



は広く浸透していますが、公認会計士に何を相談すればよいのかご存じない方が多いのではないのでしょうか。「会計は企業の財務担当者や専門家などのごく一部の人が携わる世界である」という印象を社会が持ってしまった大きな要因は、**○幼少期から会計に触れる機会が少ない**ことにあると考えております。

例えば、家計簿も会計の一種であり、会計は私たちの生活に密接に関係していることを理解していただくことが必要となります。そのためには、**小学生のころから会計に関する教育を行い、感受性が豊かな時代に会計に触れてもらうことが重要**であるといえます。会計教育を通じて、会計に興味を持った子どもたちが、10年後、20年後には公認会計士のよき理解者になること、また、その中から公認会計士を志望する方が出てくることを期待しております。

### 年間6回のペースで講座を実施

**山田** 中国会における「ハロー！会計」の実績についてお聞かせください。

**梶田** 2020年度はコロナ禍の影響で多くの学校が休校となったことから、各校とも授業の遅れを取り戻すため「ハロー！会計」に授業時間を割くことが困難な状況でした。しかし、**コロナ禍前は、年間6回のペースで講座を開いており、確かな実績を上げております。**

### 子どもたちの心に響かせる努力

**山田** 子どもたちの心に残るような講義を行うために心がけていることはございますか。

**梶田** **参加している子どもたち全員に理解してもらおうこと、わからない子を置き去りにして講義を進めないことを心がけております。**会計が「難しい」、「嫌だな」という気持ちを子どもが持つと会計に苦手意識を持ってしまい逆効果になりますので、いかに「楽しい」と興味を持ってもらえるかが重要であると思っています。保護者が同伴する形で講義を行うことも多く、講義終了後、保護者の方々に「やっていただいてよかった」と声をかけていただくこともございます。

### 教育委員会を訪問し、 会計基礎教育の重要性を伝える

**山田** 「ハロー！会計」推進にあたっての具体的な取組みや今後の展開についてお聞かせください。

**梶田** 「ハロー！会計」の開催実績のない学校へ個別にお願いするなどして地道に裾野を広げる取組みを進めています。

また、協会が発行する会計基礎教育の推進に向けたパンフレット「会計は、こちらです。」を持参し、この中に掲載されている**○「会計リテラシーマップ」**を提示し「ハロー！会計」の位置付けやその重要性を理解いただけるように心がけています。これまでに、**県や市の教育委員会を訪問し、各教育長に対して、協会の活動を紹介するとともに、「ハロー！会計」で活用している教材をお渡ししたところ、大変興味をお持ちいただきました。**

### 会員2名が金融広報アドバイザーに就任

**山田** 広島県金融広報委員会から委嘱を受けた「金融広報アドバイザー」の活動目的や具体的な取組み内容、今後の活動について教えてください。

**梶田** 広島県金融広報委員会は、日本銀行広島支店に事務局を置き、広島県、中国財務局、県内の金融機関などと協力しながら、中立・公正な立場で県民の皆様の暮らしに身近なお金の情報を提供している団体です。現在、11名の金融広報アドバイザーが登録されており、広島県民の皆様からの依頼に応じて、金融経済から生活設計、金融・金銭教育などの講演会や学習会を開催しております。

**2020年に中国会の会員2名が金融広報アドバイザーに就任いたしました。**広島県金融広報委



員会の具体的な取組みに、学校における「金融教育」があります。コロナ禍のために本格的な活動ができておりませんが、**コロナ禍の収束後は、地域の小学生向けの「金融教育」の一環として、公**

**共施設などで「ハロー！会計」の開催など、学校の垣根を超えた集合型の授業を実施する予定です。**

## 読者へのメッセージ

### 自分に返ってくると信じて地域へ尽くす

**山田** 地域に貢献している所属会員、そしてステークホルダー、地域社会の皆様へ向けてメッセージをお願いします。

**梶田** ○「**情けは人の為ならず**」という諺があります。この言葉のとおり、**社会や地域のためにしたことが巡り巡って、最後は自分に返ってくるのだ**と感じています。日ごろから頑張っている会員の皆様には、**いつか自分に返ってくると信じて地域や社会のための活動を続けていただきたい**と思っております。

私が中国会会長として特に力を入れている「ハロー！会計」は重要な取組みであり、子どもたちが将来生きていく上で会計はきわめて大切なものであると考えています。**「ハロー！会計」の活動にも講師・運営の担い手として会員・準会員の皆様には積極的に参加していただきたい**と思います。

また、ステークホルダー、地域社会の皆様には、さまざまな形で社会貢献をする機会をいただき感謝しております。どのような規模の仕事であっても、誠心誠意、全力を尽くして取り組んでまい

りますので、今後とも末長いお付き合いをよろしくお願い申し上げます。



### 日本公認会計士協会中国会

〒730-0037 広島市中区中町7-23 住友生命広島平和大通り第2ビル 5階

所轄のエリア ● 広島県、山口県、岡山県、鳥取県、島根県

会員・準会員数 ● 565名(2021年7月末現在)

TEL ● 082-248-2061

FAX ● 082-242-1467

URL ● <https://chugoku.jicpa.or.jp/>

※上記の会員・準会員数は監査法人を除いた数値です。



パンフレット「会計は、こちらです。」の表紙画像。詳しくは協会ウェブサイト(<https://jicpa.or.jp/about/activity/basic-education/pr.html>)をご覧ください。



### ○「情けは人の為ならず」

人に対して情けをかけておけば、巡り巡って自分に良い報いが返ってくるという意味の言葉です。反対語は、「情け無用」です。

# 新たな活力を地域に与える パブリック分野での監査の可能性

日本公認会計士協会  
四国会



よしい おさむ  
日本公認会計士協会四国会会長 **吉井 修**

私たち四国会は、四国4県の部会に所属する会員・準会員約270名で構成されており、公認会計士として地域社会と密接につながるさまざまな活動を展開しています。基本業務である監査・税務・コンサルティングに加え、中小企業支援においては、企業が抱える諸問題を企業の皆さまと共に解決するべく、外部の立場から多面的かつ専門的なアドバイスを行うなど四国経済の活性化につなげています。また、地方公共団体等の各専門委員も受嘱しており、行政の各種計画

の立案や所轄団体の検査等への助言指導等に積極的な対応をしています。そして、地域社会活性化の観点で忘れてはならないのが次世代を担う若い人材の発掘・育成です。各県の大学・高校等での公認会計士制度説明会では、経済社会における「会計」の重要性を理解していただくため、経験と実務に基づいた話もさせていただいています。そこには、公認会計士資格にこだわらず、学生・生徒の皆様のキャリアアップに少しでも役立つという思いも込められています。

## 大阪から四国へ、多くの経験を地域貢献に活かす

インタビュー

よしい おさむ  
日本公認会計士協会四国会会長 **吉井 修**

### 会員の多くが地域に根ざした業務を展開

**真鍋** 地域や四国会の特徴についてお聞かせください。

**吉井** 香川、愛媛、徳島、高知の4県からなる四国地域には、高機能素材を供給する大手素材メーカーや、これらの素材を活用し**特定の分野で日本及び世界でトップシェアを誇る「ニッチトップ企業」が数多く存在することが特徴**です。また、**豊かな自然や、これを活かした食や観光資源に恵まれている**ほか、四国と本州を結ぶ**本州四国連絡橋**によって、本州との交流も盛んに行われています。

四国会は、会員・準会員数が2021年7月末時点で268名(監査法人を除きます。)と全国で3番目に少ない地域会になります。会員の業務形態としては、監査法人に所属している方は2割と少なく、個人で開業し地元の中小企業の税務やコンサルティング業務に従事している方が大半を占めております。

### 企業から大学まで幅広い実績

**真鍋** これまで従事されてきた業務内容をお聞かせください。

インタビュー

よしい おさむ  
日本公認会計士協会四国会  
女性活躍推進委員会委員長・広報担当幹事 **真鍋 恵美子**

**吉井** 大手監査法人に所属し、**さまざまな業種・業界の上場企業の監査・コンサルティング業務に従事**してきました。また、IPO関連業務のほか国立大学法人や私立の大学・高校・中学・幼稚園、医療法人、農協、財団法人をクライアントとする**パブリック関係の業務にも従事するなど、幅広い分野の業務に携わってまいりました。**

### 妻の勧めで公認会計士を目指す

**真鍋** 公認会計士を目指したきっかけと、これまでのキャリアについてお聞かせください。

**吉井** 大学卒業後は、大阪の一般企業に技術職として勤務しておりましたが、学生時代を含めて振り返り自らのキャリアデザインを考える中で「生涯にわたってやりがいを見出せる仕事がしたい」という思いから、人生を見つめ直すようになりました。そうした矢先、**のちに妻となる人から公認会計士の資格を勧められ、この職業に可能性を感じた私は一念発起してその企業を退職して受験勉強を始めました。**幸運にも大手監査法人に**研修生**として採用され、勉強しながら働ける環境をいただいて無事公認会計士試験に合格することができました。

### 本州四国連絡橋

神戸・鳴門ルート(明石海峡大橋・大鳴門橋)、児島・坂出ルート(瀬戸大橋)、尾道・今治ルート(瀬戸内しまなみ海道)の3ルートを指します。本州四国連絡橋の開通により、各地域の結び付きが強くなり、産業や暮らしに大きな変化をもたらしました。

### 研修生

監査法人が独自に設けている、会計・監査の実務経験を積みながら、公認会計士試験合格を目指すことができる制度を指します。

試験合格後は、同監査法人の大阪事務所や、短い期間ではありましたが高松事務所での勤務を経て、松山に新たな事務所が開設されることを機に地元愛媛にUターンいたしました。これまでのキャリアは、大阪で3分の1、高松と愛媛で3分の2というところですよ。

### IPO支援業務で地域経済に貢献

**真鍋** 松山事務所の開設に当たって中心的なメンバーとして関わってこられた中で、ご苦労されたこと、やりがいを感じられたことについてお聞かせください。

**吉井** 松山事務所の開設後は、IPO支援業務のクライアントとなる中小企業を発掘するために自ら営業活動も行い、結果として、複数の地元企業の新規上場に関わることができました。一からクライアントを発掘することは苦労も多かったですが、こうした業務を通して、故郷であり、また、多くの知り合いがいる愛媛の経済成長に貢献できたことに、大きな喜びとやりがいを感じました。

### 愛媛県出身者として地域へ恩返し

**真鍋** 会務に携わるようになった経緯について教えてください。

**吉井** 監査法人の大阪事務所に勤務していたころ所属していた近畿会では会務に携わる機会はありませんでしたが、転勤を機に、愛媛県部会、さらに四国会の会務に携わるようになりました。

愛媛県部会の幹事を経て、副部会長、部会長を経験し、2019年より四国会の会長に就任いたしました。愛媛県出身者として地域に恩返ししたいと考え、四国会の会長の職をお引き受けするこ



としました。四国会の活動を通じて、愛媛県以外の3県の会員の方々と交流する機会や自治体の方々と関わる機会が増え、そうした貴重な経験から得たことは業務にも大いに活かされています。

### 人と人をつなぐことが役割

**真鍋** 今後、地域に貢献していきたいことについてお話しください。

**吉井** 四国会会長として、四国会の会員・準会員の方々をサポートするという思いを持って活動しております。具体的には、会員の皆様と、地域社会のステークホルダーの皆様とのつなぎ役です。**〇任期**も残り少なくなりましたが、任期中も任期満了後もこの姿勢は変えず、地域に貢献していきたいと思っております。

## これからの国立大学法人に求められる財務の健全性

### 国立大学法人で始まった法定監査の背景

**真鍋** 吉井会長のキャリアの中で学校法人などパブリック分野のご経験についてお話がありました。これに関連して、2004年に国立大学法人に法定監査が導入された経緯について教えてくださいませんか。

**吉井** 国立大学法人を取り巻く環境は、18歳人口の減少による定員割れや、国の財政難が続いたことで大きく変化しました。大学法人が健全な経営を続けていくためには、運営の透明性を高めるとともに、積極的に寄付金や受託事業、科学研究



費など外部資金の導入を図ることが重要になってきました。運営の透明性の確保や外部資金の確保のために財務諸表の適正性が重要であることは言うまでもありません。この財務諸表の信頼

### 〇任期

地域会会長は、地域会に所属する会員による選挙によって選出されます。任期は3年間であり、2022年6月に開催される地域会の定期総会をもって任期満了となります。

## ○パブリックセクター

監査法人の中には、公会計・非営利会計の分野を専門に取り扱う、パブリックセクター部門を設置している法人があります。中央官庁、特殊法人、独立行政法人、地方自治体、第三セクター、共同組織体などの官公庁や非営利団体に対し、さまざまなサービスを提供しています。

## ○対象範囲の拡大

現在は、収益30億円を超える法人又は負債60億円を超える法人が法定監査の対象となっています。今後、法定監査の対象となる法人規模の範囲の拡大が予定されています。

性を担保するために国立大学法人への法定監査が導入されたと理解しております。

## 国立大学法人の監査へ携わるきっかけ

**真鍋** こうした背景の中で、国立大学法人の監査に従事されるようになったきっかけを教えてください。

**吉井** 当時は、監査法人が監査業務の受託を前提にアドバイザー契約を結ぶというプロセスが一般的で、四国各県の国立大学法人においても同様の動きがありました。

私の所属する監査法人の松山事務所は大学とアドバイザー契約を結んではいませんでしたが、法定監査に関わる入札に参加した結果、幸いにも受託することとなり、そこで初めて国立大学

法人の監査に従事することとなりました。

## 大学側の積極的な姿勢に驚き

**真鍋** 大学側ではそれまで会計監査を受けた経験はなかったわけですが、吉井会長の大学に対する最初の印象はいかがでしたか。

**吉井** 公認会計士による会計監査に前向きに対応いただけことが印象的でした。こちらの大学には非常に優秀な職員の方が多く、自ら勉強をされて積極的にご質問をいただき、それにお答えするために、こちららも必死で学びながらキャッチアップし、そして一歩でも先にいることを心がけていました。所属監査法人の本部の○パブリックセクターのチームにもサポートを受けながら監査を行ったことを覚えております。

# パブリック分野の監査ニーズが地方を変える

## インタビュー

日本公認会計士協会四国会員 **くどう せいすけ 工藤 誠介**

## 社会福祉法人への指導的役割として

**真鍋** ここからは少し話を広げて、社会福祉法人を中心としたパブリック分野の監査に携わっていらっしゃる四国会員の工藤さんからお話をうかがいます。

**工藤** 社会福祉法人の法定監査が始まったのは4年前になります。私が携わる中小規模の社会福祉法人では、県や市等のステークホルダーに健全な経営状況であるという信用力を理解いただき

## インタビュー

日本公認会計士協会四国会員 **まなべ えみこ 真鍋 恵美子**  
女性活躍推進委員会委員長・広報担当幹事

たいという方針のもと任意監査を受けておられます。監査を通じて、会計に関する知識が十分でない職員の方々に対して、適正な決算書を作成するための指導的な役割を果たしていると思っております。

## パブリック分野の監査が求められる時代に向けて

**真鍋** 地方におけるパブリック分野の監査の担い手は少ない状況にあるのでしょうか。

**工藤** 今後、社会福祉法人の○対象範囲の拡大が予定されておりますが、このままの状況では、その地域の公認会計士だけでその担い手を確保することは難しくなることが懸念されます。

ただ、社会福祉法人をはじめ、医療法人や公会計などパブリック分野における監査のニーズが高まるということは、地方においても監査業務が必要とされている証であり、これまで上場企業が中心だった監査業務の裾野が広がることにつながります。そのような観点から、公認会計士が活躍できるフィールドの拡大への期待感も持っております。

## 法定監査の範囲はさらに広がる

**真鍋** パブリック分野での監査業務は今後どうあるべきかご意見をお願いします。

**工藤** 今後は、官公庁をはじめ、水道、病院、旅客



**工藤誠介氏** 公認会計士第二次試験合格後、東京の監査法人に入所。その後、故郷徳島に戻り、独立開業し現在に至る。税務業務のほか、会計監査や民事再生関係の業務に従事している。

運送などの地方公営企業の監査も必要とされていくのではないかと考えております。

また、こうした動きに対して、**地方では個人の公認会計士同士が提携し、新たな監査法人を設立することでパブリック分野の監査を行う体制を構築するケースが増えていく**かもしれません。近い将来、パブリック分野の監査をこうした中小の監査法人が担う時代がやってくるのではないのでしょうか。

### 地方が公認会計士の活躍の場へ

**真鍋** 若手公認会計士やこれから公認会計士を目指そうとしている方々に、パブリック分野の監査における公認会計士の可能性についてお話しいただけますか。

**工藤** これまで、上場企業の多い都市部以外では監査業務のニーズは少ないと思われていました。そのため、**地方へ足が向かなかつた若い公認会計士の方々には、ぜひ地方に興味を持っていただきたい**と思います。社会福祉法人、医療法人、公会計など、これからは全国の至るところでパブリック分野の監査のニーズが高まり、地域に貢献す



左から、工藤誠介氏、吉井修氏、真鍋恵美子氏

る公認会計士が増えていくと確信しております。「地方に戻ると監査業務に携わることが難しい」という認識は、過去のものになるだろうと考えております。

## 読者へのメッセージ

### 会員と地元のつながりが 地方を変える力になる

**真鍋** 地域に貢献しておられる所属会員、ステークホルダーや地域の皆様へ向けてメッセージをお願いします。

**吉井** 若手会員の方々へは、**会務に興味を持っていただけるように切にお願いしたい**と思います。私自身、会務に関わることを通じて、大先輩からお話をうかがい多くの気づきを与えていただきました。公認会計士の仕事は1人で行えるものではありません。**四国会を、業務を含めた大きな範囲での人とつながり、さまざまな情報や経験を吸収できる場所ととらえていただき、日々の業務に限らず会務にも積極的にチャレンジしていただきたい**と思います。

また、業務に従事しつつ会務に積極的に参加してくださっている会員の皆様には、引き続きのご協力をよろしくお願いたします。

ステークホルダーや地域の皆様には、変化の激しい状況下にもかかわらず、四国会の活動にご協力いただきありがとうございます。残り1年、次の



執行部へよい形でバトンタッチすることを意識して取り組んでまいりますので、これまでと同様のご支援をお願いいたします。

### 日本公認会計士協会四国会

〒760-0027 高松市紺屋町1番地3 香川紺屋町ビル 6階

所轄のエリア ● 香川県、愛媛県、徳島県、高知県

会員・準会員数 ● 268名(2021年7月末現在)

TEL ● 087-826-7628

FAX ● 087-826-7629

URL ● <https://shikoku.jicpa.or.jp/>

※上記の会員・準会員数は監査法人を除いた数値です。



# ポストコロナ時代を見据え 新たな形態で研究大会を開催

日本公認会計士協会  
北部九州会



ちぢまつ ひでき  
日本公認会計士協会北部九州会会長 **千々松 英樹**

北部九州会は福岡県・佐賀県・長崎県の会員・準会員で構成されています。当地にはいわゆる大手、準大手監査法人の地域事務所のほか、地元を拠点として設立された監査法人も多数あり、現在はこれらの13監査法人に所属している会員等が全体の約半数を占めています。

現在の執行部は女性7名を含む役員総勢29名で「会員のため、地域のため、後進のため」をスローガンに日々これらの会務に邁進しています。

北部九州会としては商工会議所等とも連携した中小企業等の支援のほか、弁護士や税理士などの各種9

士業団体と共同して組成した福岡専門職団体連絡協議会が主催する共同相談会に委員を派遣するなど、地域住民への貢献にも注力しています。

このたび15年ぶりに福岡市にて第42回研究大会を開催することになりました。福岡市は空港からのアクセスの良さ、豊かな食文化などから、出張や旅行先としても非常に人気の高い都市で、また、博多どんたくや博多祇園山笠を代表とするお祭り好きな気質もあり、北部九州会としては会員の皆さまへのおもてなしもさることながら、地域経済等への貢献もできる大変良い機会だと考えています。

## 地域の活力をさらに力強く後押しする地域会へ

インタビューー

ちぢまつ ひでき  
日本公認会計士協会北部九州会会長 **千々松 英樹**

### 5つの部会で構成される北部九州会

**香野** 北部九州会の特徴について教えてください。

**千々松** 北部九州会は福岡県に、**3つの部会**を持ち、さらに佐賀県部会、長崎県部会を合わせて5つの部会で構成されています。**北部九州地区の産業の中心地である福岡や北九州エリアでは、監査法人に所属し監査業務に従事する会員が多い**ことが特徴です。その一方で、**佐賀、長崎では個人で会計事務所を開業し、地元企業向けの監査業務や税務業務に従事する会員が多い**傾向にあります。

北部九州エリアは起業やスタートアップ企業の育成に注力している自治体が多く、**福岡証券取引所**もIPOに積極的に取り組んでいることから、会員のこれらの企業等に対する支援も非常に活発で、今回の研究大会においても1つの研究発表テーマとさせてもらいました。

### 福岡は今では第2の故郷

**香野** 現在従事している業務内容やこれまでのキャリアについてお聞かせください。

インタビューー

こうのみさお  
日本公認会計士協会北部九州会監事 **香野 美佐緒**

**千々松** 大手監査法人に所属し、**大手上場企業のほか、金融機関や学校法人など多様なクライアントの監査業務に従事**してきていますが、現在は協会の会務に割かれる時間もかなり多くなってきています。

東京の大学在学中に公認会計士試験に合格し、現在所属する監査法人の東京事務所に入所しました。**東京で6年勤務した後、福岡事務所に転勤となり、福岡で暮らし始めて25年超**になります。山口県出身ですが、今では福岡を第2の故郷と感じています。

### 公認会計士を目指す仲間に触発されて

**千々松** 小学生のころにそろばん塾に通って**数字や暗算に慣れ親しんでいたことが公認会計士という職業を選んだきっかけ**になっているかもしれません。また、大学では商学部在籍していたことから、周りに公認会計士を目指している学生が多く、そうした環境に身を置いていたことが、公認会計士を意識するきっかけになったと思っています。

### 3つの部会

この3つの部会の名称は、「福岡部会」、「北九州・筑豊部会」、「筑後部会」です。

### 福岡証券取引所

1949年に設立された会員組織の法人で、全国4証券取引所（札幌・東京・名古屋・福岡）の1つです。九州圏で唯一の金融商品取引所です。

## 山口県出身者が北部九州会会長に就任

**香野** 会務にはどのようなきっかけで携わるようになったのでしょうか。

**千々松** 福岡転勤後に多くの学校法人の監査業務に従事していたことから、15年ほど前に北部九州会の学校法人委員会の委員に就任したことが、会務に携わるきっかけでした。その後、常任幹事、副会長を経て、2019年に会長に就任いたしました。九州の出身でない私を会長として迎え入れてくださった北部九州会の皆さんの懐の深さに感謝しています。

## 自治体・公益法人の仕事を通じて地域へ貢献

**香野** これまでに行ってきた地域貢献につながる活動についてお聞かせください。

**千々松** 監査法人に所属していると、一般企業だけでなく、自治体や公益法人などの公的あるいは非営利分野の業務をお引受けする機会があります。こういった業務は必ずしも監査業務だけではなく、会計指導や会計周辺に係る支援業務などもあり、これらはある意味で地域貢献にもつながっていると感じています。

## 地域活性化をさらに推進したい

**香野** 今後はどのように地域に貢献していきたい



とお考えですか。

**千々松** 今後も商工会議所や福岡証券取引所など外部機関との連携を大切に、地域経済の活性化に取り組んでまいります。将来的には公認会計士としての経験を活かし、地域の方々との対話を通じて、より地域に根ざした形で貢献していきたいと思っています。

また、若い人たちに公認会計士の魅力を知っていただくための周知活動や、「日本公認会計士協会研究大会福岡大会2021」でテーマに掲げるSDGs(持続可能な開発目標)の啓蒙活動にも、力を入れていきたいと考えています。

## 開催地になることは地域を知ってもらう大きな機会

### インタビュー

日本公認会計士協会北部九州会会長

ちぢまつ ひでき  
**千々松 英樹**

日本公認会計士協会北部九州会副会長  
(北部九州会研究大会実行委員会委員長)

みやもと よしぞう  
**宮本 義三**

### 開催準備は会員が一丸となる契機

**香野** ここからは宮本義三副会長にもご参加いただき、本年9月17日に開催予定の「日本公認会計士協会研究大会福岡大会2021」についてお話をうかがいます。まずは、開催地に立候補した経緯と実行委員の選定についてお聞かせください。

**千々松** 前回、福岡で○**研究大会**が開催されたのは15年前です。再び開催地となることは、自分にとって、また北部九州会にとっても貴重な経験になるとの思いから立候補いたしました。

実行委員会は約40名で構成し、○**西日本連合総会**の開催にも関わった経験のある会員を中心

### インタビュー

日本公認会計士協会北部九州会監事

こうのみさお  
**香野 美佐緒**

にメンバーを選出いたしました。実行委員長には、日ごろから信頼を寄せている宮本副会長に就任いただきました。

### SDGsをメインテーマに掲げる

**香野** メインテーマである「会計士が創る躍動の未来～持続可能な社会の構築に挑む～」の決定に至った背景と、記念講演者を○**サグラダ・ファミリア**芸術工房監督の外尾悦郎氏に依頼した理由を教えてください。

**宮本** 実行委員会の主要メンバーと何度も打合せの場を持ち、最終的には社会的に重要なトピックであるSDGsをメインテーマとして掲げること

### ○研究大会

社会との交流を深め、公認会計士の社会的発言の場として、1979年に第1回の研究大会が開催されました。今回の福岡大会で42回目の開催となります。

### ○西日本連合総会

1957年に大分県別府市で第1回大会が開催されており、「会員同士の親睦を高める」ことを主たる目的として、西日本地区(中国会、四国会、北部九州会、南九州会、沖縄会)で毎年実施されています。

### ○サグラダ・ファミリア

アントニオ・ガウディの作品群の1つであり、彼の代表作として世界的に有名な建造物です。正式名称は、「聖家族贖罪教会」で、1882年3月19日に着工しましたが、いまだに建設途中となっています。なお、バルセロナにあるガウディの他の作品とともに、世界遺産に登録されています。



左から、香野美佐緒氏、千々松英樹氏、宮本義三氏



第42回日本公認会計士協会研究大会福岡大会2021のパンフレットの表紙画像

が決定しました。新型コロナウイルス感染拡大によって社会全体が大きな変化を遂げつつあります。今回の研究大会では、この不確実な時代に公認会計士がSDGsにどのように貢献していけるかを提言したいと考えております。

外尾悦郎氏は福岡のご出身であり、また、彼のキャリアが、多様なステークホルダーと関わりながら案件を進めていく私たちの業務と重なる部

## 不確実な世の中で今できることを全力で進める

### 収容力と動線の条件を満たす会場選定

**香野** 会場はどのような経緯で決定したのかお聞かせください。

**千々松** 当初は参加者の利便性や地域への経済的効果の両面から市街中心部の会場を探しました。しかし、研究大会には1,000人を超える方が訪れることから、キャパシティと交通の便、会場内での良好な導線などの条件を満たす会場が見つからず、中心地から少し離れてはいますが、G20財務大臣首脳会合も開かれた実績のあるヒルトン福岡シーホークに決定いたしました。

### 感染予防という制限の中で

**香野** 記念パーティーのアトラクションなどどのように検討して決定したのですか。

**千々松** 福岡の魅力を肌で感じられるアトラクションを考えていましたが、新型コロナウイルスへの感染予防のためにソーシャルディスタンスの確保などを考慮して公演できる演目を決定しなければなりませんでした。その結果、聴衆との接触が少なく華のあるアトラクションという観点で、精華女子高等学校吹奏楽部の演奏と書道家によるパフォーマンスをお願いしました。全国大

分が多くあるように感じました。公認会計士の将来へ向けた示唆に富むお話を聴かせていただけると考え依頼をいたしました。

### 変化の激しい時代に一石を投じる

**香野** 研究発表では、北部九州会から、「地域発スタートアップ企業と躍動の未来」、「AI時代のヒューマンスキル〜心流マネジメントの進め方」の2テーマが予定されています。これらのテーマはどのように決定されたのでしょうか。

**宮本** 地域に関連するテーマであり、不確実・不安定な世の中に一石を投じるような発表をすべきという実行委員一同の思いからこのテーマに決定しました。福岡は地方都市ながらもIPOを目指す企業が多いことから、新しいイノベーションを起こす「スタートアップ」をテーマといたしました。また、その一方で、変化の激しい時代だからこそ、人と人の結び付きがより一層重要になるとの意見もあり、「ヒューマンスキル」もテーマといたしました。

会や海外のマーケティングコンテストで数々の受賞歴のある本格的な演奏などを楽しんでいただきたいと思います。

### 日々変わる状況で計画する苦労

**香野** コロナ禍におけるエクスクーションの実施となりますが、配慮された点があればお聞かせください。

**宮本** ホテルや運営業者、旅行代理店との調整の中で、移動や食事はもちろん、会場の広さ、人数制限など細部に至るまで検討を重ねてきました。コロナ禍の状況次第で開催できる条件は大きく異なってきますが、今私たちができる最大限のおもてなしをしたいと考えています。

### 新たなイベントの形を確立する

**香野** コロナ禍の影響によって、感染予防の観点からさまざまな検討が必要になったと思います。ご苦労された点について教えてください。

**千々松** 日々変化する状況に合わせて代替案を用意しておかなければならないため、例年の倍以上の労力が必要になっています。実行委員会のミーティングも、コロナ禍後はほとんどオンラインで行うため、1つの物事を決定するのにも時間

がかり、大変苦労しました。

**宮本** 新型コロナウイルス感染拡大前後で、全く異なるパターンの企画を複数検討いたしました。このような状況下でも、北部九州会の事務局職員の方々には少数精鋭で頑張っていたいただいており、大変感謝しています。

前例のない状況で、この研究大会をポストコロナ時代の新たな形として、リアルとオンラインを組み合わせたハイブリッドでつくり上げようという挑戦心が、私たちの大きなモチベーションになっています。

### 数々の困難を原動力に変えて

**香野** 研究大会にかける想いと、開催を通じての地域貢献についてお聞かせください。

**千々松** 会員中心のイベントではありますが、地域を巻き込んで地元を盛り上げたいと思っています。福岡に全国から多くの会員がいらっしやることは、地域を知っていただく大きなチャンスでもあります。コロナ禍の影響でどこまで地域に貢献できるのか不安もございますが、参加者の皆様に満足していただける結果を残したいと思っています。



**宮本** 閉会の際には、運営スタッフ、来場者の方々、そして地域の皆様など、大会にかかわってくださった全ての人に「開催してよかった」、「参加できてよかった」と思ってもらえるような研究大会を目指しております。仮にコロナの状況により、オンライン開催にならざるを得ない状況になったとしても、その困難を、さらによいものをつくろうという原動力に変えて、最後まで力を緩めず万全の準備を進めてまいります。

※本インタビューは2021年6月30日に収録したものです。内容はその当時の情勢を踏まえたものとなっております。

### オンライン開催

第41回研究大会は、2021年9月に札幌において開催が予定されていましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況に配慮し、オンライン形式により開催されました。

## 読者へのメッセージ

### 所属してよかったと思える地域会に

**香野** 地域に貢献している所属会員へメッセージをお願いします。

**千々松** 長年会務に関わってきましたが、会長に就任して改めて思ったのは、北部九州会は、副会長などの幹事を含めた29名の執行部、数多くの委員に就任いただいている会員、そして会員の皆様1人ひとりのお支えがあって運営できているということです。今後も、会員の皆様それぞれが北部九州会に所属していてよかったと思っただけのような地域会を目指してまいります。

### 地域社会とのよりよい関係構築を目指して

**香野** 最後に、ステークホルダーや地域の皆様へメッセージをお願いします。

**千々松** 地域の企業の方々には公認会計士の業務を評価していただけるよう、地域の学生等若い方々には公認会計士が魅力ある職業だと思っただけよう、皆様とよりよい関係を構築していきたいと思っています。



コロナ禍で厳しい状況の中、何かお困りごとがありましたら、お近くの公認会計士へ気軽にご相談ください。皆様のご相談に対して最適なアドバイスをさせていただくことが、私たちの果たす役割であると考えております。今後とも北部九州会へのご支援、ご指導をよろしく願いいたします。

### 日本公認会計士協会北部九州会

〒810-0001 福岡市中央区天神4-2-20 天神幸ビル 5階

所轄のエリア ● 福岡県、佐賀県、長崎県  
会員・準会員数 ● 985名(2021年7月末現在)  
TEL ● 092-715-4317  
FAX ● 092-715-3664  
URL ● <https://n-kyusyu.jicpa.or.jp/>

※上記の会員・準会員数は監査法人を除いた数値です。



# 地域の声に真摯に耳を傾け、 求められる力を提供する

日本公認会計士協会  
南九州会



あらき こうすけ  
日本公認会計士協会南九州会会長 **荒木 幸介**

私たちは監査及び会計の職業的専門家として、監査業務、会計業務、税務業務の知見を活かすとともに、地方公共団体の公職などを通じてさまざまな情報の信頼性を確保することにより、南九州地区の経済の健全な発展と公共の利益に貢献いたします。

具体的には、以下の重点施策に積極的に取り組めます。

1. 会計及び監査のプロフェッションとして、環境変化に即応した知識の修得と更なる会員の資質向上を図るための継続的専門研修の充実に努める。

2. 社会の多様なニーズに対応し、地域の活性化に貢献するため、公的・非営利分野への監査の拡大、中小企業支援、税務業務活動の強化等に取り組む。
3. 公認会計士業務に対する地域社会からの適切な理解と十分な信頼を得るため、広報活動に取り組む。
4. ダイバーシティ・ネットワーキングの構築・強化のため、女性会計士活躍促進協議会の活動や組織内会計士等への支援に取り組む。
5. 各重点施策を円滑に推進するため、委員会活動や対外的な交流等に積極的に取り組む。

## 少ない会員数ながらも活力ある地域会を目指す

インタビュー

あらき こうすけ  
日本公認会計士協会南九州会会長 **荒木 幸介**

インタビュー

はっとり まなぶ  
日本公認会計士協会南九州会広報委員会副委員長 **服部 学**

### 4つの県で構成されている南九州会

**服部** 南九州会の持徴、特に会員の状況についてお聞かせください。

**荒木** 南九州会は、熊本県、鹿児島県、大分県、宮崎県の4県で構成されており、会員・準会員数は2021年7月末時点で241名(監査法人を除きます。)です。所属会員の特性は、**大手監査法人に所属している会員を除くと、多くの会員が、税理士登録をして税務業務に従事していることが挙げられます。**税務業務を主な業務とする会員の割合は、他の地域会と比較すると高い状況にあるといえます。

次に、地理的状況として熊本県と鹿児島県以外

は交通の便が非常に悪く、各県間の会員の交流が難しいことが特徴です。南九州会の各県の会員・役員の皆様には、会員数が少なく、また交通の便も悪い中、会務の運営に多大なるご協力をいただき大変感謝いたしております。

南九州会は全国で2番目に会員数の少ない地域会ですので、今後は**首都圏などからの〇ターンやUターンがしやすい環境を整え、若い会員の数を増やしていきたい**と考えています。

### 幅広いフィールドで地域に貢献

**服部** 公認会計士を目指した理由や現在従事されている業務についてお聞かせください。

**荒木** 高校3年生のとき、大学受験を迎えるにあたって読んでいた大学案内のパンフレットに公認会計士が取り上げられていたことが、私の公認会計士との出会いでした。大学卒業後は地元に戻って働きたいと考えていた私にとって、**公認会計士の活躍できるフィールドが幅広く、税理士登録して税理士としても活動できるほか、地元で大いに貢献できることにも魅力を感じた**ことから、公認会計士を志すようになりました。



#### ○税理士登録

公認会計士は、税理士となる資格を有しており、税理士登録を行い、税理士会に入会することにより税理士業務に従事することができます。

#### 〇ターンやUターン

「Iターン」は、出身地で勤務したあと、出身地以外の場所に移住し働くことを意味します。また、「Uターン」は、出身地以外で勤務した後、再び出身地に戻り働くことを意味します。近年、コロナ禍の影響もありターン、Uターンの動きが活発化しています。

公認会計士第二次試験合格後、監査法人の熊本事務所に入所し、その後、税理士登録を行い監査業務と税務業務を兼業してまいりました。2020年6月に地元の監査法人を退職し、現在は税務業務を中心に業務を行っております。

### 地域間（各県間）の交流や活動の活発化が目標

**服部** これまでの会務の経験について教えてください。

**荒木** 私の会務経験は、2007年6月、熊本県部会の県部会長職から始まりました。そして、南九州会の副会長を2期務めた後に、会長に就任いたしました。

南九州会は会員数が少なく、また地域間の交通の便が悪いために、地域会としての活動が制約されることが課題です。将来的に地域間の交流や活動を活発化できるような環境を整備することが会長としての役割であると考えております。

### 子どもに税の大切さを伝える意義

**服部** これまでに行った地域貢献につながる活動について教えてください。

**荒木** 1989年から、**納税貯蓄組合**の組合員となり、納税道義の高揚に関わるさまざまな活動を行ってきました。その活動の中で、中学生の「税についての作文」募集に携わる機会をいただきました。応募された作文の審査を通して、中学生の税に対する純粋な思いに心を打たれることがたびたびあり、小中学生への租税教育の重要性を肌で感じることができました。私が、南九州地区納税貯蓄組合連合会の会長に在任中、熊本県玉名市の中学2年生の作文が内閣総理大臣賞を受賞したことは大変嬉しい思い出です。公認会計士



が南九州地区納税貯蓄組合連合会の会長を務めることは珍しく、とても貴重な経験ができたと思います。

### 積極的な社会貢献活動への取組

**服部** 地域に貢献している会員の活動についてお聞かせください。

**荒木** 近年、南九州地域では、2016年の**熊本地震**、2020年の熊本県南部を中心とした**豪雨災害**など、頻繁に大きな自然災害が発生しています。『会計・監査ジャーナル』別冊第1号で紹介されておりますが、熊本地震後、被災者の方々に対して南阿蘇の「グループ補助金」の申請書作成支援を行い、南阿蘇村から感謝状を授与された会員もいらっしゃいます。このような社会貢献活動に南九州会として積極的に取り組むとともに、社会貢献活動に取り組んでいる会員を支援していきたいと考えております。

#### 納税貯蓄組合

納税貯蓄組合法（昭和26年法律145号）に基づき、納税資金の備蓄による各種税金の円滑な納付を目的として組織された団体です。全国の市町村の商店街や町内会、同業組合、企業等の納税者を構成メンバーとする「単位組合」を基礎単位とし、その上に市町村連合会、所轄税務署単位に地区（署）連合会、さらにこの地区（署）連合会を構成員として、都道府県ごとの連合会が組織されています。

#### 熊本地震

2016年4月14日以降、熊本県と大分県で相次いで発生した地震を指します。震度7や震度6の地震が立て続けに発生し、甚大な被害をもたらしました。

#### 豪雨災害

2020年7月3日から7月31日にかけて、熊本県を中心に九州や中部地方など日本各地で発生した集中豪雨を指します。熊本県を中心に甚大な被害をもたらしました。

#### 農業県

南九州地域は、温暖な気候や十分な日照時間など優れた自然条件を活かした畜産や野菜、お茶などの農業生産が高く、日本の食糧供給基地としての役割を担っています。

## 税務業務を中心に会員を適宜サポート

### インタビュー

日本公認会計士協会南九州会会長

日本公認会計士協会南九州会税務業務委員会委員長

あらき こうすけ  
荒木 幸介  
ひぐち のぶお  
樋口 信夫

### インタビュー

日本公認会計士協会南九州会広報委員会副委員長

はっとり まなぶ  
服部 学

### 南九州会会員の約72%が税理士登録

**服部** 税務業務を行う公認会計士の割合が高い南九州会には、どのような地域特性があるのでしょうか。

**樋口** 南九州会の4県は上場企業が少ない一方、**農業県**であることもあり**農業法人や中小企業**

からの税務業務に対するニーズが高く、会員の約72%が税理士登録をしています。近年は社会福祉法人や医療法人などパブリック分野にまで監査の適用範囲が広がっていますが、監査法人に所属していない公認会計士の多くは、税務業務を中心に活躍しております。



南九州会の役員・委員会メンバーの方々と撮影した集合写真  
 ※一番左が服部 学氏、荒木幸介氏の右側が樋口信夫氏  
 (インタビュー参加者以外のお名前は左から本吉幸雄氏、飯村光敏氏、清家美穂氏)

## 税務業務を円滑に行うための支援

**服部** このような地域特性を踏まえ、南九州会として会員にどのような支援を行っていますか。

**樋口** 南九州会では、各会員が円滑に税務業務に従事できるように、地域特性に合わせた会員の業務支援の充実を念頭に事業計画を策定しております。また、渉外活動にも積極的に取り組んでおり、公認会計士が税理士登録の上、税務業務に従事し税務行政へ貢献していることを熊本国税局長等への表敬訪問時に説明をしてご理解をいただいています。

具体的な会員への業務支援として、税務業務部会と共催で本部の**〇租税相談員**による税務事例研修会や国税局担当官による研修会、本部主催研修会を収録したDVDを利用した研修会を開催するなど、さまざまな形で会員へのフォローアップを行っております。

### 〇租税相談員

日本公認会計士協会では、租税相談室を設け、税務業務に関して高い見識を有する租税相談員が会員からの租税に関する業務の照会及び相談に応じています。

## 行政との連携を通じて地域へ貢献

### 行政機関との良好な関係を構築

**服部** 南九州会における行政との関わりについてお聞かせください。

**樋口** 九州財務局等の関係諸団体との連携を強めることが重要です。そのため南九州会では、九州財務局長、熊本国税局長、熊本国税不服審判所長への表敬訪問を適宜実施しているほか、定期的な意見交換会を行うなど、行政サイドのご意見を伺い親交を深める機会を設けております。

さらに、定期総会での九州財務局長による経済講演や、知事所轄学校法人監査に関連して熊本県の担当官の方を講師とした研修会を実施するなど、会員の業務に役立つ活動を行っています。また、包括外部監査にも多くの会員が携わっているほか、県や市などからさまざまな委員会への委員の推薦依頼を受けており、2020年度の実績で22名の

南九州会の会員が委員に就任しております。

### 女性会員への委員就任依頼が多い

**服部** 自治体からの委員会への委員就任依頼に関して、近年は女性会員への就任依頼が多いとお話も聞いております。こういった理由があるのでしょうか。

**樋口** 南九州会所属の女性会員の中には、個人開業してから毎年途切れることなく委員就任の依頼がある方もいます。自治体が目標に掲げる委員会の女性委員の比率が、20年前の20%から40%にまで上がっていることが背景にあるようです。このような事情を理解した上で、女性公認会計士として、就任した委員会活動に積極的に参加していただけるということです。今後もジェンダー平等の実現の視点がより一層求められるのではないかと思っております。

## 事業承継支援を通じて地域活性化に貢献

### 深刻化する事業承継問題

**服部** 中小企業の多い南九州地区では、経営者の高齢化が進行し、事業承継が喫緊の課題となっています。こうした課題に対して、南九州会では

どのような支援を行っているのでしょうか。

**樋口** 南九州会では、熊本県部会において事業承継支援委員会を発足してこの課題に取り組んでいます。具体的な活動としては、熊本県の商工会連合会への適宜の表敬訪問、定期的な意見交換

の実施が挙げられます。こういった活動の中で、**商工会連合会からの要請で事業承継に関するセミナーを実施**いたしました。このセミナーには、地域金融機関や事業承継支援に関わる公認会計士以外の士業の方々も参加され、セミナーで得た繋がりが、今後の発展に寄与するものと考えています。また、**地方銀行への表敬訪問も行い、地域会として地域金融機関との連携を強化**できるものと考えております。

ほかに、熊本県弁護士会とセミナー後の進捗状況について意見交換する場を設け、事業承継支援に向けた連携について検討を進めております。さらに、**熊本県事業承継・引継ぎ支援センター**との意見交換も実施しており、その中で事業承継に必要な株価評価にかかる業務への協力要請を受けております。

### 今後の地域会としての取組

**服部** 南九州会として、今後、地域にどのように貢献していきたいですか。

**荒木** まず、今お話がありました事業承継の支援をさらに推進することです。**公認会計士は企業価値評価などを適正に行うスキルを有しており、事業承継支援のさまざまなシーンにおいてクライアントのお役に立つことができます。**今後も商工会連合会・地域金融機関・弁護士会などと密に連携し、意見交換会やセミナーなどを継続して実施していきたいと思っています。

次に、IPOを目指す地元企業を発掘し、支援していくことです。IPOを目指すアリースター

## 読者へのメッセージ

**服部** 最後に後進へのメッセージをお願いします。

**荒木** 監査法人を退職して、新たに税理士登録を行い税務業務を始めようとしている若い公認会計士の方へお願いがあります。

現在、法人税申告書や消費税申告書等の税務申告書の構造や記載方法が非常に複雑化してきております。

また、税務申告書はコンピューターで作成しますが、基本データは人が入力しますので、作成された申告書が正確かどうかは人が確認する必要があります。

このような状況において、税務申告の経験の浅い人が作成した税務申告書はどうしても間違いが多くなる傾向にあります。



ジのベンチャー企業を支援することは、地域経済を活性化し、新たな雇用を生み出すことにつながります。

**独立開業間もない若手の公認会計士にとって、事業承継やIPO関連の支援業務に携わるとは、業務の幅を広げるだけでなく、クライアントの拡大による新たな収益確保にもつながります。**さらには、社外監査役や社外取締役役に就任する機会を得る可能性も高まるでしょう。

これらの業務は、クライアントの利益だけにとどまらず、地域経済の活性化や若手の公認会計士のIターンやUターンの促進にも寄与すると考えております。

### 熊本県事業承継・引継ぎ支援センター

「事業承継・引継ぎ支援センター」は、中小企業・小規模事業者の円滑な事業引継ぎを支援するため、法律に基づいて設置されている公的機関です。各県に設置されており、豊富な知識や経験を有する専門家が、事業承継に関するニーズの掘り起こしや、各種課題解決のための情報提供、助言及びマッチング支援を行っています。

**税務業務を始めようとしている若い公認会計士の方には、税務についてしっかり自己学習を行い、さすが公認会計士が作成した税務申告書は正確だと税務当局に信頼していただけるよう研鑽を積んでいただきたい**と思います。

### 日本公認会計士協会南九州会

〒860-0806 熊本市中央区花畑町4番7号 朝日新聞第一生命ビルディング 3階

所轄のエリア ● 熊本県、鹿児島県、大分県、宮崎県  
 会員・準会員数 ● 241名(2021年7月末現在)  
 TEL ● 096-352-3737  
 FAX ● 096-352-3700  
 URL ● <https://s-kyusyuu.jicpa.or.jp/>

※上記の会員・準会員数は監査法人を除いた数値です。



# 教育現場に接して、 沖縄が抱える課題と向き合い 持続可能な就学支援活動を目指す

日本公認会計士協会  
沖縄会



日本公認会計士協会沖縄会会長 かかず のりゆき  
**賀数 紀之**

新型コロナウイルス感染症の新規感染者数の増減に、経済だけでなく、個々人の生活そのものが影響を受けるような状況が続いています。そのような社会状況の中で、我々公認会計士も、環境の変化に合わせて柔軟に対応する必要があることをひしひしと感じております。

公認会計士の独占業務として、独立した立場において監査証明を行う監査業務があります。上場企業等の財務諸表の適正性について意見を出すものですが、その対象は、学校法人、地方公共団体、医療法人、社会福祉法人、農業協同組合等へと広がってきました。これらの監査業務は、監査対象の経営健全化に資するとともに、間接的ではありますが地域活性化の一助とな

っているものと思われます。また、監査以外の領域(税務・コンサルティング・組織内会計士・社外役員等)においても、公認会計士が地域社会に貢献できる場は大きく広がってきております。

沖縄会はまだまだ小さな地域会ですが、若い世代(20代から40代までの割合69%)、女性(女性の割合14%)も継続して増えております。今後とも関係各位のご協力を得ながら、公認会計士が様々な業務に積極的に関わることによって、社会価値の創造及び持続可能な社会の構築に貢献できるよう努めてまいります。今後とも変わらぬご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 多様な業務を支える、会員同士の柔軟な協力体制

インタビュー

日本公認会計士協会沖縄会会長 かかず のりゆき  
**賀数 紀之**

### 皆で助け合う沖縄会のネットワーク

**玉元** 地域や沖縄会の特徴を教えてください。

**賀数** 沖縄県は第3次産業の割合が非常に高く、観光サービス主体の産業で成り立っている地域であるといえます。沖縄会では、監査法人に所属する会員は少なく、所属会員の約70%が個人で開業しております。個人開業の会員は、税務業務のみだけではなく、監査、コンサルティング等幅広い分野の業務に従事しています。監査などのチームを組む必要のある業務については、沖縄会のネットワークを活用してメンバーを確保した上で対応しております。

**監査、コンサルティング、社外役員など  
幅広い業務に従事**

**玉元** 現在従事しておられる業務の内容や、これ

インタビュー

日本公認会計士協会沖縄会幹事、広報委員会委員長 たまもと ひろし  
**玉元 宏志**

までのキャリアについてお聞かせください。

**賀数** 一般企業や学校法人、医療法人などの監査業務、公益法人などへのコンサルティング業務のほか、一般企業の社外監査役に就任しております。監査業務については先ほど申し上げたとおり、案件ごとに沖縄会の会員などとチームを組織して取り組んでおります。

### 愛する故郷、沖縄での開業を目指して

**賀数** 県内の大学に進学し、学生生活を満喫していた私が公認会計士の道に進んだのは、進路を模索していた大学3年生のときに、簿記を学ぶ同級生を見て会計に興味を持ったことがきっかけです。父親が自営業を営んでいたこともあり、いずれは愛着のある地元で独立開業できる仕事に挑戦したいという思いもあり、卒業後、公認会計士を目指して、**〇上京**いたしました。

### 〇上京

現在は、講義の受講環境が整備されオンラインで遠隔地から受験予備校の授業を受講することができます。しかし、賀数会長が学生であった時代は対面の授業が主であり、予備校の授業を受講するためには首都圏に移る必要がありました。

公認会計士第二次試験合格後、監査法人の東京事務所に入所し、さまざまな企業の監査業務に従事しました。そしてその監査法人から上場準備企業へ出向した際に、監査とは異なる分野の業務に関心を持ち、多様な経験を積みたいと考えたことから監査法人を退所いたしました。

その後、地元である沖縄に戻り、沖縄に本社を

持つスタートアップ企業に入社し資金調達等の業務に携わりました。そこで歴史や信用のない企業が資金調達する難しさを痛感したことはよい経験であったといえます。そして、監査法人の沖縄事務所の勤務を経て2007年に個人会計事務所を開業し、現在に至っております。

## 業種や立場を超えた関係を活かし、地域の課題に挑む

### 人のつながりを大切にする沖縄の風土

**玉元** 会務にはどのようなきっかけで携わることになったのでしょうか。

**賀数** 会務に携わるきっかけは、周りの先生方からお声がけをいただいたことです。沖縄会は、小規模であったことや「**模合**」と呼ばれる沖縄特有のコミュニティを通じて横のつながりが密であったことから、会務に関わりやすい環境があったと思います。これまでに沖縄会の役員のほか、協会のさまざまな委員会活動などを通じて会務に携わり、多様な方と交流できたことは得難い経験となりました。

### 公認会計士として故郷に貢献できたことが誇り

**玉元** これまでに行ってきた地域貢献につながる活動について教えてください。

**賀数** 私は、日々の業務そのものが地域貢献であると考えています。実感がしにくい部分もありますが、地域の需要に応えしっかりとサービスを提供することは地域貢献につながっていると考えています。

また、公認会計士の専門性を活かし、少しでも地域のお役に立ちたいという思いから、沖縄県私立学校審議会の委員や沖縄科学技術大学院大学発展促進県民会議の監事、沖縄県中小企業再生支援協議会の委員などを務めてまいりました。

以前、地元の自治会で会計担当として関わることがあり、自治会が、代替わりもしている複数の個人が共有名義で持つ土地の所有権を自治会名義に整理するため、地域の先輩方や他の士業の方々と協力して取り組みました。公認会計士の専門性を活かして地域の課題を解決し、故郷に貢献できたことは私の誇りとなっております。

### 小規模な組織ゆえの機動力とネットワークを活用

**玉元** 今後はどのような形で地域へ貢献したいとお考えですか。

**賀数** 私は業務の内外を問わず、自身のスキルが求められる場へ積極的に関わることが、公認会計士の社会的責任であると考えており、これまでどおり地域に貢献をしていきたいと思っています。

また、沖縄会としては、「**模合**」**公認会計士の日**記念講演会やよろず相談会などの活動を継続しながら、SDGsを念頭に新たな領域における地域貢献についても積極的に推進していきたいと思っています。この後にお話する就学支援活動も、正に新たな取組みの一環であるといえます。

また、観光産業が大きな割合を占める沖縄経済は、コロナ禍の影響が大きく非常に厳しい状況にあります。沖縄会ならではの機動力と密なネットワークを活かし、経営が厳しい企業に適時に支援ができる体制を整えていきたいと考えております。

### 模合

グループで一定のお金を出し合い、定期的にそのお金を1人ずつ順番に受け取っていく沖縄ならではの風習を指します。親族や職場、学校等で行われるものから、事業者同士で行われるものまでその形態は多岐にわたっています。模合の発祥は古く、その原型は18世紀以前の琉球王朝の時代にはすでに存在したといわれています。

### 「公認会計士の日」記念講演会

日本公認会計士協会では、1948年7月6日に公認会計士法が公布されたことを記念し、この日を「公認会計士の日」と定め、この日を中心として全国で広報活動を展開しています。この広報活動の一環として、沖縄会では毎年記念講演会を開催しています。



## ○教育に関する ワースト1

沖縄県が集計した「学校基本統計」では、2020年3月に高等学校を卒業した学生の大学進学率は40.8%(男子36.9%、女子44.6%)となっています。前年より1.2ポイント増加していますが、全国平均値である55.8%よりも少ない数値となっています。また、2019年度全国学力テストの小学生の正答率ランキングでは、沖縄県は全国で6位(正答率68.0%)でしたが、中学生の正答率ランキングは全国で最下位(正答率57.0%)となっています(文部科学省 平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査より)。

## ○簿記初級

日本商工会議所及び各地商工会議所が実施する検定試験を指します。簿記初級は簿記初学者向けの入門級であり、簿記の基本原則及び企業の日常業務における実践的な簿記の知識の習得に資する内容となっています。インターネットを介して試験の実施から採点、合否判定までを行う「ネット試験」方式にて試験が実施されています。なお、簿記初級は2017年4月から実施されており、それ以前は簿記4級の試験が実施されていました。

# 沖縄の貧困・教育格差解消に向けたチャレンジ

## インタビュー

NPO法人エンカレッジ理事長

さか はるき  
坂 晴紀  
かかず のりゆき  
賀数 紀之

日本公認会計士協会沖縄会会長

## インタビュー

日本公認会計士協会沖縄会幹事、広報委員会委員長

たまもと ひろし  
玉元 宏志

## 沖縄で深刻化する子どもの貧困・教育格差

**玉元** ここからは、経済的な理由から塾に通うことを断念する子どもたちに無償で学習の機会を提供していただける「NPO法人エンカレッジ」の坂晴紀理事長に、沖縄会と連携した就学支援活動についてお話をうかがいます。はじめに、子どもの貧困率が全国平均の約2倍と高い水準にある沖縄県における子どもの貧困・教育格差の現状や、その要因についてお聞かせください。

**坂** 沖縄県は、進学率や全国学力テストの順位など、**○教育に関するワースト1**が多く、県全体の教育レベルを底上げすることが喫緊の課題であると考えております。**貧困のため十分な教育を受けられないまま社会へ出てしまい、満足いく就職ができず低所得となり、子どもの教育に費やすお金を捻出できないという負の連鎖を断ち切る必要があります。**

家庭の事情や個々の能力など、子どもを取り巻く状況は多種多様であり、**1人ひとりに寄り添う福祉的な要素と教育の両輪で継続的に取り組むことが、課題解決に不可欠だ**と思っております。

## 活動存続を支えた沖縄会前会長の存在

**玉元** 坂理事長が取り組まれている活動の概要やNPO法人立上げの経緯について教えてください。

**坂** NPO法人エンカレッジでは、「子どもたちに希望を持ち続けてもらいたい」との思いから、通塾支援事業として居場所型学習支援教室の運営などを行っております。現在、県内17市町村・27教室の大部分を行政からの受託事業として運営しています。

**経済的な理由で進学を諦める子どもや保護者の苦悩を目の当たりにしたことがきっかけとなり、2008年に活動をスタート**しました。しかし、当時は子どもの貧困という概念が社会で認知されておらず、行政からの支援も期待できない状況でした。そのような中で、企業や行政の方々を紹介して下さったのが、以前から面識のあった沖縄会の田里友治前会長だったのです。**田里前会長等のご協力もあり、沖縄市などへの働きかけが進み行政予算も徐々にいただけるようになり、ここまで活動を継続することができました。**

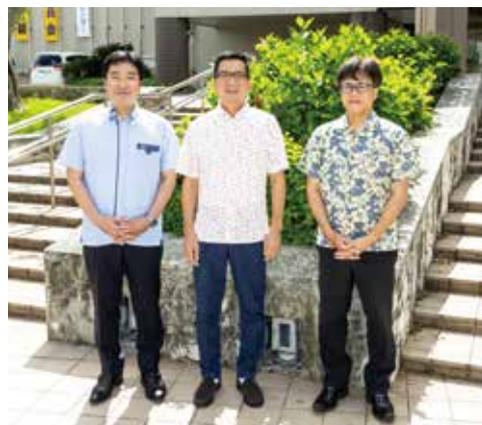
# 沖縄の子どもたちへ、公認会計士としてできること

## 沖縄会会員が講師を務める 簿記初級キャリア講座を実施

**玉元** 沖縄会が就学支援活動に関わるようになった経緯や、活動を通じた手応えなどをお聞かせいただけますか。

**賀数** 沖縄会として活動を支援したいという田里前会長の意向を受け、**当時、広報委員会の委員長であった私がエンカレッジの方々と一緒に企画し、2018年に○簿記初級キャリア講座を実施したことが活動の始まり**です。翌年には田里前会長が講義を担当し、参加された方の中から、簿記初級に合格した方もいらっしゃいました。

こうした活動は、**沖縄会の会員にとっても、子どもの貧困問題を身近にとらえる意義深い機会となりました。**昨年はコロナ禍で活動を自粛せざるを得ませんでしたが、私たちの勉強の場でもあるという想いも強く、今後もぜひ協力していきたいと思っております。



左から、玉元宏志氏、坂 晴紀氏、賀数紀之氏

## 成功体験を通じて子どもの就学を後押し

**玉元** 簿記初級の合格者も出たとのことですが、この講座に参加した子どもたちの反応はいかがでしたか。

**坂** 子どもはもとより、保護者の方や現場の先生方も、子どもが「資格取得」という確かな形で成功体験を得られたことへの喜びは大きく、手応えを感じておられたようです。コロナ禍ということもあり、今後はリモートなどを活用し、より多くの子どもたちに向けてこの活動を展開していきたいと考えております。

**賀数** 受講者の方々に、この講座をきっかけに社会にさまざまなスキルや仕事があることを感じていただきたいと思います。普段子どもたちに何かを教える側にはない沖縄会会員にとって貴重な機会であり、今後も継続していくことが大事であると考えております。

## 社会資源としての公認会計士の役割

**玉元** 子どもの貧困・教育格差問題において、今後、公認会計士に期待することをお聞かせください。

**坂** 当法人が就学支援する子どもは毎年約1,000人、県内の他団体を合わせても2,000人ほどです。一方で沖縄県の子どもの貧困率は29.9%（約8万人から10万人）と、支援の数が圧倒的に不足しているのが現状です。そのため「**プラットフォームとしての学校**」という位置付けの貧困対策の推進が閣議決定もされています。そうした中で、**沖縄会のような士業団体と私たちNPOという学校外の社会資源が学校との連携を強めていくことがより重要になると**考えております。

## 読者へのメッセージ

### 会員一丸となり、皆様の信頼に応えていく

**玉元** 最後に、所属会員やステークホルダー、地域社会に向けてメッセージをお願いいたします。

**賀数** 業務領域の多様化や拡大に伴い、地域社会における公認会計士への期待は今後も高まりをみせると思われます。所属会員の皆様には、**それぞれの得意分野を活かしながら、会員一丸となって地域の期待に応えていただきたいと思っております。**

ステークホルダーの皆様には、日ごろから沖縄会へご支援をいただきありがとうございます。皆



**坂 晴紀氏** NPO法人エンカレッジの理事長として就学援助児童支援に取り組んでいます。2008年から子どもたちが無料で塾に通うことができる「通塾支援」を開始し、2009年からは沖縄県や各市町村より委託を受け、現在では離島を含め、沖縄県内に24か所の「居場所型学習支援教室」の設置と、2か所の「通塾支援事業」を行っています。

また現在、私たちは、多様な士業の方々にもご利用いただける**シェアオフィスと中・高校生の支援教室を兼ねた、新しい形の学習塾の立上げを検討**しております。勉強の合間に働く大人の方々との交流を通じて、**これまでのように寄り添う伴走型ではなく子どもたちが夢や目標を持ち自発的な学びを行えるようになることが目的**です。こうした活動においても沖縄会の皆様にご協力いただければ幸いです。

**賀数** このようなご要望をいただけるのは、これまで継続的に支援に関わってきた沖縄会の姿勢に対する信頼の証であると受け止めております。**今後ともご期待に応えるべく、坂理事長をはじめとした、子どもの貧困・教育格差問題に最前線で取り組む方々とともに、沖縄の将来を担う子どもたちの支援に努めてまいります。**

### プラットフォームとしての学校

2014年に閣議決定された「子供の貧困対策に関する大綱について」において、本用語が政府の公式文書に登場しました。この大綱は、「子どもの貧困対策の推進に関する法律」の制定を受け、具体的な方針や施策を明記したものです。地域に開かれた子どもの貧困対策のプラットフォームとして学校指導・運営体制を構築するとされています。

様から私たち公認会計士へお寄せいただく信頼を肝に銘じ、今後ともご期待に添うべく努力してまいります。

### 日本公認会計士協会沖縄会

〒901-0152 那覇市字小禄1831番地1 沖縄産業支援センター4階416号室

所轄のエリア ● 沖縄県

会員・準会員数 ● 96名(2021年7月末現在)

TEL ● 098-996-3750

FAX ● 098-996-3811

URL ● <https://okinawa.jicpa.or.jp/>

※上記の会員・準会員数は監査法人を除いた数値です。





## BACK MESSAGE

# 編集後記

各地域会の会長が関わってきた地域への貢献やその想いを伝え、特徴的な地域会活動を通じて、公認会計士がどのようなシーンで地域社会と関係を持ち、地域のニーズに対してお役に立つことができるか、また公認会計士を活用いただけるかを示すことを念頭に製作にあたりました。

今回の企画については、新型コロナウイルス感

染症が急拡大したことを踏まえ、県を跨ぐ越境を可能な限り回避し、地域会の各役員や委員がインタビューとなり、地域会会長のリーダーシップのもと地域会内のネットワークを活用して生み出されたことも特徴です。

このコロナ禍において、特に外部の関係者の方々、地域会の役職員等インタビューに関わった全





## 地域とともに歩む 公認会計士

～ 地域社会の未来に向けた課題解決にチャレンジ～

での皆様には多大なるご協力を賜り、この場を借りて厚くお礼申し上げます。

読者の皆様には、本誌を通じて、公認会計士の多様性や可能性、公認会計士が地域社会の一員であることをお感じいただければ、大変うれしく思います。また、会員・準会員の皆様が地域会とつながるきっかけとなり、誌面だけでは伝えきれない

人情味豊かな地域会の会長、役員・委員、会員との出会いがあることを切に願っております。

日本公認会計士協会では、地方創生・地域活性化に資する施策を継続して実施してまいりますので、引き続きのご支援をよろしくお願いいたします。

会計・監査ジャーナル別冊製作関係者一同





**Engage in the Public Interest**

社会に貢献する公認会計士